MITSUBISHI

MELSOFT

Integrated FA Software

GT Simulator2

Version 2

操作マニュアル



SW2D5C-GTWK2-J

● 安全上のご注意 ●

（ご使用前に必ずお読みください）

本製品のご使用に際しては，本マニュアルおよび本マニュアルで紹介している関連マニュアルをよくお読みいただくと共に，安全に対して十分に注意を払って，正しい取扱いをしていただくようお願いいたします。

本マニュアルで示す注意事項は，本製品に関するもののみについて記載したものです。

この●安全上のご注意●では，安全注意事項のランクを「危険」,「注意」として区分してあります。

⚠危険	**取扱いを誤った場合に，危険な状況が起こりえて，死亡または重傷を受ける可能性が想定される場合。**
⚠注意	**取扱いを誤った場合に，危険な状況が起こりえて，中程度の傷害や軽傷を受ける可能性が想定される場合および物的損害だけの発生が想定される場合。**

なお，⚠注意に記載した事項でも，状況によっては重大な事故に結びつく可能性があります。

いずれも重要な内容を記載していますので必ず守ってください。

本マニュアルは必要なときに読めるよう大切に保管すると共に，必ず最終ユーザまでお届けいただくようお願いいたします。

【テスト操作時の注意事項】

⚠注意

● GT Simulator2 は実際の GOT をシミュレーションして，作成した画面などをデバッグするものですが，デバッグ後の GOT の動作およびシーケンサ CPU の動作を保証するものではありません。
GT Simulator2 でデバッグを行った後は，実際の運転を行う前に GOT とシーケンサ CPU を接続して行う通常のデバッグを実行してください。
実機を使用したデバッグを実行しなかった場合，誤出力，誤動作により，事故の恐れがあります。

本ソフトウェアご使用上の注意事項

1. **使用するパソコンのメモリについて**
   パソコンの機種によっては主メモリ 64M バイト以下の場合，Microsoft® Windows® により処理を終了される場合がありますので，主メモリを 64M バイト以上にしてご使用ください。

2. **ハードディスクの空き容量について**
   本ソフトウェア実行中は，ハードディスクの仮想メモリの空き容量が 200M バイト以上必要です。
   GT Simulator2 実行中に空き容量が 200M バイト以上確保できなくなった場合は，Windows® により処理が終了される場合があります。
   ハードディスクの仮想メモリの空き容量を十分確保して使用してください。
   GT Simulator2 を GT Designer2，GX Developer，GX Simulator とあわせてご使用になる場合は，別に空き容量が必要となります。
   GT Designer2，GX Developer，GX Simulator 使用時に必要な空き容量については，下記のマニュアルを参照してください。

   ☞ ・GT Designer2 Version □基本操作・データ転送マニュアル
   ・GX Developer Version □オペレーティングマニュアル（スタートアップ編）
   ・GX Simulator Version □オペレーティングマニュアル

3. **GT Simulator2 と GOT の表示**
   GT Simulator2 の表示は，GOT の表示と異なる場合があります。
   実際の GOT の表示については，GOT 本体にて確認してください。

改 定 履 歴

※ 取扱説明書番号は，本説明書の裏表紙の左下に記載してあります。

印刷日付	※ 取扱説明書番号	改 定 内 容
2005 年 1 月	SH(名)-080543-A	初版印刷
2005 年 7 月	SH(名)-080543-B	GT Designer2 Version2.15R に対応 GT Simulator2 Version2.15R に対応 一部修正 マニュアルについて，本マニュアルで使用する略称，総称， マニュアルの読み方，2.1 節，2.2 節，2.3 節，2.4.1 項，2.4.3 項，2.4.4 項， 3.1 節，3.2 節，3.3.1 項，3.4.2 項，4.1 節，4.2 節，5.2 節，5.3.1 項， 5.3.2 項，5.5 節，6.3 節，6.4 節，6.5 節，8.1 節，付 1.1，付 3 追加 6.6 節
2005 年 9 月	SH(名)-080543-C	GT Designer2 Version2.17T に対応 GT Simulator2 Version2.17T に対応 一部修正 3.1 節，5.3.1 項
2005 年 11 月	SH(名)-080543-D	GT Designer2 Version2.25B に対応 GT Simulator2 Version2.25B に対応 一部修正 本マニュアルで使用する略称，総称，マニュアルの読み方，2.2 節，3.2 節， 3.3.1 項，4.1.2 項，5.3.1 項，6.4 節，付 1.1，付 3 追加 6.7 節
2006 年 3 月	SH(名)-080543-E	GT Designer2 Version2.30G に対応 GT Simulator2 Version2.30G に対応 一部修正 2.2 節，2.3 節，3.1 節，3.2 節，3.3.1 項，3.4.2 項，5.3.1 項，5.3.2 項， 7.2 節，付 3
2006 年 8 月	SH(名)-080543-F	GT Designer2 Version2.40S に対応 GT Simulator2 Version2.40S に対応 一部修正 2.3 節，3.3.1 項，3.4.2 項，5.3.1 項 追加 8.1 節
2007 年 2 月	SH(名)-080543-G	GT Designer2 Version2.55H に対応 GT Simulator2 Version2.55H に対応 一部修正 2.3 節，3.1 節，3.2 節，3.3.1 項，3.4.2 項，5.3.1 項，付 1，付 2，付 3
2007 年 4 月	SH(名)-080543-H	GT Designer2 Version2.60N に対応 GT Simulator2 Version2.60N に対応 一部修正 3.2 節

※ 取扱説明書番号は，本説明書の裏表紙の左下に記載してあります。

印刷日付	※ 取扱説明書番号	改　定　内　容
2007 年 7 月	SH(名)-080543-I	GT Designer2 Version2.66U に対応 GT Simulator2 Version2.66U に対応 一部修正 2.3 節，3.4.2 項
2007 年 10 月	SH(名)-080543-J	GT Designer2 Version2.72A に対応 GT Simulator2 Version2.72A に対応 一部修正 2.2 節，3.2 節
2008 年 1 月	SH(名)-080543-K	GT Designer2 Version2.76E に対応 GT Simulator2 Version2.76E に対応 一部修正 3.2 節，6.2.3 項
2008 年 4 月	SH(名)-080543-L	GT Designer2 Version2.80J に対応 GT Simulator2 Version2.80J に対応 一部修正 2.3 節，2.4.2 項
2008 年 5 月	SH(名)-080543-M	GT Designer2 Version2.81K に対応 GT Simulator2 Version2.81K に対応 一部修正 2.2 節
2008 年 8 月	SH(名)-080543-N	GT Designer2 Version2.87R に対応 GT Simulator2 Version2.87R に対応 一部修正 1 章，1.1 節，2.2 節，2.3 節，2.4.1 項，2.4.2 項，3.1 節，3.2 節，3.3 節， 3.4.1 項，3.4.2 項，4.1.2 項，5.2 節，5.3 節，5.5 節，6.1 節，6.7 節， 8.2 節，付 1，付 1.1，付 3
2008 年 11 月	SH(名)-080543-O	GT Designer2 Version2.91V に対応 GT Simulator2 Version2.91V に対応 一部追加 2.3 節，3.3.1 項，3.10 節，7 章 一部修正 2.2 節，4.1.2 項，6.6 節
2009 年 1 月	SH(名)-080543-P	GT Designer2 Version2.93X に対応 GT Simulator2 Version2.93X に対応 一部追加 2.2 節，2.3 節，3.1 節，3.2 節，5.3.1 項，付 3
2010 年 9 月	SH(名)-080543-Q	一部修正 マニュアルについて

本書によって，工業所有権その他の権利の実施に対する保証，または実施権を許諾するものではありません。また本書の掲載内容の使用により起因する工業所有権上の諸問題については，当社は一切その責任を負うことができません。

© 2005 MITSUBISHI ELECTRIC CORPORATION

はじめに

このたびは，三菱グラフィックオペレーションターミナルをお買い上げいただきまことにありがとうございました。

ご使用前に本書をよくお読みいただき，グラフィックオペレーションターミナルの機能・性能を十分ご理解のうえ，正しくご使用くださるようお願い致します。

目　次

安全上のご注意 ····· A - 1
本ソフトウェアご使用上の注意事項 ····· A - 2
改　定　履　歴 ····· A - 3
はじめに ····· A - 5
目　次 ····· A - 5
マニュアルについて ····· A - 8
本マニュアルで使用する略称，総称 ····· A - 10
マニュアルの読み方 ····· A - 14

1章　概要　1 - 1 ～ 1 - 3

1.1　特長　1 - 2

2章　システム構成　2 - 1 ～ 2 - 17

2.1　システム構成　2 - 1
2.2　動作環境　2 - 3
2.3　シミュレートできるシーケンサ CPU　2 - 5
2.4　接続ケーブル　2 - 9
2.4.1　QCPU，モーションコントローラ CPU(Q シリーズ) と接続時 ····· 2 - 9
2.4.2　QnACPU，ACPU，モーションコントローラ CPU(A シリーズ)，FXCPU と接続時 ····· 2 - 11
2.4.3　MELDAS C6/C64 と接続時 ····· 2 - 16
2.4.4　オムロン社製シーケンサと接続時 ····· 2 - 17

3章　仕様　3 - 1 ～ 3 - 38

3.1　シミュレートできる GOT　3 - 1
3.2　シミュレートできない機能　3 - 3
3.3　注意事項　3 - 10
3.3.1　GT Simulator2 を使用時の注意事項 ····· 3 - 10
3.3.2　GX Simulator と接続時の注意事項 ····· 3 - 16
3.3.3　シーケンサ CPU と接続時の注意事項 ····· 3 - 17
3.4　シミュレートできるデバイス範囲　3 - 18
3.4.1　シーケンサ CPU と接続時 ····· 3 - 18
3.4.2　GX Simulator と接続時 ····· 3 - 19

4章　GT Simulator2の画面構成　4 - 1 ～ 4 - 6

4.1　画面構成と基本操作　4 - 1
4.1.1　画面構成 ····4 - 1
4.1.2　基本操作 ····4 - 2
4.2　メニューバー　4 - 3
4.3　ツールバー　4 - 4
4.4　ヘルプの使い方　4 - 5

5章　GT Simulator2の操作方法　5 - 1 ～ 5 - 24

5.1　操作手順　5 - 1
5.2　GT Simulator2を起動する　5 - 3
5.3　オプションを設定する　5 - 4
5.3.1　設定項目（GOT1000シリーズ(GT16/GT15/GT11)シミュレータ)····5 - 5
5.3.2　設定項目（GOT-A900シリーズシミュレータ)···· 5 - 10
5.4　シミュレートを実行する　5 - 15
5.5　プロジェクトを開く　5 - 17
5.6　モニタデータの読出しを設定する（GOT-A900シリーズシミュレータ）　5 - 19
5.7　シミュレート時の操作　5 - 23
5.8　GT Simulator2を終了する　5 - 24

6章　GT Simulator2の機能　6 - 1 ～ 6 - 10

6.1　スナップショット　6 - 1
6.2　印刷　6 - 2
6.2.1　印刷をする ····6 - 2
6.2.2　印刷プレビューをする ····6 - 3
6.2.3　ページ設定をする ····6 - 4
6.2.4　プリンタの設定をする ····6 - 4
6.3　プロパティ　6 - 5
6.4　システムアラーム　6 - 6
6.5　スクリプトエラー　6 - 7
6.6　オブジェクトスクリプトエラー　6 - 8
6.7　全画面表示機能（GT16**-X，GT15**-Xのみ）　6 - 9

7章　デバイスモニタ　7 - 1 ～ 7 - 20

7.1　概要　7 - 1
7.2　注意事項　7 - 2
7.3　デバイスモニタの画面構成　7 - 3
7.3.1　画面構成と各種ツール ····7 - 3
7.3.2　メニューバー ····7 - 4
7.3.3　ツールバー ····7 - 5
7.3.4　デバイスモニタ画面 ····7 - 6

7.3.5 ステータスバー ····· 7 - 8
7.4 デバイスモニタの操作方法 7 - 9
7.4.1 デバイスモニタを起動する ····· 7 - 10
7.4.2 モニタを停止して再開する ····· 7 - 11
7.4.3 デバイスモニタを終了する ····· 7 - 11
7.5 デバイスモニタの機能 7 - 12
7.5.1 データをソートする ····· 7 - 12
7.5.2 デバイス値をテストする ····· 7 - 13
7.5.3 デバイスを登録／削除する（自由登録）····· 7 - 14
7.5.4 画面を重ねて／並べて表示する ····· 7 - 15
7.5.5 デバイスモニタ画面を変更する ····· 7 - 16
7.6 表示の設定をする 7 - 17
7.6.1 設定項目 ····· 7 - 17

8章 トラブルシューティング 8 - 1 ～ 8 - 11

8.1 ファイル保存に関するトラブルシューティング 8 - 1
8.2 エラーメッセージ（GOT1000 シリーズ (GT16/GT15/GT11) シミュレータ） 8 - 2
8.3 エラーメッセージ（GOT-A900 シリーズシミュレータ） 8 - 7

付 録 付 - 1 ～ 付 - 10

付 1 GT Simulator2 の使用例 付 - 1
付 1.1 サンプルプロジェクトデータをシミュレートする ····· 付 - 2
付 2 使用するプロジェクトデータについて 付 - 9
付 3 GT Simulator2 のバージョンアップによる追加機能一覧 付 - 10

索 引 索引 - 1 ～ 索引 - 2

マニュアルについて

本製品に関連するマニュアルには，下記のものがあります。
必要に応じて本表を参考にしてご依頼ください。

関連マニュアル

マニュアル名称	マニュアル番号（形名コード）	標準価格
GT16 本体取扱説明書（ハードウェア詳細編） GT16 本体の各部名称，外形寸法，取付け，電源配線，仕様およびオプション機器の紹介などハードウェアに関する内容を説明 （別　売）*1	SH-080923 （1D7MD1）	￥3,000
GT16 本体取扱説明書（基本ユーティリティ編） GT16 本体の画面表示の設定，操作方法の設定，プログラム / データ管理，自己診断などユーティリティに関する内容を説明 （別　売）*1	SH-080924 （1D7MD2）	￥3,000
GT15 本体取扱説明書 GT15 本体の各部名称，外形寸法，取付け，電源配線，仕様およびオプション機器の紹介などハードウェアに関する内容を説明 （別　売）*1	SH-080507 （1D7M12）	￥3,000
GT11 本体取扱説明書 GT11 本体の各部名称，外形寸法，取付け，電源配線，仕様およびオプション機器の紹介などハードウェアに関する内容を説明 （別　売）	JY997D15001 （09R814）	￥2,400
ハンディ GOT　本体取扱説明書 ハンディ GOT の各部名称，外形寸法，配線，仕様およびオプション機器の紹介などハードウェアに関する内容と，ユーティリティ，システム構成，ケーブルの作成方法などを説明 （別　売）	JY997D18901 （09R816）	￥3,000
GT SoftGOT1000 操作マニュアル GT SoftGOT1000 の画面構成，機能，使用方法などを説明 （別　売）	SH-080598 （1D7M46）	￥3,000
GT Designer2 Version2 基本操作・データ転送マニュアル（GOT1000 シリーズ対応） GT Designer2 のインストール操作，作画のための基本操作や GOT1000 シリーズへのデータ転送方法などについて説明 （別　売）*1	SH-080508 （1D7M13）	￥3,000
GT Designer2 Version2 画面設計マニュアル（GOT1000 シリーズ対応）1/3 GT Designer2 Version2 画面設計マニュアル（GOT1000 シリーズ対応）2/3 GT Designer2 Version2 画面設計マニュアル（GOT1000 シリーズ対応）3/3 GOT1000 シリーズで使用する各オブジェクト機能の仕様や設定内容などについて説明 （別　売）*1	SH-080509 （1D7M14）	￥7,000 （1/3 ～ 3/3 のセット価格です。）
GOT1000 シリーズ接続マニュアル 1/3 GOT1000 シリーズ接続マニュアル 2/3 GOT1000 シリーズ接続マニュアル 3/3 GOT1000 シリーズで使用できる接続形態のシステム構成，ケーブルの作成方法などを説明 （別　売）*1	SH-080511 （1D7M15）	￥3,000 （1/3 ～ 3/3 のセット価格です。）

（次のページへつづく）

マニュアル名称	マニュアル番号 (形名コード)	標準価格
GOT1000 シリーズ拡張機能・オプション機能マニュアル GOT1000 シリーズで使用できる拡張機能・オプション機能について説明 (別　売) * 1	SH-080541 (1D7M35)	¥3,000
GT Works2 Version2 ／ GT Designer2 Version2 オペレーティングマニュアル (スタートアップ・入門編) GT Designer2 のインストール方法，初めて GOT900 シリーズを使用する向けの作画方法について説明 (別　売) * 1	SH-080513 (1D7M17)	¥1,500
GT Designer2 Version2 リファレンスマニュアル GOT900 シリーズで使用する各オブジェクト機能の仕様，設定などについて説明 (別　売) * 1	SH-080515 (1D7M19)	¥4,000
GOT-A900 シリーズオペレーティングマニュアル (GT Works2 Version2 ／ GT Designer2 Version2 対応 拡張機能・オプション機能編) GOT-A900 シリーズで使用できる下記の拡張機能・オプション機能について説明 ・ユーティリティ　・回路モニタ　・システムモニタ ・特殊ユニットモニタ　・ネットワークモニタ　・リスト編集 ・モーションモニタ　・サーボアンプモニタ　・CNC モニタ ・かな漢字変換　・文字フォント切換え　・システムダイアログ言語切換え (別　売) * 1	SH-080516 (1D7M20)	¥3,000
GOT-A900 シリーズユーザーズマニュアル (Works2 Version2 ／ GT Designer2 Version2 対応 接続編) GOT-A900 シリーズで使用できる接続形態のシステム構成，ケーブルの作成方法などを説明 (別　売) * 1	SH-080517 (1D7M21)	¥3,000
GX Developer Version 8 オペレーティングマニュアル（スタートアップ編） GX Developer のシステム構成，インストール方法，立上げ方法について説明しています。 (別　売)	SH-080355 (13JV68)	¥1,000
GX Simulator Version 7 オペレーティングマニュアル GX Simulator でのデバイスメモリのモニタ，機械側の動作をシミュレーションするための設定，操作方法について説明しています。 (別　売)	SH-080467 (13JV82)	¥3,000

* 1 GT Works2，GT Designer2 の製品に PDF で格納されています。

本マニュアルで使用する略称，総称

本マニュアルの説明で使用している略称，総称を下記に示します。

■ GOT

略称／総称			内容
GOT1000シリーズ	GT SoftGOT1000		GT SoftGOT1000 の略称
	GT1695	GT1695M-X	GT1695M-XTBA，GT1695M-XTBD の略称
	GT1685	GT1685M-S	GT1685M-STBA，GT1685M-STBD の略称
	GT1675	GT1675M-S	GT1675M-STBA，GT1675M-STBD の略称
		GT1675M-V	GT1675M-VTBA，GT1675M-VTBD の略称
	GT1665	GT1665M-S	GT1665M-STBA，GT1665M-STBD の略称
		GT1665M-V	GT1665M-VTBA，GT1665M-VTBD の略称
	GT16 □□，GT16		GT1695，GT1685，GT1675，GT1665 の略称
	GT1595	GT1595-X	GT1595-XTBA，GT1595-XTBD の略称
	GT1585	GT1585V-S	GT1585V-STBA，GT1585V-STBD の略称
		GT1585-S	GT1585-STBA，GT1585-STBD の略称
	GT157 □	GT1575V-S	GT1575V-STBA，GT1575V-STBD の略称
		GT1575-S	GT1575-STBA，GT1575-STBD の略称
		GT1575-V	GT1575-VTBA，GT1575-VTBD の略称
		GT1575-VN	GT1575-VNBA，GT1575-VNBD の略称
		GT1572-VN	GT1572-VNBA，GT1572-VNBD の略称
	GT156 □	GT1565-V	GT1565-VTBA，GT1565-VTBD の略称
		GT1562-VN	GT1562-VNBA，GT1562-VNBD の略称
	GT155 □	GT1555-V	GT1555-VTBD の略称
		GT1555-Q	GT1555-QTBD，GT1555-QSBD の略称
		GT1550-Q	GT1550-QLBD の略称
	GT15 □□，GT15		GT1595，GT1585，GT157 □，GT156 □，GT155 □の略称
	GT115 □	GT1155-Q	GT1155-QTBDQ，GT1155-QSBDQ，GT1155-QTBDA，GT1155-QSBDA，GT1155-QTBD，GT1155-QSBD の略称
		GT1150-Q	GT1150-QLBDQ，GT1150-QLBDA，GT1150-QLBD の略称
	ハンディGOT	GT1155HS-Q	GT1155HS-QSBD の略称
		GT1150HS-Q	GT1150HS-QLBD の略称
	GT11 □□，GT11		GT115 □，ハンディ GOT の略称
	GT105 □	GT1055-Q	GT1055-QSBD の略称
		GT1050-Q	GT1050-QBBD の略称
	GT104 □	GT1045-Q	GT1045-QSBD の略称
		GT1040-Q	GT1040-QBBD の略称
	GT1030		GT1030-LBD，GT1030-LBD2，GT1030-LBDW，GT1030-LBDW2 の略称
	GT1020		GT1020-LBD，GT1020-LBD2，GT1020-LBL，GT1020-LBDW，GT1020-LBDW2，GT1020-LBLW の略称
	GT10 □□，GT10		GT105 □，GT104 □，GT1030，GT1020 の略称
GOT900 シリーズ			GOT-A900 シリーズ，GOT-F900 シリーズの略称
GOT800 シリーズ			GOT-800 シリーズの略称

■ 通信ユニット

略称／総称	内容
バス接続ユニット	GT15-QBUS, GT15-QBUS2, GT15-ABUS, GT15-ABUS2, GT15-75QBUSL, GT15-75QBUS2L, GT15-75ABUSL, GT15-75ABUS2L
シリアル通信ユニット	GT15-RS2-9P, GT15-RS4-9S, GT15-RS4-TE
RS-422 変換ユニット	GT15-RS2T4-9P, GT15-RS2T4-25P
Ethernet 通信ユニット	GT15-J71E71-100
MELSECNET/H 通信ユニット	GT15-J71LP23－25, GT15-J71BR13
MELSECNET/10 通信ユニット	GT15-75J71LP23-Z[*1], GT15-75J71BR13-Z[*2]
CC-Link IE コントローラネットワーク通信ユニット	GT15-J71GP23-SX
CC-Link 通信ユニット	GT15-J61BT13, GT15-75J61BT13-Z[*3]
CC-Link インタフェースユニット	GT11HS-CCL
拡張インタフェース変換ユニット	GT15-75IF900
シリアルマルチドロップ接続ユニット	GT01-RS4-M
コネクタ変換アダプタ	GT10-9PT5S

*1　A9GT-QJ71LP23 + GT15-75IF900 のセット品
*2　A9GT-QJ71BR13 + GT15-75IF900 のセット品
*3　A8GT-J61BT13 + GT15-75IF900 のセット品

■ オプションユニット

略称／総称		内容
プリンタユニット		GT15-PRN
ビデオ／ RGB ユニット	ビデオ入力ユニット	GT16M-V4, GT15V-75V4
	RGB 入力ユニット	GT16M-R2, GT15V-75R1
	ビデオ／ RGB 入力ユニット	GT16M-V4R1, GT15V-75V4R1
	RGB 出力ユニット	GT16M-ROUT, GT15V-75ROUT
マルチメディアユニット		GT16M-MMR
CF カードユニット		GT15-CFCD
CF カード延長ユニット* [1]		GT15-CFEX-C08SET
外部入出力ユニット		GT15-DIO, GT15-DIOR
音声出力ユニット		GT15-SOUT
指紋認証ユニット		GT15-80FPA

*1　GT15-CFEX + GT15-CFEXIF + GT15-C08CF のセット品

■ オプション

略称／総称		内容			
メモリカード	CF カード	GT05-MEM-16MC, GT05-MEM-32MC, GT05-MEM-64MC, GT05-MEM-128MC, GT05-MEM-256MC, GT05-MEM-512MC, GT05-MEM-1GC, GT05-MEM-2GC			
メモリカードアダプタ		GT05-MEM-ADPC			
オプション機能ボード		GT16-MESB, GT15-FNB, GT15-QFNB, GT15-QFNB16M, GT15-QFNB32M, GT15-QFNB48M, GT11-50FNB, GT15-MESB48M			
バッテリ		GT15-BAT, GT11-50BAT			
保護シート	GT16 用	GT16-90PSCB, GT16-90PSGB, GT16-90PSCW, GT16-90PSGW, GT16-80PSCB, GT16-80PSGB, GT16-80PSCW, GT16-80PSGW, GT16-70PSCB, GT16-70PSGB, GT16-70PSCW, GT16-70PSGW, GT16-60PSCB, GT16-60PSGB, GT16-60PSCW, GT16-60PSGW			
	GT15 用	GT15-90PSCB, GT15-90PSGB, GT15-90PSCW, GT15-90PSGW, GT15-80PSCB, GT15-80PSGB, GT15-80PSCW, GT15-80PSGW, GT15-70PSCB, GT15-70PSGB, GT15-70PSCW, GT15-70PSGW, GT15-60PSCB, GT15-60PSGB, GT15-60PSCW, GT15-60PSGW, GT15-50PSCB, GT15-50PSGB, GT15-50PSCW, GT15-50PSGW			
	GT11 用	GT11-50PSCB, GT11-50PSGB, GT11-50PSCW, GT11-50PSGW, GT11H-50PSC			
	GT10 用	GT10-50PSCB, GT10-50PSGB, GT10-50PSCW, GT10-50PSGW, GT10-40PSCB, GT10-40PSGB, GT10-40PSCW, GT10-40PSGW, GT10-30PSCB, GT10-30PSGB, GT10-30PSCW, GT10-30PSGW, GT10-20PSCB, GT10-20PSGB, GT10-20PSCW, GT10-20PSGW			
耐油カバー		GT05-90PCO, GT05-80PCO, GT05-70PCO, GT05-60PCO, GT05-50PCO			
USB 耐環境カバー		GT16-UCOV, GT15-UCOV, GT11-50UCOV			
スタンド		GT15-90STAND, GT15-80STAND, GT15-70STAND, A9GT-50STAND, GT05-50STAND			
アタッチメント		GT15-70ATT-98, GT15-70ATT-87, GT15-60ATT-97, GT15-60ATT-96, GT15-60ATT-87, GT15-60ATT-77, GT15-50ATT-95W, GT15-50ATT-85			
バックライト		GT16-90XLTT, GT16-80SLTT, GT15-90XLTT, GT15-80SLTT, GT16-70SLTT, GT16-70VLTT, GT16-60SLTT, GT16-60VLTT, GT15-70SLTT, GT15-70VLTT, GT15-70VLTN, GT15-60VLTT, GT15-60VLTN			
多色表示ボード		GT15-XHNB, GT15-VHNB			
コネクタ変換ボックス		GT11H-CNB-37S			
非常停止スイッチガードカバー		GT11H-50ESCOV			
メモリローダ		GT10-LDR			
メモリボード		GT10-50FMB			

■ ソフトウェア

略称／総称	内容
GT Works2 Version □	SW □ D5C-GTWK2-J, SW □ D5C-GTWK2-JV
GT Designer2 Version □	SW □ D5C-GTD2-J, SW □ D5C-GTD2-JV
GT Designer2	GOT1000/GOT900 シリーズ用画面作成ソフト GT Designer2 の略称
GT Converter2	GOT1000/GOT900 シリーズ用データ変換ソフト GT Converter2 の略称
GT Simulator2	GOT1000/GOT900 シリーズ用スクリーンシミュレータ GT Simulator2 の略称
GT SoftGOT1000	モニタリングソフト GT SoftGOT1000 の略称
GT SoftGOT2	モニタリングソフト GT SoftGOT2 の略称
GX Developer	SW □ D5C-GPPW-J(-JV)/SW □ D5F-GPPW(-V) 形ソフトウェアパッケージの略称

（次のページへつづく）

略称／総称	内容
GX Simulator	SW □ D5C-LLT-J(-JV) 形ラダーロジックテストツール機能ソフトウェアパッケージの略称（SW5D5C-LLT(-V) 以降）
PX Developer	SW □ D5C-FBDQ-J 形計装制御用 FBD ソフトウェアパッケージの略称

■ ライセンスキー（GT SoftGOT1000 用）

略称／総称	内容
ライセンスキー	GT15-SGTKEY-U,　GT15-SGTKEY-P

■ ライセンスキー（GT SoftGOT2 用）

略称／総称	内容
ライセンスキー	A9GTSOFT-LKEY-P（DOS/V パソコン用）
ライセンスキー FD	SW5D5F-SGLKEY-J（パソコン CPU ユニット用）

■ その他

略称／総称		内容
オムロン社製シーケンサ		オムロン株式会社製シーケンサの略称
キーエンス社製シーケンサ		株式会社キーエンス製シーケンサの略称
光洋電子工業社製シーケンサ		光洋電子工業株式会社製シーケンサの略称
シャープマニファクチャリングシステム社製シーケンサ		シャープマニファクチャリングシステム株式会社製シーケンサの略称
ジェイテクト社製シーケンサ		株式会社 ジェイテクト製シーケンサの略称
東芝社製シーケンサ		株式会社 東芝製シーケンサの略称
東芝機械社製シーケンサ		東芝機械株式会社製シーケンサの略称
日立産機システム社製シーケンサ		株式会社 日立産機システム製シーケンサの略称
日立製作所社製シーケンサ		株式会社 日立製作所製シーケンサの略称
富士電機機器制御社製シーケンサ		富士電機機器制御株式会社製シーケンサの略称
パナソニック電工社製シーケンサ		パナソニック電工株式会社製シーケンサの略称
安川電機社製シーケンサ		株式会社安川電機製シーケンサの略称
横河電機社製シーケンサ		横河電機株式会社製シーケンサの略称
ALLEN-BRADLEY 製シーケンサ		Allen-Bradley（Rockwell Automation, Inc）製シーケンサの略称
GE ファナックオートメーション社製シーケンサ		GE Fanuc Automation Corporation 製シーケンサの略称
LS 産電社製シーケンサ		LS 産電株式会社製シーケンサの略称
SCHNEIDER ELECTRIC 社製シーケンサ		Schneider Electric SA 製シーケンサの略称
SIEMENS 社製シーケンサ		Siemens AG 製シーケンサの略称
温度調節器	オムロン社製温度調節器	オムロン株式会社製温度調節器の略称
	神港テクノス社製指示調節計	神港テクノス株式会社製指示調節計の略称
	チノー社製調節計	株式会社チノー製調節計の略称
	富士電機システムズ社製温度調節器	富士電機システムズ株式会社製温度調節器の略称
	山武社製温度調節器	株式会社 山武製温度調節器の略称
	横河電機社製温度調節器	横河電機株式会社製温度調節器の略称
	理化工業社製温度調節器	理化工業株式会社製温度調節器の略称
パソコン CPU ユニット		株式会社コンテック製パソコン CPU ユニットの略称
GOT（サーバ）		サーバ機能を使用する GOT の略称
GOT（クライアント）		クライアント機能を使用する GOT の略称
Windows ®フォント		Windows ®で使用できる TrueType フォント（GT Designer2 で設定できる TrueType フォントとは異なる），OpenType フォントの略称
インテリジェント機能ユニット		ベースユニットに装着される，シーケンサ CPU，電源ユニット，入出力ユニット以外のユニット
MODBUS ®/TCP		TCP/IP ネットワーク上で，MODBUS ®プロトコルの伝文を使用するためのプロトコルの総称。

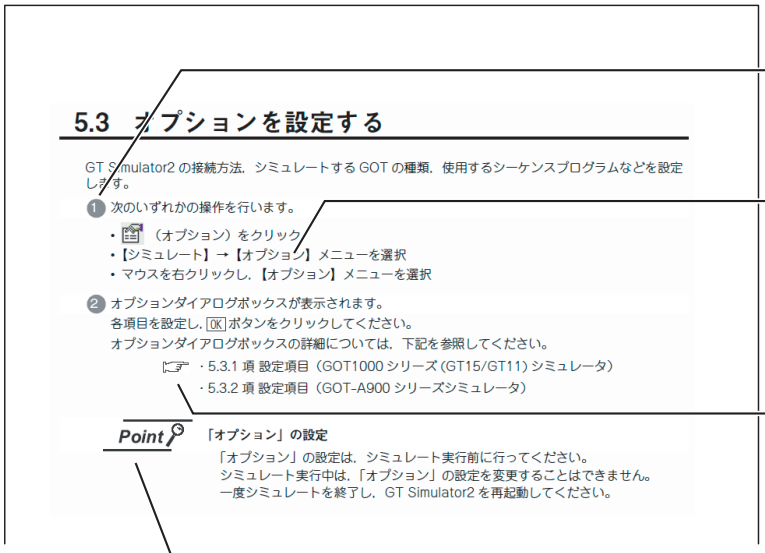
マニュアルの読み方

1 各機能について

本マニュアルは GT Simulator2 Version2.93X の内容について記載しています。
製品のバージョンアップに伴う追加機能については，付録の GT Simulator2 のバージョンアップによる追加機能一覧を参照してください。

2 記号について

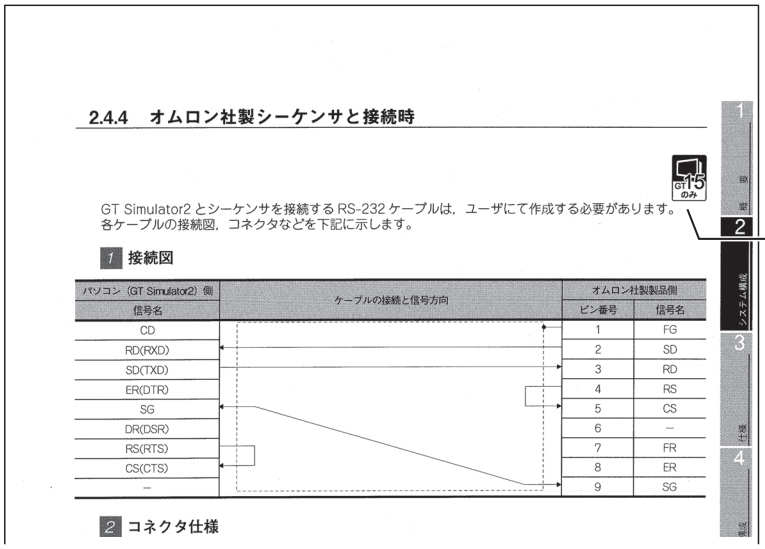
本マニュアルで使用している記号について説明します。



1 → 2 → 3 ・・・・
と操作の流れを表しています。

メニューや項目を括弧で区別して表しています。
【 】：メニューバーから選択するメニュー
「 」：ダイアログボックスの項目や，GOTのユーティリティのメニュー
□：ダイアログボックス内のボタンやパソコンのキーボード

詳細説明を記載している項目（マニュアルや，そのマニュアルの章，節，項）を表しています。



Point 知っておく必要のある内容をPointとして記載しています。

Hint! 知っておくと便利な内容をHintとして記載しています。

備 考 知っておくと参考になる補足的な説明を備考として記載しています。

GT16 のみ 「GOT1000シリーズ(GT16)シミュレータ」のみの設定項目またはサポートしている機能です。

GT15 のみ 「GOT1000シリーズ(GT15)シミュレータ」のみの設定項目またはサポートしている機能です。

GT15 特定のGOTのみの設定可能項目またはサポートしている機能です。
(GT15の場合)

A900 のみ 「GOT-A900シリーズシミュレータ」のみの設定項目またはサポートしている機能です。

GOT1000 のみ 「GOT1000シリーズ(GT16/GT15/GT11)シミュレータ」のみの設定項目またはサポートしている機能です。

＊上記は説明のために作成したページのため，実際のページとは異なります。

1章　概要

本マニュアルは，GOT1000 シリーズ（GT16/GT15/GT11），GOT-A900 シリーズで使用する GT Simulator2 のシステム構成，画面構成，操作方法などについて説明したものです。
GT Simulator2 は，GT Designer2 のプロジェクトデータを使用して，パソコン上で GOT の操作をシミュレートする製品です。
本マニュアルでは，「GOT1000 シリーズ（GT15）シミュレータ」の画面を使用して説明を行います。
（「GOT-A900 シリーズシミュレータ」のみの画面を除く。）

Point

(1) GT Simulator2 のインストール方法

GT Simulator2 のインストール方法については，下記のマニュアルを参照してください。

・GOT1000(GT16/GT15/GT11) シリーズの場合

☞ GT Designer2 Version □基本操作・データ転送マニュアル
（2.2 節 各ソフトウェアのインストール）

・GOT-A900 シリーズの場合

☞ GT Works2 Version □ /GT Designer2 Version □オペレーティングマニュアル（スタートアップ・入門編）

(2) GT Designer2 のプロジェクトデータ作成方法

GT Designer2 のプロジェクトデータ作成方法については，下記のマニュアルを参照してください。

・GOT1000(GT16/GT15/GT11) シリーズの場合

☞ GT Designer2 Version □画面設計マニュアル

・GOT-A900 シリーズの場合

☞ GT Designer2 Version □リファレンスマニュアル

1.1 特長

1 GOT1000 シリーズ（GT16/GT15/GT11），GOT-A900 シリーズのプロジェクトデータのシミュレートをサポート

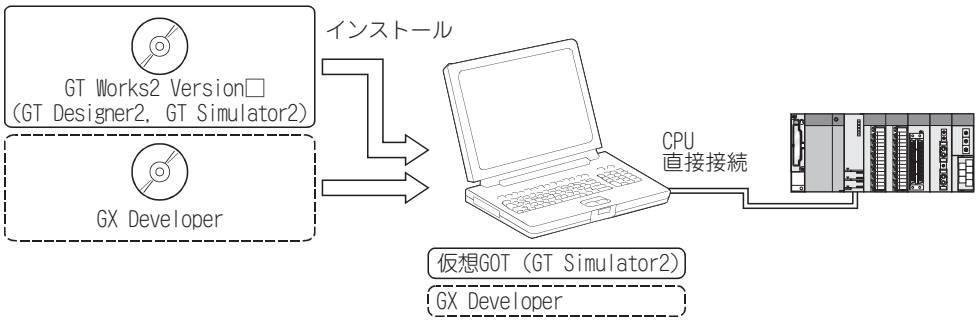
GT Simulator2 は，GOT1000 シリーズ（GT16/GT15/GT11），GOT-A900 シリーズのプロジェクトデータのシミュレートをサポートします。
GT Simulator2 の「メインメニュー」で，GOT1000 シリーズ（GT16/GT15/GT11）用または GOT-A900 シリーズ用シミュレータを選択します。（☞ 5.2 節 GT Simulator2 を起動する）



2 パソコン上で GOT の画面をシミュレート

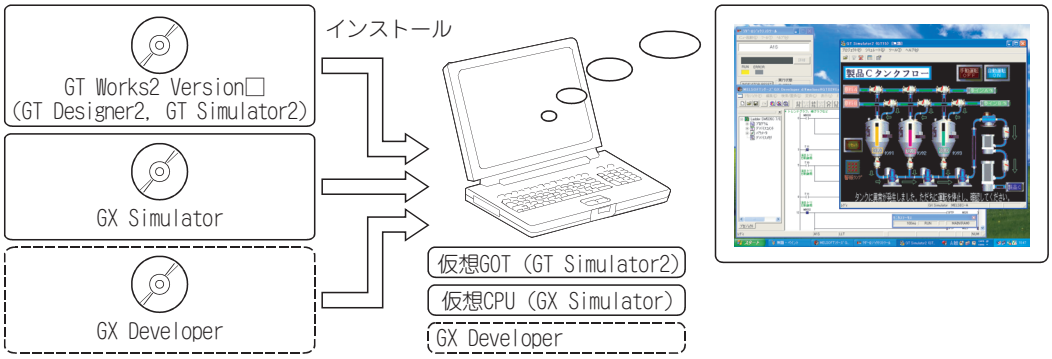
(1) GOT 本体がない環境でのプロジェクトデータのデバックが可能

GT Simulator2 は，GOT の動作をパソコン上でシミュレートすることにより，GOT 本体がない環境でのプロジェクトデータのデバッグが可能です。



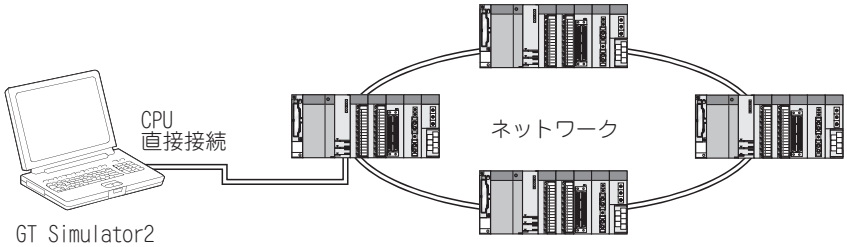
(2) GX Simulator との連携

GT Simulator2 は，GX Simulator との連携による画面デバッグが可能です。
同一パソコン上に，GX Simulator と GT Designer2 をインストールすれば，1 台のパソコンで画面の作成からデバッグまでをサポートします。
GT Designer2 で画面を作成または修正後，すぐに GT Simulator2 でデバックできるので，設計効率が大幅に向上します。



3 インテリジェント機能ユニットやネットワーク対応の動作環境にも対応（シーケンサ CPU と接続時のみ）

GT Simulator2 は，パソコンとシーケンサを CPU 直接接続することで，インテリジェント機能ユニットやネットワーク先のシーケンサのモニタや書込み動作のデバッグが可能です。



備　考

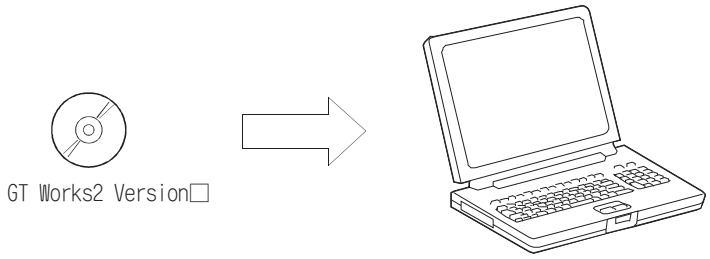
GT Simulator2 とシーケンサを CPU 直接接続した場合のモニタ速度

GT Simulator2 とシーケンサを CPU 直接接続した場合は，GT Simulator2 と GX Simulator を接続した場合よりもモニタ速度が遅くなります。

2章　システム構成

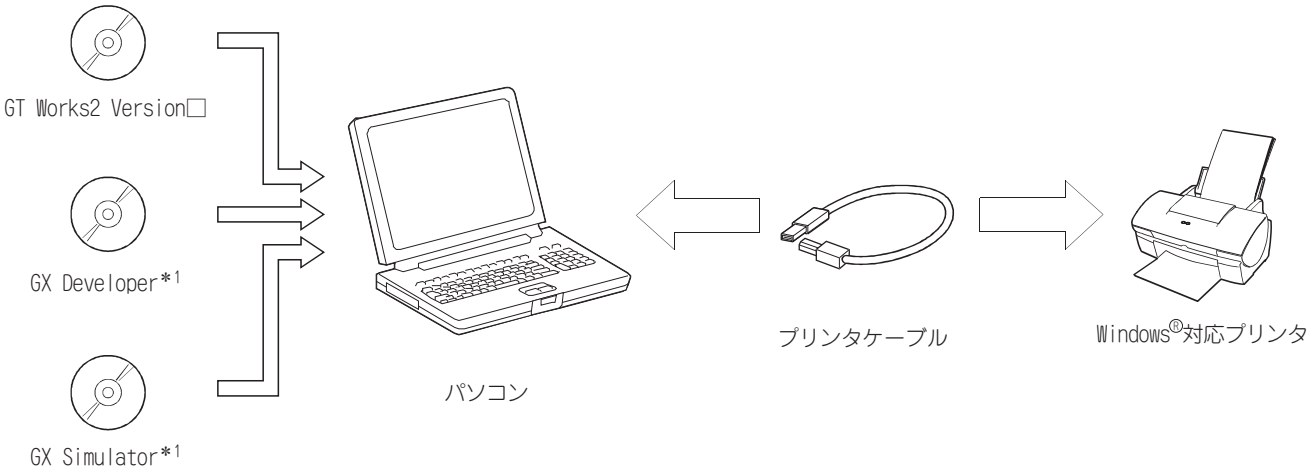
2.1　システム構成

1 GT Simulator2 をインストール時

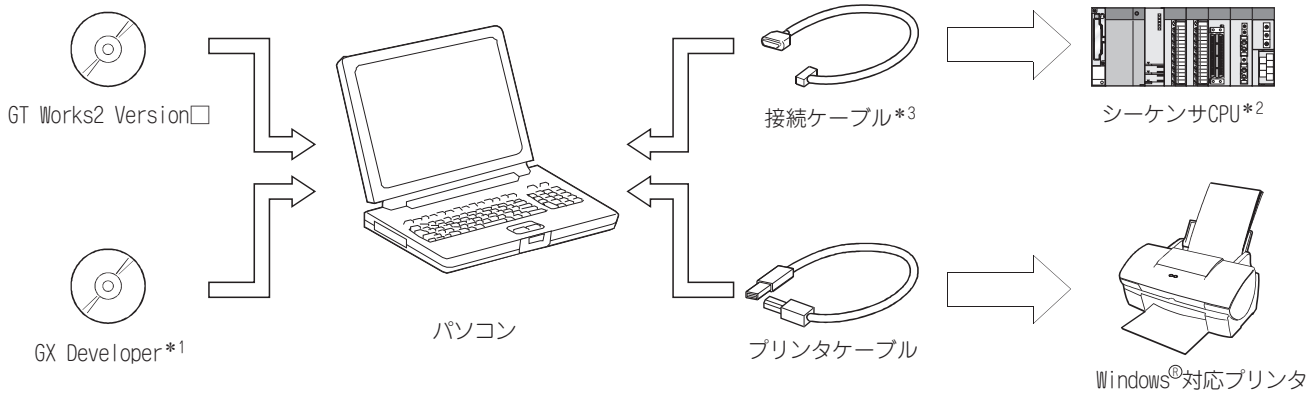


2 GT Simulator2 を実行時

(1) GX Simulator と接続時



(2) シーケンサ CPU と接続時（CPU 直接接続）



＊1 GX Developer，GX Simulator のインストール方法については，下記のマニュアルを参照してください。
☞ GX Developer Version □オペレーティングマニュアル（スタートアップ編）

＊2 シミュレートできるシーケンサ CPU については，下記を参照してください。
☞ 2.3 節 シミュレートできるシーケンサ CPU

＊3 パソコンとシーケンサ CPU を接続するケーブルについては，下記を参照してください。
☞ 2.4 節 接続ケーブル

2.2 動作環境

GT Simulator2 の動作環境を下記に示します。

項　目		内　容
パソコン		Windows® が動作する PC/AT 互換機
OS		Microsoft® Windows® 98 Operating System 日本語版 Microsoft® Windows® Millennium Edition Operating System 日本語版 Microsoft® WindowsNT® Workstation4.0 Operating System Service Pack 3 以降日本語版*2 Microsoft® Windows® 2000 Professional Operating System Service Pack 4 以降日本語版*2 Microsoft® Windows® XP Professional Operating System Service Pack 2 以降日本語版*3*5*8 Microsoft® Windows® XP Home Edition Operating System Service Pack 2 以降日本語版*3*5*8 Microsoft® Windows Vista® Ultimate Operating System 日本語版*4*5*8 Microsoft® Windows Vista® Enterprise Operating System 日本語版*4*5*8 Microsoft® Windows Vista® Business Operating System 日本語版*4*5*8 Microsoft® Windows Vista® Home Premium Operating System 日本語版*4*5*8 Microsoft® Windows Vista® Home Basic Operating System 日本語版*4*5*8
コンピュータ本体		次ページの「使用する基本ソフトウェアとパソコン本体に必要な性能」を参照
	CPU	
	必要メモリ	
ハードディスク空き容量*1		インストール時（製品のみ）　：700MB 以上 インストール時（製品＋マニュアル）：950MB 以上 実行時　：200MB 以上
ディスクドライブ		CD-ROM ディスクドライブ
表示色		・「GOT1000シリーズ（GT16）シミュレータ」の場合 ・「GOT1000シリーズ（GT15）シミュレータ」の場合 65536 色 ・「GOT1000シリーズ（GT11）シミュレータ」の場合 ・「GOT-A900シリーズシミュレータ」の場合 256 色
ディスプレイ		解像度 800×600 ドット以上（全画面表示機能を使用する場合は解像度 1024×768 ドット以上）
ソフトウェア		プロジェクトデータ作成・編集時： ・「GOT1000シリーズ（GT16/GT15/GT11）シミュレータ」の場合 GT Designer2*6 ・「GOT-A900シリーズシミュレータ」の場合 GT Designer または GT Designer2*6
		GX Simulator 使用時：GX Simulator Version 5 以降*7 （次ページの「シーケンサ CPU をシミュレートする GX Simulator のソフトウェアバージョン」を参照）

＊1 GT Designer2，GX Developer，GX Simulator を使用する場合，別に空き容量が必要になります。
GT Designer2，GX Developer，GX Simulator を使用時に必要な空き容量については，下記のマニュアルを参照してください。

☞ ・GT Designer2 Version □基本操作・データ転送マニュアル
・GX Developer Version □オペレーティングマニュアル（スタートアップ編）
・GX Simulator Version □オペレーティングマニュアル

＊2 GT Simulator2 をインストール時，Administrator の権限が必要です。
＊3 GT Simulator2 をインストール時，および使用時に Administrator の権限が必要です。
＊4 GT Simulator2 をインストール時，および使用時に管理者の権限が必要です。
＊5 下記機能は，サポートしていません。
・「互換性モード」・「ユーザの簡易切り換え」
・「デスクトップテーマ（フォント）の変更」・「リモートデスクトップ」

＊6 GT Simulator2 と同じ GT Works2 に入っている GT Designer2 を使用してください。

☞ 3.3.1 項 9 GT Simulator2 のバージョン

＊7 GT Simulator2，GX Developer，GX Simulator は，同一言語に対応した製品を使用してください。

＊8 32 ビット版 OS のみ対応します。

使用する基本ソフトウェアとパソコン本体に必要な性能

基本ソフトウェア	パソコン本体に必要な性能	
	CPU	必要メモリ
Microsoft® Windows® 98 Operating System 日本語版	Pentium® 200MHz 以上	64MB 以上
Microsoft® Windows® Millennium Edition Operating System 日本語版	Pentium® 200MHz 以上	64MB 以上
Microsoft® WindowsNT® Workstation4.0 Operating System 日本語版	Pentium® 200MHz 以上	64MB 以上
Microsoft® Windows® 2000 Professional Operating System 日本語版	Pentium® 200MHz 以上	64MB 以上
Microsoft® Windows® XP Professional Operating System 日本語版 Microsoft® Windows® XP Home Edition Operating System 日本語版	Pentium Ⅱ® 300MHz 以上	128MB 以上
Microsoft® Windows Vista® Ultimate Operating System 日本語版 Microsoft® Windows Vista® Enterprise Operating System 日本語版 Microsoft® Windows Vista® Business Operating System 日本語版 Microsoft® Windows Vista® Home Premium Operating System 日本語版 Microsoft® Windows Vista® Home Basic Operating System 日本語版	800MHz 以上 （推奨 1GHz 以上）	512MB 以上 （推奨 1GB 以上）

Point

Windows® のコントロールパネルの地域設定

Windows® のコントロールパネル内の地域設定を “日本語” 以外に設定した場合，本ソフトウェアは起動しませんので，必ず “日本語” に設定してください。

備　考

シーケンサ CPU をシミュレートする GX Simulator のソフトウェアバージョン

シーケンサ CPU をシミュレートする GX Simulator のソフトウェアバージョンを下記に示します。

シミュレートするシーケンサ CPU	ソフトウェアバージョン
QCPU（A モード），ACPU，モーションコントローラ CPU（A シリーズ）	Version5　A 版以降
QCPU（Q モード）（Q00J/Q00/Q01CPU は除く），QnACPU，FXCPU	Version5　E 版以降
Q00JCPU，Q00CPU，Q01CPU	Version6.00A 以降
Q02PHCPU，Q06PHCPU	Version7.20W 以降
Q12PHCPU，Q25PHCPU	Version6.10L 以降
Q12PRHCPU，Q25PRHCPU	Version6.20W 以降
FX3UC シリーズ	Version7.08J 以降
FX3U シリーズ＊1	
FX3G シリーズ＊1	Version7.22Y 以降
Q00UJCPU，Q00UCPU，Q01UCPU，Q02UCPU，Q03UDCPU，Q04UDHCPU，Q06UDHCPU，Q10UDHCPU，Q13UDHCPU，Q20UDHCPU，Q26UDHCPU，Q03UDECPU，Q04UDEHCPU，Q06UDEHCPU，Q10UDEHCPU，Q13UDEHCPU，Q20UDEHCPU，Q26UDEHCPU	Version7.23Z 以降

＊1 GOT1000 シリーズ（GT16/GT15/GT11）シミュレータのみ対応しています。

2.3 シミュレートできるシーケンサ CPU

1 適応 CPU 一覧

GT Simulator2 でシミュレートできるシーケンサ CPU を下記に示します。

(1) MELSEC シーケンサ

種類			形名				
QCPU	QCPU（Q モード）		Q00JCPU, Q02CPU, Q02PHCPU, Q12PRHCPU, Q00UJCPU, Q03UDCPU, Q20UDHCPU, Q03UDECPU, Q20UDEHCPU,	Q00CPU, Q02HCPU, Q06PHCPU, Q25PRHCPU Q00UCPU, Q04UDHCPU, Q26UDHCPU, Q04UDEHCPU, Q26UDEHCPU	Q01CPU, Q06HCPU, Q12PHCPU, Q01UCPU, Q06UDHCPU, Q06UDEHCPU,	Q12HCPU, Q25PHCPU, Q02UCPU, Q10UDHCPU, Q10UDEHCPU,	Q25HCPU, Q13UDHCPU, Q13UDEHCPU,
	QCPU（A モード）		Q02CPU-A,	Q02HCPU-A,	Q06HCPU-A		
ネットワークユニット			QJ72LP25-25,	QJ72LP25G,	QJ72BR15		
QnACPU	QnACPU タイプ		Q2ACPU, Q4ARCPU	Q2ACPU-S1,	Q3ACPU,	Q4ACPU,	
	QnASCPU タイプ		Q2ASCPU,	Q2ASCPU-S1,	Q2ASHCPU,	Q2ASHCPU-S1	
ACPU	AnCPU タイプ	AnUCPU	A2UCPU,	A2UCPU-S1,	A3UCPU,	A4UCPU	
		AnACPU	A2ACPU,	A2ACPU-S1,	A3ACPU		
		AnNCPU	A1NCPU,	A2NCPU,	A2NCPU-S1,	A3NCPU	
	AnSCPU タイプ	AnUS(H)CPU	A2USCPU,	A2USCPU-S1,	A2USHCPU-S1		
		AnS(H)CPU	A1SCPU, A1SHCPU, A2SHCPU	A1SCPU-S1,	A1SCPUC24-R2,	A2SCPU,	
		A1SJ(H)CPU	A1SJCPU,	A1SJCPU-S3,	A1SJHCPU		
	A1FXCPU		A1FXCPU				
			A0J2HCPU,	A2CCPU,	A2CCPUC24,	A2CJCPU	
モーションコントローラ CPU	Q シリーズ		Q170MCPU *1				
	A シリーズ		A171SHCPU *2, A273UHCPU *3,	A172SHCPU *2, A273UHCPU-S3 *3	A173UHCPU *3,	A173UHCPU-S1 *3,	
FXCPU			FX0 シリーズ, FX1 シリーズ, FX2 シリーズ, FX3UC シリーズ,	FX0N シリーズ, FX1N シリーズ, FX2C シリーズ, FX3U シリーズ,	FX0S シリーズ, FX1NC シリーズ, FX2N シリーズ, FX3G シリーズ	FX1S シリーズ, FX2NC シリーズ,	
MELDAS C6/C64			FCA C6,	FCA C64			

＊1 シーケンサ CPU 部（1 号機）にのみ接続可能です。
＊2 A2SHCPU のデバイス範囲でモニタできます。
＊3 A3UCPU のデバイス範囲でモニタできます。

(2) オムロン社製シーケンサ*1

(a) 対応機種

種　類	形　名		
シーケンサ CPU	CPM2A		
	CQM1,	CQM1H	
	CS1,	CS1D	
	CJ1H,	CJ1G,	CJ1M
	C200Hα シリーズ(C200HX, C200HG)		
	CV500*2,	CV1000*2,	CV2000*2
	CVM1-CPU01*2,	CVM1-CPU11*2,	CVM1-CPU21*2

GOT1000 のみ

*1 CPU 直接接続のみ対応します。
RS-232C アダプタ，接続ケーブル，ベース取付タイプ上位リンクユニット，シリアルコミュニケーションユニット，コミュニケーションボート，シリアルコミュニケーションボードへの接続は，対応しません。

*2 RS-422 通信は，対応しません。(RS-232 通信のみ)

(b) シーケンサ側の設定*3

GT Simulator2 と接続する場合，シーケンサ側は下記のように設定してください。

項　目	設定値
ボーレート	9600bps
データ長	7ビット
ストップビット	2ビット
パリティ	偶数
通信条件フォーマット	個別設定
上位リンク号機 No.	00

*3 シーケンサ側の設定については，下記のマニュアルを参照してください。

・GOT1000 (GT16/GT15/GT11) シリーズの場合

☞ GOT1000 シリーズ接続マニュアル

・GOT-A900 シリーズの場合

☞ GOT-A900 シリーズユーザーズマニュアル（GT Works2 Version □ /GT Designer2 Version □対応 接続編）

2 各接続形態でシミュレートできるシーケンサ CPU

GT Simulator2 の接続形態と，各接続形態でシミュレートできるシーケンサ CPU を下記に示します。

シミュレートするシーケンサ CPU		GOT1000 シリーズ (GT16/GT15/GT11) シミュレータ*7		GOT-A900 シリーズシミュレータ	
		CPU 直接接続	GX Simulator *8	CPU 直接接続	GX Simulator *8
QCPU *1 *2	QCPU（Q モード）	○	○	○	○
	QCPU（A モード）	○	○	○	○
QnACPU *1 *2		○	○	○	○
ACPU *1 *2		○*3	○	○*3	○
モーション コントローラ CPU	Q シリーズ*4	○	○	○	○
	A シリーズ	○	○	○	○
FXCPU		○	○*5	○*5	○*5
MELDAS C6/C64 *1		○	×	○	×
オムロン社製シーケンサ		○*6	△	×	△
キーエンス社製シーケンサ		×	△	×	×
シャープマニファクチャリングシステム社製シーケンサ		×	△	×	△
ジェイテクト社製シーケンサ		×	△	×	×
東芝社製シーケンサ		×	△	×	△
日立産機システム社製シーケンサ		×	△	×	△
日立製作所社製シーケンサ		×	△	×	×
富士電機機器制御社製シーケンサ		×	△	×	×
パナソニック電工社製シーケンサ		×	△	×	△
安川電機社製シーケンサ		×	△	×	△
横河電機社製シーケンサ		×	△	×	×
Allen-Bradley 社製シーケンサ		×	△	×	△
SIEMENS 社製シーケンサ		×	△	×	△
オムロン社製温度調節器		×	×	×	×
神港テクノス社製指示調節計		×	×	×	×
チノー社製調節計		×	×	×	×
富士電機システムズ社製温度調節器		×	×	×	×
山武社製温度調節器		×	×	×	×
横河電機社製温度調節器		×	×	×	×
理化工業社製温度調節器		×	×	×	×
インバータ		×	×	×	×
マイコン		×	×	×	×
サーボアンプ		×	×	×	×

○：シミュレート可能（GOT のデバイス範囲と同じ）
△：シミュレート可能（デバイス範囲に制約あり）
×：シミュレート不可

＊1 他局をシミュレートする場合
CPU 直接接続時　：ネットワーク先の他局をシミュレートできます。
GX Simulator 時　：他局シミュレートできません。（自局デバイスとしてシミュレートします。）

＊2 他局シミュレートできる範囲を下記に示します。

GT Simulator2 接続先シーケンサ CPU（自局）	他局		
	QCPU（Q モード）	QnACPU	ACPU，QCPU（A モード）
QCPU（Q モード）	○	○	○
QnACPU	×	○	×
ACPU，QCPU（A モード）	×	×	○

○：シミュレート可能　×：シミュレート不可

＊3 AnNCPU(S1)，A2SCPU，A0J2HCPU，A2CCPU をシミュレートする場合は，下記ソフトウェアバージョン以降のみ書込みできます。
それより前のバージョンでは書込みできません。
・AnNCPU(S1)　：リンク付きはバージョン L 以降，リンクなしはバージョン H 以降
・A2SCPU　：バージョン H 以降
・A0J2HCPU　：バージョン E 以降
・A2CCPU　：バージョン H 以降

＊4 Q170MCPU のシーケンサ CPU 部（1 号機）のみシミュレート可能です。

＊5 GX Developer プロジェクトの「PC タイプ」が「FX3UC」の場合，FX2N シリーズのデバイス範囲でシミュレートできます。

☞ 3.3.2 項 4 PC タイプが「MELSEC-FX」のプロジェクトデータをシミュレートする場合

＊6 デバイスモニタは，使用できません。

＊7 デバイスモニタは，GOT1000 シリーズ（GT16）シミュレータでは使用できません。

＊8 他社製シーケンサをシミュレートする場合，シミュレートできるデバイス範囲は A4UCPU または ACPU のデバイス範囲となります。
詳細は下記を参照してください。

☞ 3.3.2 項 3 PC タイプが他社シーケンサのプロジェクトデータをシミュレートする場合

Point

GT Simulator2 でシミュレートできるデバイス範囲

GT Simulator2 でシミュレートできるデバイス範囲については，下記を参照してください。

☞ 3.4 節 シミュレートできるデバイス範囲

2.4 接続ケーブル

弊社で動作確認した変換器／ケーブルを下記に示します。

備　考

GT Simulator2 で使用する変換器／ケーブル

GT Simulator2 で使用する変換器／ケーブルは，GX Developer で使用している変換器／ケーブルを使用できます。

2.4.1 QCPU，モーションコントローラ CPU(Q シリーズ) と接続時

1 三菱電機 / 三菱電機システムサービス製を使用する場合

(1) RS-232 ケーブルでの接続の場合

(a)「GOT1000 シリーズ (GT16/GT15/GT11) シミュレータ」をご使用のユーザ

システム構成＊1
 GT01-C30R2-6P（三菱電機システムサービス製） （パソコン側 9 ピン D サブコネクタ用）

(b)「GOT-A900 シリーズシミュレータ」をご使用のユーザ

システム構成＊1
 QC30R2（三菱電機製） （パソコン側 9 ピン D サブコネクタ用）

＊1 接続できるモーションコントローラ CPU（Q シリーズ）は Q170MCPU のシーケンサ CPU 部（1 号機）のみです。

(2) USB ケーブルでの接続の場合

GOT1000 シリーズ (GT16/GT15/GT11) シミュレータをご使用のユーザ

・ユニバーサル QCPU 使用時

システム構成
 GT01-C30R2-6P（三菱電機システムサービス製） （パソコン側 USB A タイプ）
 GT01-C30R2-6P（三菱電機システムサービス製） （ パソコン側 USB A タイプ ）

2 エレコム株式会社製を使用する場合 (紹介品)

• USB ケーブルでの接続の場合
GOT1000 シリーズ (GT16/GT15/GT11) シミュレータをご使用のユーザ

(a) ユニバーサル QCPU 使用時

システム構成



USB-M53(3m)
(パソコン側 USB A タイプ)



USB2-30
(パソコン側 USB A タイプ)



AD-USBBFTM5M
(接続機器側 USB miniB タイプ)

(b) ベーシックモデル QCPU，ハイパフォーマンスモデル QCPU，プロセス CPU，二重化 CPU 使用時

システム構成



USB2-30
(パソコン側 USB A タイプ)

3 株式会社アーベル製を使用する場合 (紹介品)

• USB ケーブルでの接続の場合
GOT1000 シリーズ (GT16/GT15/GT11) シミュレータをご使用のユーザ

(a) ユニバーサル QCPU 使用時

システム構成



AU2-30
(パソコン側 USB A タイプ)



AUXUBM5
(接続機器側 USB miniB タイプ)

(b) ベーシックモデル QCPU，ハイパフォーマンスモデル QCPU，プロセス CPU，二重化 CPU 使用時

システム構成



AU2-30
(パソコン側 USB A タイプ)

4 ロアス株式会社製を使用する場合 (紹介品)

• USB ケーブルでの接続の場合
GOT1000 シリーズ (GT16/GT15/GT11) シミュレータをご使用のユーザ
• ユニバーサル QCPU 使用時

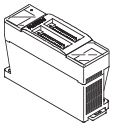
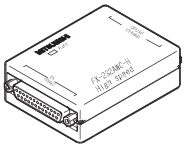
システム構成



ZUM-430

2.4.2 QnACPU，ACPU，モーションコントローラ CPU(A シリーズ)，FXCPU と接続時

1 三菱電機製を使用する場合

パソコン側（RS-232 ケーブル）	RS-232/RS-422 変換器＊3	シーケンサ CPU 側（RS-422 ケーブル）
 F2-232CAB ＊1＊2 （パソコン側 25 ピン D サブコネクタ用）	 FX-232AW	 FX-422CAB(0.3m)，FX-422CAB-150(1.5m) （QnACPU，ACPU，モーションコントローラ CPU(A シリーズ)，FX1/FX2/FX2CCPU と接続時）
 F2-232CAB-1 ＊2 （パソコン側 9 ピン D サブコネクタ用）	 FX-232AWC	
 AC30N2A ＊1 （パソコン側 25 ピン D サブコネクタ用）	 FX-232AWC-H （FX シリーズのみ ）	 FX-422CAB0(1.5m) （FX0/FX0S/FX0N/FX1S/FX1N/FX2N/FX1NC/FX2NC/FX3G/FX3U/FX3UCCPU と接続時）

＊1 DOS/V パソコンに使用する場合は，9 ピン D サブ／ 25 ピン D サブストレート変換ケーブルが別途必要になります。

＊2 QnACPU，ACPU 対応製品の見分け方
ケーブルに付いている形名ラベルの表示方法で確認してください。（未対応品は，使用できません。）

未対応品	対応品（(F/FX/A)の記述あり）
F2-232CAB Y990C***** →	F2-232CAB(F/FX/A) Y990C*****
F2-232CAB-1 Y990C***** →	F2-232CAB-1(F/FX/A) Y990C*****

＊3 FX3UCCPU に FX-232AWC-H を接続した場合は，伝送速度 9600/19200/38400/57600/115200bps が使用できます。
FX-232AWC または FX-232AW を接続した場合は，伝送速度 9600/19200bps のいずれかが使用できます。

(1) 「GOT1000 シリーズ (GT16/GT15/GT11) シミュレータ」をご使用のユーザ

FX1S/FX1N/FX2N/FX1NC/FX2NC/FX3U/FX3UC/FX3GCPU の機能拡張ボードまたは特殊アダプタと接続時に，下記ケーブルを使用できます。

RS-232 ケーブル ＊1＊2
 GT01-C30R2-9S
 GT01-C30R2-25P

＊1　GT01-C30R2-9S が使用可能な接続形態を示します。

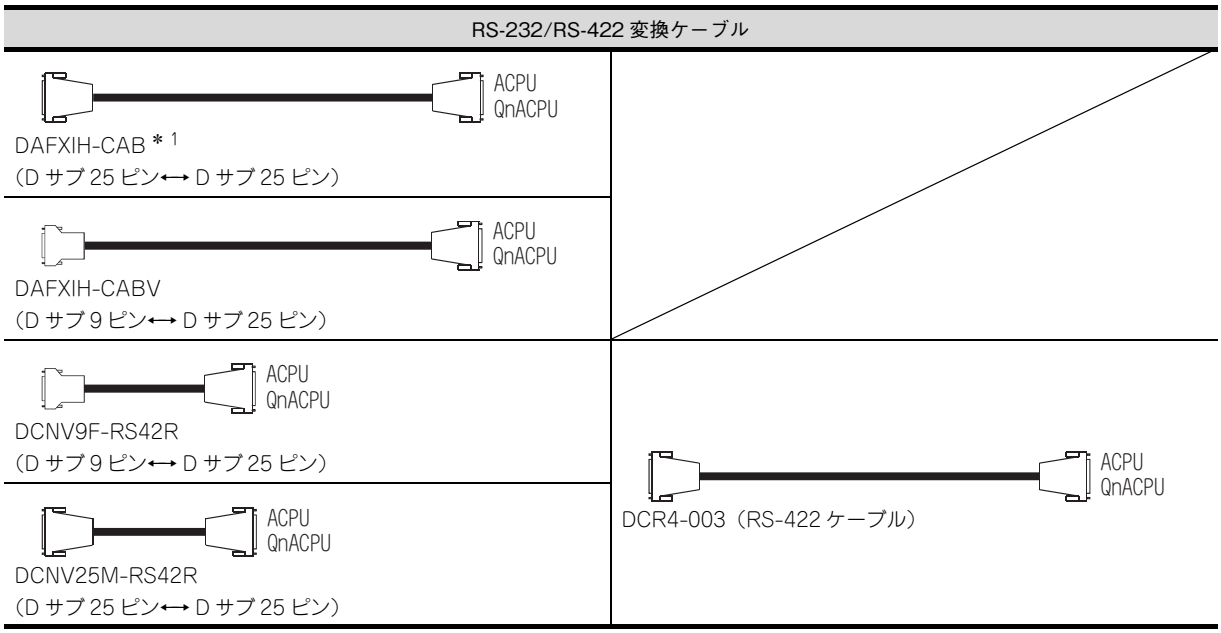
型名	機能拡張ボード	特殊アダプタ	パソコン側のコネクタ
FX3U シリーズ，FX3UC シリーズ（FX3UC-□□-LT）	FX3U-232-BD	－	D サブ 9 ピン
	FX3U-232-BD，FX3U-485-BD，FX3U-422-BD，FX3U-USB-BD，FX3U-CNV-BD	FX3U-232ADP	
FX3UC シリーズ（FX3UC-□□ /D，FX3UC-□□ /DSS）	－		
FX3G シリーズ	FX3G-232-BD	－	D サブ 9 ピン
	FX3G-CNV-BD	FX3U-232ADP	
FX2N シリーズ	FX2N-232-BD	－	D サブ 9 ピン
	FX2N-CNV-BD	FX2NC-232ADP	
FX1NC，FX2NC シリーズ	－	FX2NC-232ADP	D サブ 9 ピン
FX1S，FX1N シリーズ	FX1N-232-BD	－	D サブ 9 ピン
	FX1N-CNV-BD	FX2NC-232ADP	

＊2　GT01-C30R2-25P が使用可能な接続形態を示します。

型名	機能拡張ボード	特殊アダプタ	パソコン側のコネクタ
FX3U シリーズ，FX3UC シリーズ（FX3UC-□□-LT）	FX3U-232-BD	－	D サブ 25 ピン
	FX3U-232-BD，FX3U-485-BD，FX3U-422-BD，FX3U-USB-BD，FX3U-CNV-BD	FX3U-232ADP	
FX3UC シリーズ（FX3UC-□□ /D，FX3UC-□□ /DSS）	－		
FX3G シリーズ	FX3G-232-BD	－	D サブ 25 ピン
	FX3G-CNV-BD	FX3U-232ADP	
FX2N シリーズ	FX2N-CNV-BD	FX0N-232ADP	D サブ 9 ピン
	FX2N-232-BD	－	D サブ 25 ピン
	FX2N-CNV-BD	FX2NC-232ADP	
FX1NC，FX2NC シリーズ	－	FX0N-232ADP	D サブ 9 ピン
	－	FX2NC-232ADP	D サブ 25 ピン
FX1S，FX1N シリーズ	FX1N-CNV-BD	FX0N-232ADP	D サブ 9 ピン
	FX1N-232-BD	－	D サブ 25 ピン
	FX1N-CNV-BD	FX2NC-232ADP	

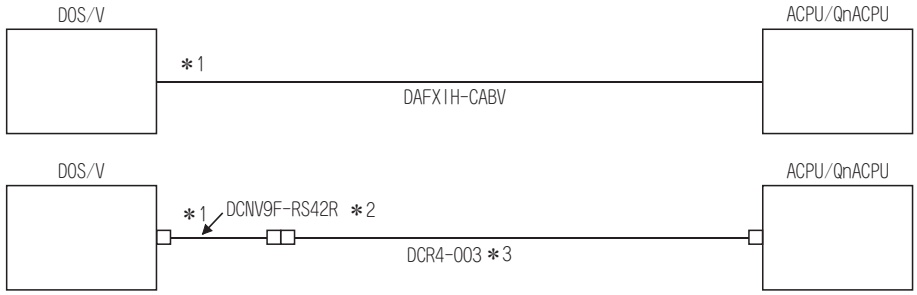
2 ダイヤトレンド株式会社製を使用する場合（紹介品）（FXCPU と接続時を除く）

• ダイヤトレンド株式会社
〒 542-0081　大阪府大阪市中央区南船場 2-2-14
TEL（06）4705-1110　FAX（06）4705-1109



＊1 DOS/V パソコンに使用する場合は，D232V-CAB が別途必要になります。

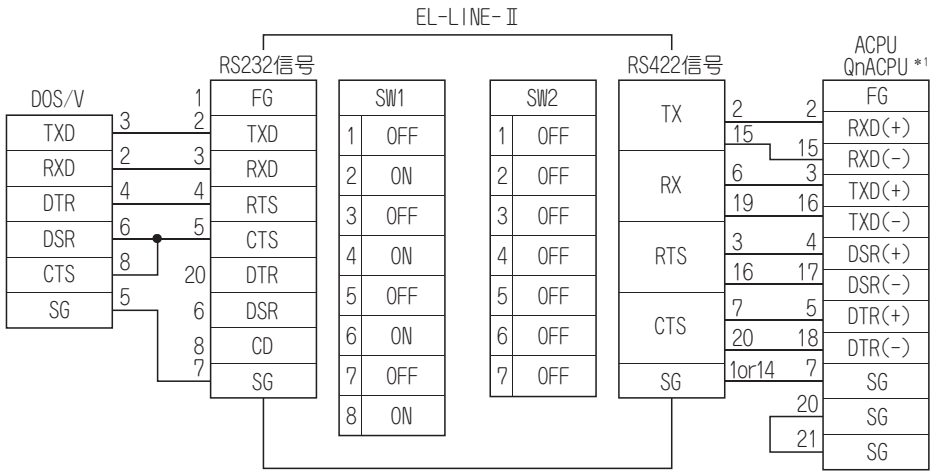
＜ DAFXIH-CABV，DCNV9F-RS42R による DOS/V パソコン⟷ ACPU/QnACPU 間の接続例＞



＊1 上図に示す DOS/V パソコン⟷三菱シーケンサ ACPU/QnACPU 接続用変換ケーブル
DAFXIH-CABV　（9 ピン D サブ⟷ 25 ピン D サブ）
DCNV9F-RS42R　（9 ピン D サブ⟷ 25 ピン D サブ）
＊2 DCNV9F-RS42R を使用する場合は，必ずシーケンサシステムの FG を接地してください。
＊3 DCR4-003（D サブ 25 ピン⟷ D サブ 25 ピン）のケーブル長は，3m 以内で使用してください。

3 有限会社エル・エンジニアリング製を使用する場合

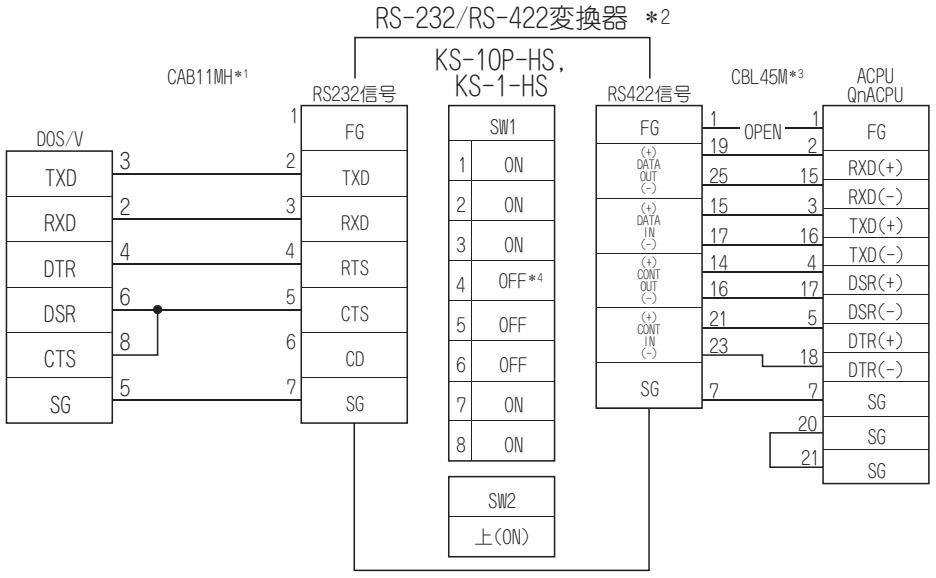
- 有限会社エル・エンジニアリング
  〒 454-0805 愛知県名古屋市中川区船戸町 7 番 16 号
  TEL（052）361-2290　FAX（052）363-1050
- EL-LINE- Ⅱ（ケーブルは，ユーザ作成）
  ＜ EL-LINE- Ⅱによる DOS/V パソコン（9 ピン D サブ）⟷ ACPU/QnACPU 間の接続例＞



＊ 1 ACPU/QnACPU 側に接続するコネクタは，第一電子工業株式会社製 17JE-23250-02 相当品を使用してください。

4 株式会社システムサコム販売製を使用する場合

株式会社システムサコム販売
〒 103-0002　東京都中央区日本橋馬喰町 1-6-6 吉野第二ビル 4F
TEL（03）5623-5933　FAX（03）3660-0891
＜ KS-10P-HS，KS-1-HS による DOS/V パソコン（9 ピン D サブ）⟷ ACPU/QnACPU 間の接続例＞



＊ 1 上図に示す DOS/V パソコン ⟷変換器接続用 RS-232 ケーブル
CAB11MH（9 ピン D サブ ⟷ 25 ピン D サブ）
＊ 2 KS-10P-HS を使用になる場合は，必ずシーケンサシステムの FG を接地してください。
＊ 3 CBL45M のケーブル長は，3m 以内で使用してください。
＊ 4 KS-1-HS の場合，DIP スイッチ SW1-4 は ON にします。

Point

(1) 変換器／ケーブルの仕様や注意事項

変換器／ケーブルの仕様や注意事項については，下記のマニュアルを参照してください。

☞ 各製品のマニュアル

(2) DC5V 電源を受電する変換器／ケーブルを抜き差しする場合

シーケンサ側から DC5V 電源を受電する変換器／ケーブルを抜き差しする場合は，シーケンサ側の電源を OFF してから操作するようにしてください。

(3) DC5V 電源を受電しない変換器／ケーブルを抜き差しする場合

シーケンサ側から DC5V 電源を受電しない（外部電源より受給する）周辺機器，およびケーブルを抜き差しする場合は，下記手順で操作してください。

1. 作業前に必ずアースバンドもしくは接地された金属などに触れて，ケーブルや人体などに帯電している静電気を放電する。
2. パソコン側の電源を OFF する。
3. 変換器の電源を OFF する。
   FG 端子がある場合は接地する。
4. パソコンとシーケンサ間の変換器／ケーブルを抜き差しする。
5. 変換器の電源を ON する。
6. パソコンの電源を ON する。
7. ソフトウェアパッケージを立ち上げる。

2.4.3 MELDAS C6/C64 と接続時

GT Simulator2 と MELDAS C6/C64 を接続する変換ケーブルは，ユーザにて作成する必要があります。
各ケーブルの接続図，コネクタなどを下記に示します。

1 接続図

パソコン（GT Simulator2）側	ケーブルの接続と信号方向	MELDAS C6/C64（TERMINAL）側	
信号名		ピン番号	信号名
GND		1	GND
RD(RXD)		—	
SD(TXD)		—	
GND		—	
DR(DSR)		6	SD(TXD)
CS(CTS)		—	
		11	GND
		16	RD(RXD)
		18	ER(DTR)

2 コネクタ仕様

(1) パソコン側のコネクタ

パソコン側に対応するコネクタを使用してください。

(2) MELDAS C6/C64 側のコネクタ

MELDAS C6/C64 側に対応するコネクタを使用してください。
詳細については，下記のマニュアルを参照してください。

☞ MELDAS C6/C64 のマニュアル

3 ケーブル作成時の注意事項

変換ケーブルの長さは，15m 以内で作成してください。

2.4.4　オムロン社製シーケンサと接続時

GOT1000 のみ

1 三菱電機システムサービス製を使用する場合

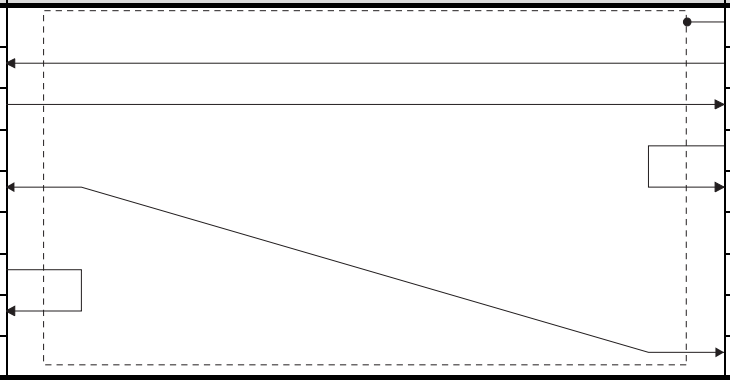
RS-232 ケーブル

GT09-C30R20101-9P（パソコン側 9 ピン D サブコネクタ用）

2 ユーザにて RS-232 ケーブルを作成する場合

各ケーブルの接続図，コネクタなどを下記に示します。

(1)　接続図

パソコン（GT Simulator2）側	ケーブルの接続と信号方向	オムロン社製製品側	
信号名		ピン番号	信号名
CD		1	FG
RD(RXD)		2	SD
SD(TXD)		3	RD
ER(DTR)		4	RS
SG		5	CS
DR(DSR)		6	−
RS(RTS)		7	FR
CS(CTS)		8	ER
−		9	SG

(2)　コネクタ仕様

(a) パソコン側のコネクタ

パソコン側に対応するコネクタを使用してください。

(b) オムロン社製シーケンサ側のコネクタ

オムロン社製シーケンサ側に対応するコネクタを使用してください。
詳細については，下記のマニュアルを参照してください。

☞ オムロン社製シーケンサのマニュアル

(3)　ケーブル作成時の注意事項

RS-232 ケーブルの長さは，15m 以内で作成してください。

3章　仕様

3.1　シミュレートできる GOT

GT Simulator2 でシミュレートできる GOT を下記に示します。
下記以外の GOT は，シミュレートできません。

1 「GOT1000 シリーズ（GT16）シミュレータ」の場合

名　　称	解像度（ドット）	表示色	メモリ容量*1
GT16**-X	1024×768	65536 色	57M バイト
GT16**-S	800×600		
GT16**-V	640×480		

2 「GOT1000 シリーズ（GT15）シミュレータ」の場合

名　　称	解像度（ドット）	表示色	メモリ容量*1
GT15**-X	1024×768	65536 色	57M バイト
GT15**-S	800×600		
GT15**-V*2	640×480		
GT155*-V			
GT15**-Q	320×240		

3 「GOT1000 シリーズ（GT11）シミュレータ」の場合

名　　称	解像度（ドット）	表示色	メモリ容量*1
GT11**-Q*3	320×240	256 色	3M バイト

4 「GOT-A900 シリーズシミュレータ」の場合

名　　称	解像度（ドット）	表示色	メモリ容量*1
GT SoftGOT2	1280×1024	256 色	33M バイト
	1024×768		
	800×600		
	640×480		
A985GOT	800×600		9M バイト
A97*GOT	640×480		
A960GOT	640×480		
A956WGOT	480×234		
A95*GOT*4	320×240		3M バイト

＊1 プロジェクトデータ，オプション機能などを格納する GOT のユーザ領域の容量です。
＊2 GT15** - VN をシミュレートする場合，GT15**-V を選択してください。
＊3 ハンディ GOT のグリップスイッチ，操作スイッチには対応していません。
＊4 A950 ハンディ GOT のグリップスイッチ，操作スイッチには対応していません。

Point

表示色について

実際の GOT は機種により表示色数が異なりますが，GT Simulator2 でシミュレートする場合，すべての GOT が以下の色表示になります。
「GOT1000 シリーズ (GT16) シミュレータ」:65536 色
「GOT1000 シリーズ (GT15) シミュレータ」:65536 色
「GOT1000 シリーズ (GT11) シミュレータ」:256 色
「GOT-A900 シリーズシミュレータ」　　:256 色
実際の GOT の表示色に関しての確認は，GT Designer2 の「プレビュー」で確認してください。

3.2 シミュレートできない機能

GT Simulator2 は，下記に示す機能を使用できません。

1 「GOT1000 シリーズ（GT16）シミュレータ」の場合

機能区分			機能名	
ユーティリティ機能*1	本体機能設定	GOT 本体機能設定	時間に関する設定， 画面掃除， マルチメディアの設定，	トランスペアレントモードの設定， ビデオ・RGB の設定，
		表示に関する設定	スクリーンセーブ時間， バッテリ低下アラーム出力，	スクリーンセーブバックライト， 輝度・コントラスト調整
		操作に関する設定	キー感度， タッチパネル調整，	キー反応速度， タッチ検出モード
		GOT メンテナンス機能	メンテナンス時期通知， GOT 起動時間	積算値リセット，
	接続機器設定		接続機器設定	
	保全機能		保全機能	
	自己診断		自己診断	
	データ管理	各種データ管理	特殊データ情報	
		OS・プロジェクト情報	OS・プロジェクト情報	
拡張機能*2			システムモニタ機能， ビデオ表示*3， マルチメディア機能， 操作パネル機能， CNC データ入出力機能， オペレータ認証（外部認証／指紋認証）	バーコード機能， RGB 表示， 外部入出力機能， バックアップ／リストア機能， RFID 機能，
オプション機能*2			回路モニタ機能*4， FX リスト編集機能*4， ネットワークモニタ機能， サーボアンプモニタ機能， ゲートウェイ機能， SFC モニタ機能，	A リスト編集機能*4， インテリジェントユニットモニタ機能， Q モーションモニタ機能， CNC モニタ機能， MES インタフェース機能， ラダー編集機能
その他			FA トランスペアレント機能， RGB 出力	人感センサ，

＊1 ユーティリティ機能の詳細については，下記のマニュアルを参照してください。

☞ GT16 本体取扱説明書（基本ユーティリティ編）

＊2 拡張機能，オプション機能の詳細については，下記のマニュアルを参照してください。

☞ GOT1000 シリーズ拡張機能・オプション機能マニュアル

＊3 ビデオウィンドウは青色で表示されます。（ビデオ映像は表示されません。）
透過処理をした場合や，オーバーラップウィンドウに表示したビデオウィンドウは表示されません。
また、ビデオウィンドウの解像度は変更できません。（640×480 ドット固定）

＊4 GT Simulator2 と GX Developer を同一パソコン上で使用することで，同等の機能が可能になります。

Point

ユーティリティ機能の「GOT セットアップ」

GT Simulator2 は，「GOT セットアップ」の設定を行えますが，動作しない設定項目があります。
GT Simulator2 での動作可否を下記に示します。

項　目		GT Simulator2 での動作可否
表示の設定	メッセージ表示	○
	タイトル表示時間	○
	スクリーンセーブ時間	×
	スクリーンセーブバックライト	×
	バッテリ低下アラーム出力	×
	輝度・コントラスト調整	×
操作の設定	ブザー音	○*5
	ウィンドウ移動時ブザー音	○*5
	セキュリティ設定	○
	ユーティリティ呼出しキー	○*6
	キー感度	×
	キー反応速度	×
	タッチパネル調整	×
	タッチ検出モード	×
トランスペアレントモードの設定		×

○：動作可 ×：動作不可

＊5 下記基本ソフトウェアを使用時は，ブザー音の「長」／「短」の区別がありません。
同じ長さのブザー音が鳴ります。
・Microsoft® Windows® 98 Operating System 日本語版
・Microsoft® Windows® Millennium Edition Operating System 日本語版

＊6 ユーティリティ呼出しキーを 2 点設定した場合は，どちらか 1 点を押すとユーティリティを表示します。
なお，「押下時間」は，設定しても動作しません。

2 「GOT1000 シリーズ（GT15）シミュレータ」の場合

機能区分	機能名	
ユーティリティ機能*1	接続機器設定, 保全機能・自己診断, プログラム／データ管理*5, 積算値リセット	時計の表示と設定, メンテナンス時期通知, 画面掃除,
拡張機能*2	システムモニタ機能, ビデオ表示*3, 外部入出力機能, バックアップ／リストア機能, RFID 機能,	バーコード機能, RGB 表示, 操作パネル機能, CNC データ入出力機能, オペレータ認証（外部認証／指紋認証）
オプション機能*2	回路モニタ機能*4, FX リスト編集機能*4, ネットワークモニタ機能, サーボアンプモニタ機能, ゲートウェイ機能, SFC モニタ機能,	A リスト編集機能*4, インテリジェントユニットモニタ機能, Q モーションモニタ機能, CNC モニタ機能, MES インタフェース機能, ラダー編集機能
その他	FA トランスペアレント機能, RGB 出力	人感センサ,

＊1 ユーティリティ機能の詳細については，下記のマニュアルを参照してください。

☞ GT15 本体取扱説明書

＊2 拡張機能，オプション機能の詳細については，下記のマニュアルを参照してください。

☞ GOT1000 シリーズ拡張機能・オプション機能マニュアル

＊3 ビデオウィンドウは青色で表示されます。（ビデオ映像は表示されません。）
透過処理をした場合や，オーバーラップウィンドウに表示したビデオウィンドウは表示されません。
また、ビデオウィンドウの解像度は変更できません。（640×480 ドット固定）

＊4 GT Simulator2 と GX Developer を同一パソコン上で使用することで，同等の機能が可能になります。

＊5 拡張機能スイッチを使用することで，ロギング情報，拡張レシピ情報，操作ログ情報，オペレータ情報管理は使用することができます。
拡張機能スイッチの詳細については，下記のマニュアルを参照してください。

☞ GT Designer2 Version □画面設計マニュアル

Point

ユーティリティ機能の「GOT セットアップ」

GT Simulator2 は，「GOT セットアップ」の設定を行えますが，動作しない設定項目があります。
GT Simulator2 での動作可否を下記に示します。

項　目		GT Simulator2 での動作可否
表示の設定	メッセージ表示	○
	タイトル表示時間	○
	スクリーンセーブ時間	×
	スクリーンセーブバックライト	×
	バッテリ低下アラーム出力	×
	輝度・コントラスト調整	×
操作の設定	ブザー音	○* 6
	ウィンドウ移動時ブザー音	○* 6
	セキュリティ設定	○
	ユーティリティ呼出しキー	○* 7
	キー感度	×
	キー反応速度	×
	タッチパネル調整* 8	×
	タッチ検出モード	×
Q/QnA 回路モニタの設定		×
トランスペアレントモードの設定		×
ビデオ・RGB の設定* 9		×
バックアップ / リストア設定		×

○：動作可 ×：動作不可

＊ 6 下記基本ソフトウェアを使用時は，ブザー音の「長」／「短」の区別がありません。
同じ長さのブザー音が鳴ります。
・Microsoft® Windows® 98 Operating System 日本語版
・Microsoft® Windows® Millennium Edition Operating System 日本語版

＊ 7 ユーティリティ呼出しキーを 2 点設定した場合は，どちらか 1 点を押すとユーティリティを表示します。
なお，「押下時間」は，設定しても動作しません。

＊ 8 GT15**-X のみの設定項目です。

＊ 9 GT15**-S のみの設定項目です。

3 「GOT1000 シリーズ（GT11）シミュレータ」の場合

機能区分	機能名	
ユーティリティ機能*1	接続機器設定， プログラム／データ管理， 画面掃除	時計の表示と設定， 保全機能・自己診断，
拡張機能*2	システムモニタ機能， RFID 機能	バーコード機能，
オプション機能*2	A リスト編集機能*3，	FX リスト編集機能*3
その他	FA トランスペアレント機能	

＊1 ユーティリティ機能の詳細については，下記のマニュアルを参照してください。

☞ GT11 本体取扱説明書

＊2 拡張機能，オプション機能の詳細については，下記のマニュアルを参照してください。

☞ GOT1000 シリーズ拡張機能・オプション機能マニュアル）

＊3 GT Simulator2 と GX Developer を同一パソコン上で使用することで，同等の機能が可能になります。

Point

ユーティリティ機能の「GOT セットアップ」

GT Simulator2 は，「GOT セットアップ」の設定を行えますが，動作しない設定項目があります。
GT Simulator2 での動作可否を下記に示します。

項　目		GT Simulator2 での動作可否
表示の設定	メッセージ表示	○
	タイトル表示時間	○
	スクリーンセーブ時間	×
	スクリーンセーブバックライト	×
	バッテリ低下アラーム出力	×
	輝度・コントラスト調整	×
操作の設定	ブザー音	○*4
	ウィンドウ移動時ブザー音	○*4
	セキュリティ設定	○
	ユーティリティ呼出しキー	○*5
	キー感度	×
	キー反応速度	×
ハンディ GOT の設定	グリップスイッチ LED の ON/OFF 動作	×

○：動作可 ×：動作不可

＊4 下記基本ソフトウェアを使用時は，ブザー音の「長」／「短」の区別がありません。
同じ長さのブザー音が鳴ります。
・Microsoft® Windows® 98 Operating System 日本語版
・Microsoft® Windows® Millennium Edition Operating System 日本語版

＊5 ユーティリティ呼出しキーを 2 点設定した場合は，どちらか 1 点を押すとユーティリティを表示します。
なお，「押下時間」は，設定しても動作しません。

4 「GOT-A900 シリーズシミュレータ」の場合

機能区分	機能名	
オブジェクト機能*1	レポート機能*3, テスト機能,	ハードコピー機能*3*4, バーコード機能
ユーティリティ機能	システムモニタ, リスト編集, モーション／ CNC モニタ, サーボアンプモニタ, 画面コピー, 画面掃除, 輝度コントラスト調整	ネットワークモニタ, 回路モニタ, 特殊ユニット, メモリ情報, 時計設定, 自己診断,
拡張機能*2	システムモニタ機能, 操作パネル機能	外部入出力機能,
オプション機能*2	回路モニタ機能*5, リスト編集機能*5, モーションモニタ機能, CNC モニタ機能	特殊ユニットモニタ機能, ネットワークモニタ機能*5, サーボアンプモニタ機能,
その他の機能	トランスペアレント機能, 輝度調整機能, ビデオ /RGB 表示機能*6, 文字フォント切換え機能,	人感センサ機能, 音声機能, ゲートウェイ機能, システムダイアログ言語切換え機能

＊1 オブジェクト機能の詳細については，下記のマニュアルを参照してください。

☞ GT Designer2 Version □リファレンスマニュアル

＊2 拡張機能，オプション機能の詳細については，下記のマニュアルを参照してください。

☞ GOT-A900 シリーズオペレーティングマニュアル
（GT Works2 Version □ /GT Designer2 Version □対応 拡張機能・オプション機能編）

＊3 GT SoftGOT2 をシミュレートする場合は，使用することができます。
（インストール先フォルダ）\GSS2 内の各フォルダにデータで格納されます。
ただし，ハードコピー機能の「白黒反転する」,「書き込み中通知デバイス」,「書き込みエラー通知デバイス」はシミュレートできません。
また，ハードコピー機能に関係するシステム情報はシミュレートできません。

＊4 GT Simulator2 のスナップショット機能，印刷機能を使用することで同等の機能が可能になります。

☞ ・6.1 節 スナップショット
・6.2 節 印刷

＊5 GT Simulator2 と GX Developer を同一パソコン上で使用することで，同等の機能が可能になります。

＊6 ビデオウィンドウは青色で表示されます。（ビデオ映像は表示されません。）
透過処理をした場合や，オーバーラップウィンドウに表示したビデオウィンドウは表示されません。
RGB 画面は表示できません。

Point

(1) ユーティリティ機能の「メインメニュー」の表示

「ユーティリティ呼出キー」の 2 点押しはできません。
「メインメニュー」を表示する場合は，「拡張機能スイッチ（ユーティリティ）」を設定してください。
設定方法については，下記のマニュアルを参照してください。

☞ GT Designer2 Version □リファレンスマニュアル

(2) ユーティリティ機能の「GOT セットアップ」

GT Simulator2 は，「GOT セットアップ」の設定を行えますが，動作しない設定項目があります。
GT Simulator2 での動作可否を下記に示します。

項　目	GT Simulator2 での動作可否
ブザー音	○*1
外付スピーカ音	○
スクリーンセーブ時間	×
スクリーンセーブバックライト	×
メッセージ表示	○

○：動作可 ×：動作不可

＊1 下記基本ソフトウェアを使用時は，ブザー音の「長」／「短」の区別がありません。
同じ長さのブザー音が鳴ります。
・Microsoft® Windows® 98 Operating System 日本語版
・Microsoft® Windows® Millennium Edition Operating System 日本語版

3.3 注意事項

3.3.1 GT Simulator2 を使用時の注意事項

1 GOT-F900 シリーズのプロジェクトデータをシミュレートする場合

GT Designer2 の「GOT タイプ」を GOT-A900 シリーズに変更してシミュレートすることができます。
ただし，GOT-A900 シリーズが対応していない機能は変換できません。
「GOT タイプ」を変更する場合は，必ずデータのバックアップを行ってください。
「GOT タイプ」変更時に未対応の機能が変換されず，再び「GOT タイプ」を GOT-F900 シリーズに変更した場合に機能が正しく変換されない場合があります。

2 表示形式が縦型のプロジェクトデータをシミュレートする場合

GT11 では表示形式の選択できますが，表示形式が縦型のプロジェクトデータはシミュレートできません。
GT Designer2 の「GOT タイプ」を GT16/GT15 に変更してシミュレートしてください。
ただし，GT16/GT15 が対応していない機能は変換できません。
「GOT タイプ」を変更する場合は，必ずデータのバックアップを行ってください。
「GOT タイプ」変更時に未対応の機能が変換されず，再び「GOT タイプ」を GT11 に変更した場合に正しく変換されない場合があります。

3 GT Simulator2 と GOT の表示

GT Simulator2 の表示は，GOT の表示と異なる場合があります。
実際の GOT の表示については，GOT 本体にて確認してください。

4 数値表示

「数値表示」の「表示形式」を「実数」に選択時に不正な数値が格納された場合は，GT Simulator2 には，不正な数値が表示されます。（GOT は，「non」と表示します。）

5 時計の表示

GT Simulator2 シミュレート時の時計表示は，パソコンの時計データを使用します。
（GOT は，シーケンサ CPU の時計データを読み出して使用します。）
パソコンの「自動的に夏時間の調整をする」には対応していませんので，「自動的に夏時間の調整をする」にはチェックを入れないでください。

6 ハードコピー機能

ハードコピー機能の「白黒反転する」，「書き込み中通知デバイス」，「書き込みエラー通知デバイス」はシミュレートできません。
また，ハードコピー機能に関係するシステム情報はシミュレートできません。

7 ロギング，拡張レシピ，操作ログ，オペレータ認証

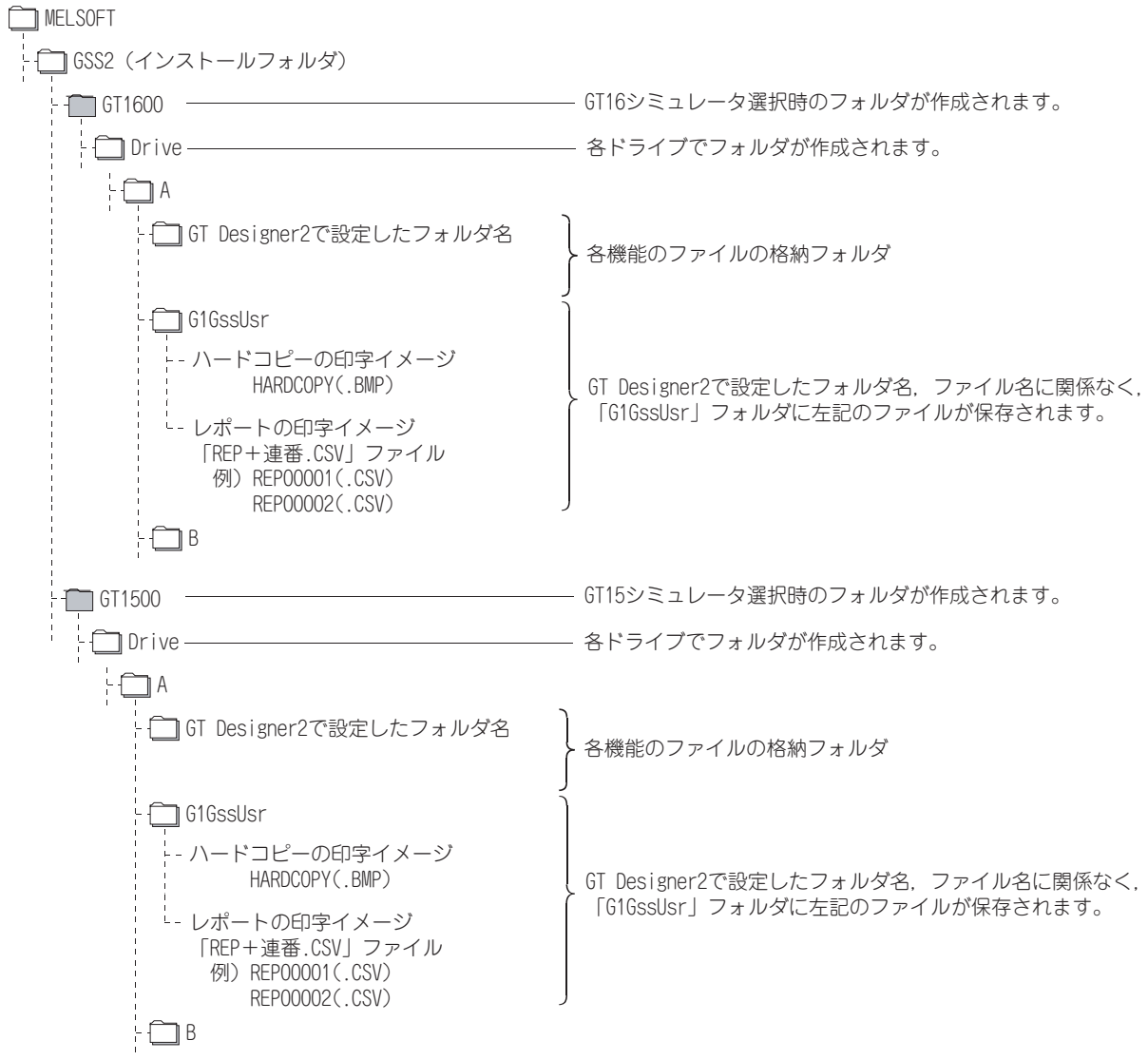
ロギング情報，拡張レシピ情報，操作ログ情報，オペレータ情報管理は，ユーティリティから表示できません。
ロギング情報，拡張レシピ情報，操作ログ情報，オペレータ情報管理を使用する場合は，拡張機能スイッチを設定してください。
拡張機能スイッチについては，下記のマニュアルを参照してください。

☞ GT Designer2 Version2 画面設計マニュアル

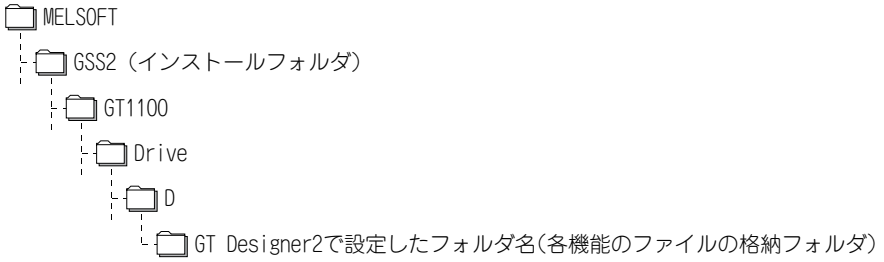
8 メモリカードにデータを保存する機能の場合

オブジェクト機能，オプション機能などで，ファイル保存先をメモリカードに設定している場合，パソコンのハードディスクに保存します。
各機能のファイルは，下記フォルダに格納されます。

・「GOT1000 シリーズ（GT16/GT15）シミュレータ」の場合

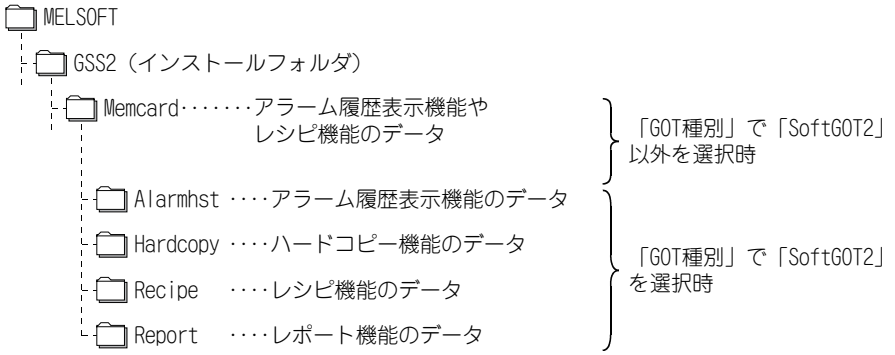


・「GOT1000 シリーズ（GT11）シミュレータ」の場合



・「GOT-A900 シリーズシミュレータ」の場合

「オプション」→動作設定タブ →「シミュレート」の「GOT 種別」により，保存場所が異なります。



9 GT Simulator2 のバージョン

GT Simulator2 は，プロジェクトデータを作成した GT Designer2 と同じバージョンを使用してください。

万一，異なるバージョンの GT Simulator2 を使用した場合，ファイルを開くことができなかったり，機能，設定が無効，または正常に動作しなくなることがあります。

プロジェクトデータの互換性については，下記を参照してください。

☞ 付 2 使用するプロジェクトデータについて

10 SW3D5C-GOTR-PACK 以前の GT Designer，または GT Converter で変換したプロジェクトデータを使用する場合



SW3D5C-GOTR-PACK 以前の GT Designer，または GT Converter で変換したプロジェクトデータを使用する場合，SW4D5C-GOTR-PACK 以降の GT Designer または GT Designer2 上に読み出して保存したプロジェクトデータを使用してください。

SW3D5C-GOTR-PACK 以前の GT Designer，または GT Converter で変換したプロジェクトデータを使用すると，正常に動作しない場合があります。

11 プリンタ出力



(1) プリンタ出力

レポート機能やハードコピー機能などでデータを直接プリンタに出力することはできません。
パソコンのハードディスクに印字イメージ（TXT/CSV/BMP 形式ファイル）が保存されるので，各ファイルからプリンタへ出力してください。

☞本項 8 メモリカードにデータを保存する機能の場合

(2) 印字トリガを頻繁に ON させるプロジェクトデータを使用する場合

印字トリガを頻繁に ON させるプロジェクトデータを使用する場合，パソコンのハードディスクの空き容量を十分に確保して，必要に応じて印字イメージのファイルを削除するようにしてください。
印字イメージのファイルは，GT Simulator2 を終了しても削除されません。

(3) 印字イメージのファイルをパソコンで開く場合

印字イメージで保存したファイル（TXT ファイル）を，ワードパットやメモ帳などを使用して開いた場合，文字間隔がずれて表示される場合があります。
文字間隔がずれる場合は，文字フォントや文字の大きさを調整してください。

(4) ハードコピー実行時のシステムアラーム

ハードコピー実行時は，システムアラームが表示されません。
ハードコピーに関するトラブルシューティングは，下記を参照してください。
☞ 8.1 節 ファイル保存に関するトラブルシューティング

12 音声出力



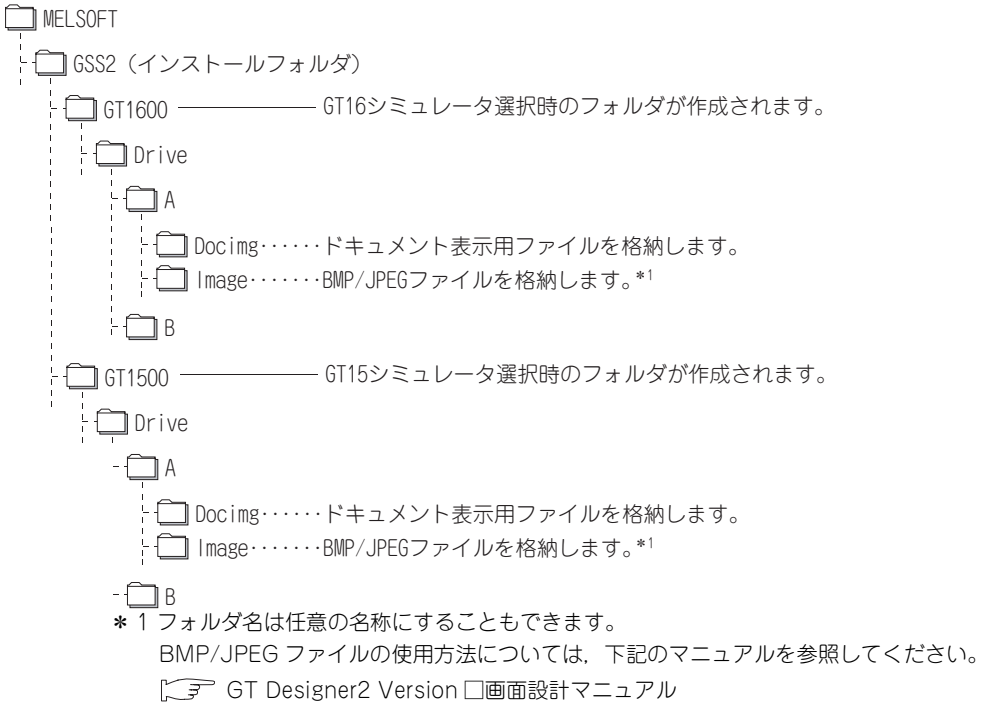
音声出力機能は，パソコンのサウンド機能 (サウンドカード)，スピーカにより実行します。
使用するパソコンが音声出力できない場合は，音声出力機能は使用できません。

13 ユーザでメモリカードにデータを保存しておく機能の場合

・「GOT1000 シリーズ（GT16/GT15）シミュレータ」の場合

部品用の BMP/JPEG ファイル，ドキュメント表示用のデータを登録する場合，パソコンのハードディスクに保存します。
各データは，下記 フォルダ（ユーザ作成）に格納してください。
（使用するドライブは，オブジェクトの仕様，設定によります。）
各機能の詳細については，下記のマニュアルを参照してください。

☞ GT Designer2 Version □画面設計マニュアル

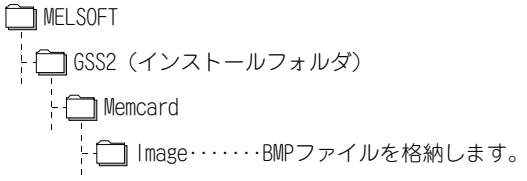


＊1 フォルダ名は任意の名称にすることもできます。
BMP/JPEG ファイルの使用方法については，下記のマニュアルを参照してください。
☞ GT Designer2 Version □画面設計マニュアル

・「GOT-A900 シリーズシミュレータ」の場合

部品用の BMP ファイルを登録する場合，パソコンのハードディスクに保存します。
BMP ファイルは，下記 Image フォルダ（自動生成）に格納してください。
部品用の BMP ファイルについては，下記のマニュアルを参照してください。

☞ GT Designer2 Version □リファレンスマニュアル



14 FXCPU と接続する場合

レシピ機能で先頭デバイスに「カウンタ（現在値）(C)」(16 ビット）の奇数点を設定する場合は，C199 以前を使用してください。

15 プロジェクトデータがマルチチャンネルの場合

チャンネル 1 のみシミュレート可能です。
チャンネル 1 以外のデバイスは，無視されます。
チャンネル 1 以外のデバイスをモニタする場合，GT Designer2 の【ツール】→【一括変更】→【CH No. 一括変更】メニューで，デバック対象チャンネルをチャンネル 1 へ変更してください。
例) チャンネル 1 とチャンネル 2 を使用しており，チャンネル 2 をシミュレートする場合

1. チャンネル 1 をチャンネル 3 へ一括変更する。
2. チャンネル 2 をチャンネル 1 へ一括変更する。

チャンネルの一括変更については，下記のマニュアルを参照してください。

☞ GT Designer2 Version □ 基本操作・データ転送マニュアル

3.3.2 GX Simulator と接続時の注意事項

1 GT Simulator2 から GX Simulator を起動している場合

GX Developer で GX Simulator を使用する場合に，GX Simulator を起動できません。
GT Simulator2 を終了後，再度 GX Developer から GX Simulator を起動してください。

2 GX Developer から GX Simulator を起動している場合

(1) GX Developer から GX Simulator を起動している場合

GT Simulator2 は，GX Developer から起動した GX Simulator を使用します。

(2) GX Simulator を終了する場合

GT Simulator2 を終了後，GX Developer，GX Simulator を終了してください。
GX Developer，GX Simulator を先に終了すると，GT Simulator2 が通信エラーとなります。

3 PC タイプが他社シーケンサのプロジェクトデータをシミュレートする場合

(1) GX Developer プロジェクト「デフォルト（END 回路）」を使用してシミュレートする場合

GT Simulator2 の「オプション」の CPU 種別を「ACPU」に設定することで，A4UCPU のデバイス範囲でシミュレートできます。（☞ 5.3 節 オプションを設定する）
シミュレートできるデバイス範囲については，下記を参照してください。

☞ 3.4 節 シミュレートできるデバイス範囲

(2) GX Developer プロジェクト「固定」を使用してシミュレートする場合

PC シリーズが「ACPU」の GX Developer プロジェクトを指定してください。
GT Simulator2 の「オプション」の CPU 種別を「ACPU」に設定することで，ACPU（指定した PC タイプ）のデバイス範囲でシミュレートできます。（☞ 5.3 節 オプションを設定する）
シミュレートできるデバイス範囲については，下記を参照してください。

☞ 3.4 節 シミュレートできるデバイス範囲

4 PC タイプが「MELSEC-FX」のプロジェクトデータをシミュレートする場合

(1) PC タイプが「FX3UC」の GX Developer プロジェクトを使用してシミュレートする場合

GT Simulator2 の「オプション」の「GX Developer プロジェクト」を「固定」に設定時，PC タイプが「FX3UC」の GX Developer プロジェクトを指定してシミュレートできません。
GT Simulator2 の「オプション」の「GX Developer プロジェクト」を「デフォルト（END 回路）」に設定し，FX2N シリーズのデバイス範囲でシミュレートしてください。
（☞ 5.3 節 オプションを設定する）

5 バッファメモリをシミュレートする場合

GT Simulator2 の「オプション」の「GX Developer プロジェクト」を「固定」に設定し，I/O 割付けされた GX Developer プロジェクトを指定することでバッファメモリをシミュレートできます。
（☞ 5.3 節 オプションを設定する）
GT Simulator2 の「オプション」の「GX Developer プロジェクト」を「デフォルト（END 回路）」に設定時，I/O 割付けしていないため，バッファメモリをシミュレートできません。

Point **シーケンサ CPU を接続して行うデバッグとの相違点**

シーケンサ CPU を接続して行うデバッグとの相違点については，下記のマニュアルを参照してください。

☞ GX Simulator Version □オペレーティングマニュアル

3.3.3　シーケンサ CPU と接続時の注意事項

1 GT Simulator2 を FXCPU の機能拡張ボードと接続する場合

GT Simulator2 を FXCPU の機能拡張ボードと接続する場合，GX Developer にて下記のように設定してください。

1 「PC パラメータ」→ PC システム設定（2）タブ →「通信設定をする」チェックボックスのチェックをはずします。

2 FXCPU の特殊レジスタ（D8120）に，“0” をセットします。

3.4 シミュレートできるデバイス範囲

GT Simulator2 でシミュレートできるデバイス範囲を下記に示します。

3.4.1 シーケンサ CPU と接続時

Point

GT Simulator2 でシミュレートできるシーケンサ CPU

GT Simulator2 でシミュレートできるシーケンサ CPU については，下記を参照してください。

☞ 2.3 節 シミュレートできるシーケンサ CPU

GOT でモニタできるデバイス範囲をシミュレートできます。
GOT でモニタできるデバイス範囲については，下記のマニュアルを参照してください。

・「GOT1000 シリーズ（GT16/GT15/GT11）シミュレータ」の場合

☞ GT Designer2 Version □画面設計マニュアル

・「GOT-A900 シリーズシミュレータ」の場合

☞ GT Designer2 Version □リファレンスマニュアル

3.4.2 GX Simulator と接続時

Point

(1) GX Simulator がサポートしないデバイス

GX Simulator がサポートしないデバイスは，シミュレートできません。
GX Simulator がサポートするデバイス範囲については，下記のマニュアルを参照してください。

☞ GX Simulator Version □オペレーティングマニュアル

(2) GT Simulator2 でシミュレートできるシーケンサ CPU

GT Simulator2 でシミュレートできるシーケンサ CPU については，下記を参照してください。

☞ 2.3 節 シミュレートできるシーケンサ CPU

1 三菱電機シーケンサ

GOT でモニタできるデバイス範囲をシミュレートできます。
GOT でモニタできるデバイス範囲については，下記のマニュアルを参照してください。

・「GOT1000 シリーズ（GT16/GT15/GT11）シミュレータ」の場合

☞ GT Designer2 Version □画面設計マニュアル

・「GOT-A900 シリーズシミュレータ」の場合

☞ GT Designer2 Version □リファレンスマニュアル

2 オムロン社製シーケンサ（オムロン SYSMAC）

	デバイス名	GOT のモニタ可能範囲*1	GT Simulator2 のシミュレート可能範囲（GX Simulator で動作可能な範囲）
ビットデバイス	入出力リレー／内部補助リレー	..000000 ～ ..614315	..000000 ～ ..008115
	データリンクリレー（LR）	LR00000 ～ LR19915	LR00000 ～ LR08115
	補助記憶リレー（AR）	AR00000 ～ AR95915	—
	保持リレー（HR）	HR00000 ～ HR51115	HR00000 ～ HR08115
	内部保持リレー（W）	WR00000 ～ WR51115	WR00000 ～ WR08115
	タイマ接点（TIM）	TIM0000 ～ TIM4095（TIM2047）*2	TIM0000 ～ TIM0255
	カウンタ接点（CNT）	CNT0000 ～ CNT4095（CNT2047）*2	CNT0000 ～ CNT0255
	ワードデバイスのビット	下記ワードデバイスの指定ビット（データリンクリレー，補助記憶リレー，保持リレー，内部保持リレーは除く）	下記ワードデバイスの指定ビット（データリンクリレー，補助記憶リレー，保持リレー，内部保持リレーは除く）
ワードデバイス	入出力リレー／内部補助リレー	..0000 ～ ..6143	..0000 ～ ..0081
	データリンクリレー（LR）	LR000 ～ LR199	LR000 ～ LR081
	補助記憶リレー（AR）	AR000 ～ AR959	—
	保持リレー（HR）	HR000 ～ HR511	HR000 ～ HR081
	内部保持リレー（W）	WR000 ～ WR511	WR000 ～ WR081
	データメモリ（DM）	DM00000 ～ DM32767（DM9999）*2	DM0000 ～ DM8191
	タイマ（現在値）（TIM）	TIM0000 ～ TIM4095（TIM2047）*2	TIM0000 ～ TIM0255
	カウンタ（現在値）（CNT）	CNT0000 ～ CNT4095（CNT2047）*2	CNT0000 ～ CNT0255
	拡張データメモリ（EM カレントバンク）	EM00000 ～ EM32767（EM9999）*2	—
	拡張データメモリ（E0 ～ EC：13 バンク）	E000000 ～ E032767（E09999）*2 ： EC00000 ～ EC32767（EC9999）*2	—

*1 GOT でモニタできる各デバイスを使用するときの注意事項については，下記のマニュアルを参照してください。

・「GOT1000 シリーズ（GT16/GT15/GT11）シミュレータ」の場合

☞ GT Designer2 Version □画面設計マニュアル

・「GOT-A900 シリーズシミュレータ」の場合

☞ GT Designer2 Version □リファレンスマニュアル

*2 括弧内は，GOT-A900 シリーズのデバイス範囲です。

3 キーエンス社製シーケンサ（キーエンス KV-700/1000）

	デバイス名	GOT のモニタ可能範囲＊1	GT Simulator2 のシミュレート可能範囲（GX Simulator で動作可能な範囲）
ビットデバイス	リレー（..）	..00000 ～ ..59915	..00000 ～ ..51115
	内部補助リレー（MR）	MR00000 ～ MR99915	MR00000 ～ MR51115
	ラッチリレー（LR）	LR00000 ～ LR99915	LR00000 ～ LR51115
	コントロールリレー（CR）	CR0000 ～ CR3915	CR0000 ～ CR1515
	タイマ（接点）（T）	T0000 ～ T3999	T0000 ～ T0255
	カウンタ（接点）（C）	C0000 ～ C3999	C0000 ～ C0255
	高速カウンタコンパレータ（接点）（CTC）	CTC0 ～ CTC3	—
	ワードデバイスのビット	下記ワードデバイスの指定ビット（タイマ（現在値），タイマ（設定値），カウンタ（現在値），カウンタ（設定値），高速カウンタ（現在値），高速カウンタコンパレータ（設定値），コントロールメモリ，テンポラリデータメモリ，インデックスレジスタ，デジタルトリマを除く）	下記ワードデバイスの指定ビット（タイマ（現在値），タイマ（設定値），カウンタ（現在値），カウンタ（設定値），高速カウンタ（現在値），高速カウンタコンパレータ（設定値），コントロールメモリ，テンポラリデータメモリ，インデックスレジスタ，デジタルトリマを除く）
ワードデバイス	リレー（..）	..00000 ～ ..59900	..00000 ～ ..51100
	内部補助リレー（MR）	MR00000 ～ MR99900	MR00000 ～ MR51100
	ラッチリレー（LR）	LR00000 ～ LR99900	LR00000 ～ LR51100
	コントロールリレー（CR）	CR0000 ～ CR3900	CR0000 ～ CR1500
	タイマ（現在値）（TC）	TC0000 ～ TC3999	TC0000 ～ TC0254
	タイマ（設定値）（TS）	TS0000 ～ TS3999	—
	カウンタ（現在値）（CC）	CC0000 ～ CC3999	CC0000 ～ CC0254
	カウンタ（設定値）（CS）	CS0000 ～ CS3999	—
	高速カウンタ（現在値）（CTH）	CTH0 ～ CTH1	—
	高速カウンタコンパレータ（設定値）（CTC）	CTC0 ～ CTC3	—
	データメモリ（DM）	DM00000 ～ DM65534	DM0000 ～ DM8191
	拡張データメモリ（EM）	EM00000 ～ EM65534	—
	拡張データメモリ 2（FM）	FM00000 ～ FM32766	—
	コントロールメモリ（CM）	CM00000 ～ CM11998	—
	テンポラリデータメモリ（TM）	TM000 ～ TM511	—
	インデックスレジスタ（Z）	Z01 ～ Z12	Z01 ～ Z06
	デジタルトリマ（TRM）	TRM0 ～ TRM7	—

＊1 GOT でモニタできる各デバイスを使用するときの注意事項については，下記のマニュアルを参照してください。

·「GOT1000 シリーズ（GT16/GT15/GT11）シミュレータ」の場合

☞ GT Designer2 Version □画面設計マニュアル

4 シャープマニファクチャリングシステム社製シーケンサ（シャープ JW）

	デバイス名	GOT のモニタ可能範囲*1	GT Simulator2 のシミュレート可能範囲（GX Simulator で動作可能な範囲）
ビットデバイス	入出力リレー	..00000 ～ ..15777 ..20000 ～ ..75777	..00000 ～ ..15777
	タイマ（接点）（T）	T0000 ～ T1777	T0000 ～ T0377
	カウンタ（接点）（C）	C0000 ～ C1777	C0000 ～ C0377
	ワードデバイスのビット	下記ワードデバイスの指定ビット	下記ワードデバイスの指定ビット
ワードデバイス	タイマ（現在値）（T）	T0000 ～ T1777	T0000 ～ T0377
	カウンタ（現在値）（C）	C0000 ～ C1777	C0000 ～ C0377
	レジスタ（09 ～ E7）	09000 ～ 09776	09000 ～ 09776
		19000 ～ 19776	19000 ～ 19776
		29000 ～ 29776	29000 ～ 29776
		39000 ～ 39776	39000 ～ 39776
		49000 ～ 49776	49000 ～ 49776
		59000 ～ 59776	59000 ～ 59776
		69000 ～ 69776	69000 ～ 69776
		79000 ～ 79776	79000 ～ 79776
		89000 ～ 89776	89000 ～ 89776
		99000 ～ 99776	99000 ～ 99776
		E0000 ～ E0776	E0000 ～ E0776
		E1000 ～ E1776	E1000 ～ E1776
		E2000 ～ E2776	E2000 ～ E2776
		E3000 ～ E3776	E3000 ～ E3776
		E4000 ～ E4776	E4000 ～ E4776
		E5000 ～ E5776	E5000 ～ E5776
		E6000 ～ E6776	—
		E7000 ～ E7776	E7450 ～ E7776
	ファイルレジスタ（1 ～ 7）	1000000 ～ 1177776 2000000 ～ 2177776 3000000 ～ 3177776 4000000 ～ 4177776 5000000 ～ 5177776 6000000 ～ 6177776 7000000 ～ 7177776	—
	ビットデバイスのワード	上記ビットデバイスのワード化（タイマ，カウンタは除く）	上記ビットデバイスのワード化（タイマ，カウンタは除く）

＊1 GOT でモニタできる各デバイスを使用するときの注意事項については，下記のマニュアルを参照してください。

・「GOT1000 シリーズ（GT16/GT15/GT11）シミュレータ」の場合

☞ GT Designer2 Version □画面設計マニュアル

・「GOT-A900 シリーズシミュレータ」の場合

☞ GT Designer2 Version □リファレンスマニュアル

5 ジェイテクト社製シーケンサ（ジェイテクト TOYOPUC-PC）

	デバイス名	GOT のモニタ可能範囲＊1	GT Simulator2 のシミュレート可能範囲（GX Simulator で動作可能な範囲）
ビットデバイス	入力 (X)	X000 ～ X7FF	X000 ～ X7FF
	出力 (Y)	Y000 ～ Y7FF	Y000 ～ Y7FF
	リンクリレー (L)	L000 ～ L7FF	L000 ～ L7FF
	内部リレー (M)	M000 ～ M7FF	M000 ～ M7FF
	キープリレー (K)	K000 ～ K2FF	—
	エッジ検出 (P)	P000 ～ P1FF	—
	タイマ (T)	T000 ～ T1FF	T000 ～ T1FF
	カウンタ (C)	C000 ～ C1FF	C000 ～ C1FF
	特殊リレー (V)	V000 ～ V0FF	—
	拡張入力 (EX)	EX000 ～ EX7FF	—
	拡張出力 (EY)	EY000 ～ EY7FF	—
	拡張内部リレー (EM)	EM0000 ～ EM1FFF	—
	拡張キープリレー (EK)	EK000 ～ EKFFF	—
	拡張特殊リレー (EV)	EV000 ～ EVFFF	—
	拡張タイマ (ET)	ET000 ～ ET7FF	—
	拡張カウンタ (EC)	EC000 ～ EC7FF	—
	拡張リンクリレー (EL)	EL0000 ～ EL1FFF	—
	拡張エッジ検出 (EP)	EP000 ～ EPFFF	—
	拡張入力 2(GX)	GX0000 ～ GXFFFF	—
	拡張出力 2(GY)	GY0000 ～ GYFFFF	—
	拡張内部リレー (GM)	GM0000 ～ GMFFFF	—
	ワードデバイスのビット	下記ワードデバイスの指定ビット（EB，TCS は除く）	下記ワードデバイスの指定ビット（EB，TCS は除く）
ワードデバイス	データレジスタ (D)	D0000 ～ D2FFF	D0000 ～ D2FFF
	リンクレジスタ (R)	R0000 ～ R07FF	R0000 ～ R07FF
	現在値レジスタ (N)	N0000 ～ N01FF	N0000 ～ N01FF
	特殊レジスタ (S)	S0000 ～ S03FF	—
	ファイルレジスタ (B)	B0000 ～ B1FFF	B0000 ～ B1FFF
	拡張現在値レジスタ (EN)	EN0000 ～ EN07FF	—
	拡張設定値レジスタ (H)	H0000 ～ H07FF	—
	拡張特殊レジスタ (ES)	ES0000 ～ ES07FF	—
	拡張データレジスタ (U)	U0000 ～ U7FFF	—
	拡張バッファレジスタ (EB)	EB00000 ～ EB07FFF EB08000 ～ EB0FFFF EB10000 ～ EB17FFF EB18000 ～ EB1FFFF	—
	設定値レジスタ (TCS)	TCS0000 ～ TCS01FF	—
	ビットデバイスのワード	上記ビットデバイスのワード化	上記ビットデバイスのワード化

＊1 GOT でモニタできる各デバイスを使用するときの注意事項については，下記のマニュアルを参照してください。

・「GOT1000 シリーズ（GT16/GT15/GT11）シミュレータ」の場合

☞ GT Designer2 Version □画面設計マニュアル

6 東芝社製シーケンサ（東芝 PROSEC T,V シリーズ）

	デバイス名	GOT のモニタ可能範囲*1	GT Simulator2 のシミュレート可能範囲（GX Simulator で動作可能な範囲）
ビットデバイス	外部入力（X）	X0000 ～ X511F	X0000 ～ X511F
	外部出力（Y）	Y0000 ～ Y511F	Y0000 ～ Y511F
	内部リレー（R）	R0000 ～ R4095F	R0000 ～ R0511F
	特殊リレー（S）	S0000 ～ S511F	—
	リンクレジスタリレー（Z）	Z0000 ～ Z999F	Z0000 ～ Z511F
	リンクリレー（L）	L0000 ～ L255F	—
	タイマ（接点）（T）	T0 ～ T999	T0 ～ T255
	カウンタ（接点）（C）	C0 ～ C511	C0 ～ C255
	ワードデバイスのビット	下記ワードデバイスの指定ビット（データレジスタ，リンクレジスタ，ファイルレジスタのみ可能）	下記ワードデバイスの指定ビット（データレジスタ，リンクレジスタ，ファイルレジスタのみ可能）
ワードデバイス	外部入力（XW）	XW0 ～ XW511	XW0 ～ XW511
	外部出力（YW）	YW0 ～ YW511	YW0 ～ YW511
	内部リレー（RW）	RW0 ～ RW4095	RW0 ～ RW4095
	特殊リレー（SW）	SW0 ～ SW511	—
	リンクリレー（LW）	LW0 ～ LW255	—
	タイマ（現在値）（T）	T0 ～ T999	T0 ～ T255
	カウンタ（現在値）（C）	C0 ～ C511	C0 ～ C255
	データレジスタ（D）	D0 ～ D8191	D0 ～ D8191
	リンクレジスタ（W）	W0 ～ W2047	W0 ～ W2047
	ファイルレジスタ（F）	F0 ～ F32767	—

＊1 GOT でモニタできる各デバイスを使用するときの注意事項については，下記のマニュアルを参照してください。

・「GOT1000 シリーズ（GT16/GT15/GT11）シミュレータ」の場合

☞ GT Designer2 Version □画面設計マニュアル

・「GOT-A900 シリーズシミュレータ」の場合

☞ GT Designer2 Version □リファレンスマニュアル

7 日立産機システム社製シーケンサ（日立 HIDEIC H シリーズ）

デバイス名		GOT のモニタ可能範囲*1	GT Simulator2 のシミュレート可能範囲（GX Simulator で動作可能な範囲）
ビットデバイス	外部入力（X）	X00000 ～ X05A95	X00000 ～ X05A95
	外部出力（Y）	Y00000 ～ Y05A95	Y00000 ～ Y05A95
	リモート外部入力（X）	X10000 ～ X49995	—
	リモート外部出力（Y）	Y10000 ～ Y49995	—
	第 1CPU リンク（L）	L0000 ～ L3FFF	L0000 ～ L3FFF
	第 2CPU リンク（L1）	L10000 ～ L13FFF	—
	データエリア（M）	M0000 ～ M3FFF	M0000 ～ M1FFF
	オンディレータイマ（TD）	TD0 ～ TD255	TD0 ～ TD255
	シングルショットタイマ（SS）	SS0 ～ SS255	—
	ウォッチドッグタイマ（WDT）	WDT0 ～ WDT255	—
	モノステーブルタイマ（MS）	MS0 ～ MS255	—
	積算タイマ（TMR）	TMR0 ～ TMR255	—
	アップカウンタ（CU）	CU0 ～ CU511	CU0 ～ CU255
	リングカウンタ（RCU）	RCU0 ～ RCU511	—
	アップダウンカウンタ（CT）	CT0 ～ CT511	—
	ビット内部出力（R）	R0 ～ R7BF	—
	立上りエッジ検出（DIF）	DIF0 ～ DIF511	—
	立下りエッジ検出（DFN）	DFN0 ～ DFN511	—
	ワードデバイスのビット	下記ワードデバイスの指定ビット（タイマ・カウンタ，ワード内部出力のみ可能）	下記ワードデバイスの指定ビット（タイマ・カウンタ，ワード内部出力のみ可能）
ワードデバイス	外部入力（WX）	WX0000 ～ WX05A7	—
	外部出力（WY）	WY0000 ～ WY05A7	—
	リモート外部入力（WX）	WX1000 ～ WX4997	—
	リモート外部出力（WY）	WY1000 ～ WY4997	—
	第 1CPU リンク（WL）	WL000 ～ WL3FF	WL000 ～ WL3FF
	第 2CPU リンク（WL1）	WL1000 ～ WL13FF	—
	データエリア（WM）	WM000 ～ WM3FF	WM000 ～ WM1FF
	タイマ・カウンタ（経過値）（TC）	TC0 ～ TC511	TC0 ～ TC255
	ワード内部出力（WR）	WR000 ～ WR3FF	WR000 ～ WR3FF

＊1 GOT でモニタできる各デバイスを使用するときの注意事項については，下記のマニュアルを参照してください。

・「GOT1000 シリーズ（GT16/GT15/GT11）シミュレータ」の場合

☞ GT Designer2 Version □画面設計マニュアル

・「GOT-A900 シリーズシミュレータ」の場合

☞ GT Designer2 Version □リファレンスマニュアル

8 日立製作所社製シーケンサ（日立製作所 S10mini/S10V）

	デバイス名	GOT のモニタ可能範囲*1	GT Simulator2 のシミュレート可能範囲（GX Simulator で動作可能な範囲）
ビットデバイス	外部入力 (X)	X000 ～ XFFF	X000 ～ XFFF
	外部出力 (Y)	Y000 ～ YFFF	Y000 ～ YFFF
	内部レジスタ (R)	R000 ～ RFFF	R000 ～ RFFF
	キープリレー (K)	K000 ～ KFFF	K000 ～ KFFF
	拡張内部レジスタ (M)	M000 ～ MFFF	—
	拡張内部レジスタ (A)	A000 ～ AFFF	—
	オンディレイタイマ (T)	T000 ～ T1FF	T000 ～ T0FF
	ワンショットタイマ (U)	U000 ～ U0FF	—
	アップダウンカウンタ (C)	C00 ～ CFF	C00 ～ CFF
	グローバルリンクレジスタ (G)	G000 ～ GFFF	G000 ～ GFFF
	イベントレジスタ (E)	E000 ～ EFFF	E000 ～ E7FF
	システムレジスタ (S)	S000 ～ SBFF	S000 ～ S0FF
	トランスファレジスタ (J)	J000 ～ JFFF	—
	レシーブレジスタ (Q)	Q000 ～ QFFF	—
	ワードデバイスのビット	下記ワードデバイスの指定ビット（外部入力，外部出力，内部レジスタ，拡張内部レジスタ，キープリレー，オンディレイタイマ，ワンショットタイマ，アップダウンカウンタ，グローバルリンクレジスタ，イベントレジスタ，システムレジスタ，トランスファレジスタ，レシーブレジスタ，ロングワードワークレジスタ，浮動小数点ワークレジスタ，バックアップ用単精度浮動小数点ワークレジスタは除く）	下記ワードデバイスの指定ビット（外部入力，外部出力，内部レジスタ，拡張内部レジスタ，キープリレー，オンディレイタイマ，ワンショットタイマ，アップダウンカウンタ，グローバルリンクレジスタ，イベントレジスタ，システムレジスタ，トランスファレジスタ，レシーブレジスタ，ロングワードワークレジスタ，浮動小数点ワークレジスタ，バックアップ用単精度浮動小数点ワークレジスタは除く）

デバイス名		GOT のモニタ可能範囲＊1	GT Simulator2 のシミュレート可能範囲（GX Simulator で動作可能な範囲）
ワードデバイス	外部入力（XW）	XW000 ～ XWFF0	XW000 ～ XWFF0
	外部出力（YW）	YW000 ～ YWFF0	YW000 ～ YWFF0
	内部レジスタ（RW）	RW000 ～ RWFF0	RW000 ～ RWFF0
	拡張内部レジスタ（MW）	MW000 ～ MWFF0	—
	拡張内部レジスタ（AW）	AW000 ～ AWFF0	—
	キープリレー（KW）	KW000 ～ KWFF0	KW000 ～ KWFF0
	オンディレイタイマ（TW）	TW000 ～ TW1F0	TW000 ～ TW0F0
	ワンショットタイマ（UW）	UW000 ～ UW0F0	—
	アップダウンカウンタ（CW）	CW00 ～ CWF0	CW00 ～ CWF0
	グローバルリンクレジスタ（GW）	GW000 ～ GWFF0	GW000 ～ GWFF0
	イベントレジスタ（EW）	EW000 ～ EWFF0	EW000 ～ EW7F0
	システムレジスタ（SW）	SW000 ～ SWBF0	SW000 ～ SW0F0
	トランスファレジスタ（JW）	JW000 ～ JWFF0	—
	レシーブレジスタ（QW）	QW000 ～ QWFF0	—
	オンディレイタイマ（現在値）(TC)	TC000 ～ TC1FF	TC000 ～ TC0FF
	オンディレイタイマ（設定値）(TS)	TS000 ～ TS1FF	—
	ワンショットタイマ（現在値）(UC)	UC000 ～ UC0FF	—
	ワンショットタイマ（設定値）(US)	US000 ～ US0FF	—
	アップダウンカウンタ（現在値）(CC)	CC00 ～ CCFF	CC00 ～ CCFF
	アップダウンカウンタ（設定値）(CS)	CS00 ～ CSFF	—
	ファンクションデータレジスタ（DW）	DW000 ～ DWFFF	DW000 ～ DWFFF
	ファンクションワークレジスタ（FW）	FW000 ～ FWBFF	—
	拡張ファンクションワークレジスタ（LWW）	LWW0000 ～ LWWFFFF	—
	バックアップ用ワークレジスタ（LXW）	LXW0000 ～ LXW3FFF	—
	ロングワードワークレジスタ（LLL）	LLL0000 ～ LLL1FFF	—
	バックアップ用ロングワードワークレジスタ（LML）	LML0000 ～ LML1FFF	—
	浮動小数点ワークレジスタ（LF）	LF0000 ～ LF1FFF	—
	バックアップ用単精度浮動小数点ワークレジスタ（LG）	LG0000 ～ LG1FFF	—

＊1 GOT でモニタできる各デバイスを使用するときの注意事項については，下記のマニュアルを参照してください。

・「GOT1000 シリーズ（GT16/GT15/GT11）シミュレータ」の場合

☞ GT Designer2 Version □画面設計マニュアル

9 富士電機機器制御社製シーケンサ（富士電機 MICREX-F シリーズ）

	デバイス名	GOT のモニタ可能範囲＊1	GT Simulator2 のシミュレート可能範囲（GX Simulator で動作可能な範囲）
ビットデバイス	入出力リレー（B）	B0000 ～ B511F	B0000 ～ B511F
	補助リレー（M）	M0000 ～ M511F	M0000 ～ M511F
	キープリレー（K）	K0000 ～ K063F	K0000 ～ K063F
	特殊リレー（F）	F0000 ～ F125F	F0000 ～ F015F
	アナウンスリレー（A）	A0000 ～ A045F	A0000 ～ A045F
	微分リレー（D）	D0000 ～ D036F	—
	リンクメモリ（L）	L0000 ～ L511F	L0000 ～ L511F
	タイマ出力（0.01 秒）（T）	T000 ～ T511	T000 ～ T255
	タイマ出力（0.1 秒）（T）	T512 ～ T999	—
	カウンタ出力（C）	C000 ～ C511	C000 ～ C255
	ワードデバイスのビット	下記ワードデバイスの指定ビット（入力メモリ，補助リレー，キープリレー，特殊リレー，アナウンスリレー，微分リレー，リンクメモリ，データメモリ，タイマ，カウンタ，は除く）	下記ワードデバイスの指定ビット（入力メモリ，補助リレー，キープリレー，特殊リレー，アナウンスリレー，微分リレー，リンクメモリ，データメモリ，タイマ，カウンタ，は除く）
ワードデバイス	入力メモリ（WB）	WB000 ～ WB511	WB000 ～ WB511
	補助リレー（WM）	WM000 ～ WM511	WM000 ～ WM511
	キープリレー（WK）	WK000 ～ WK063	WK000 ～ WK063
	特殊リレー（WF）	WF000 ～ WF125	WF000 ～ WF015
	アナウンスリレー（WA）	WA000 ～ WA045	WA000 ～ WA045
	微分リレー（WD）	WD000 ～ WD063	—
	リンクメモリ（WL）	WL000 ～ WL511	WL000 ～ WL511
	ダイレクトアクセス（W24）	W24：0000 ～ W24：0255	—
	ファイルメモリ（W30） ファイルメモリ（W31） ： ファイルメモリ（W108） ファイルメモリ（W109）	W30：0000 ～ W30：4095 W31：0000 ～ W31：4095 ： W108：0000 ～ W108：4095 W109：0000 ～ W109：4095	—
	データメモリ（BD）	BD0 ～ BD4095	BD0 ～ BD4095
	タイマ設定値（0.01 秒）（TS）	TS0 ～ TS511	—
	タイマ現在値（0.01 秒）（TR）	TR0 ～ TR511	TR000 ～ TR254
	タイマ現在値（0.1 秒）（W9）	W9：0000 ～ W9：0487	—
	カウンタ設定値（CS）	CS0 ～ CS511	—
	カウンタ現在値（CR）	CR0 ～ CR511	CR0 ～ CR254

＊1 GOT でモニタできる各デバイスを使用するときの注意事項については，下記のマニュアルを参照してください。

・「GOT1000 シリーズ（GT16/GT15/GT11）シミュレータ」の場合

☞ GT Designer2 Version □画面設計マニュアル

10 パナソニック電工社製シーケンサ（パナソニック電工 MEWNET-FP シリーズ）

デバイス名		GOT のモニタ可能範囲*1	GT Simulator2 のシミュレート可能範囲（GX Simulator で動作可能な範囲）
ビットデバイス	入力リレー（X）	X0000 ～ X511F	X0000 ～ X511F
	出力リレー（Y）	Y0000 ～ Y511F	Y0000 ～ Y511F
	内部リレー（R）	R0000 ～ R886F	R0000 ～ R511F
	特殊リレー（R）	R9000 ～ R911F	R9000 ～ R910F
	リンクリレー（L）	L0000 ～ L639F	L0000 ～ L511F
	タイマ接点（T）	T0 ～ T3071	T0 ～ T255
	カウンタ接点（C）	C0 ～ C3071	C0 ～ C255
	ワードデバイスのビット	下記ワードデバイスの指定ビット（入力リレー，出力リレー，内部リレー，特殊リレー，リンクリレーは除く）	下記ワードデバイスの指定ビット（入力リレー，出力リレー，内部リレー，特殊リレー，リンクリレーは除く）
ワードデバイス	入力リレー（WX）	WX000 ～ WX511	WX000 ～ WX511
	出力リレー（WY）	WY000 ～ WY511	WY000 ～ WY511
	内部リレー（WR）	WR000 ～ WR886	WR000 ～ WR511
	特殊リレー（WR）	WR900 ～ WR911	WR900 ～ WR910
	リンクリレー（WL）	WL000 ～ WL639	WL000 ～ WL511
	タイマ・カウンタ（経過値）（EV）	EV0 ～ EV3071	EV0 ～ EV255
	タイマ・カウンタ（設定値）（SV）	SV0 ～ SV3071	—
	データレジスタ（DT）	DT0 ～ DT10239	DT0 ～ DT8191
	特殊データレジスタ（DT）	DT90000 ～ DT90511	—
	リンクレジスタ（LD）	LD0 ～ LD8447	LD0 ～ LD8191
	ファイルレジスタ（FL）	FL0 ～ FL32764	—

*1 GOT でモニタできる各デバイスを使用するときの注意事項については，下記のマニュアルを参照してください。

・「GOT1000 シリーズ（GT16/GT15/GT11）シミュレータ」の場合

☞ GT Designer2 Version □画面設計マニュアル

・「GOT-A900 シリーズシミュレータ」の場合

☞ GT Designer2 Version □リファレンスマニュアル

11 安川電機社製シーケンサ

(1) 安川電機 GL/PROGIC8

	デバイス名	GOT のモニタ可能範囲*1	GT Simulator2 のシミュレート可能範囲（GX Simulator で動作可能な範囲）
ビットデバイス	コイル（O）	O1 ～ O63424	O1 ～ O8176
	入力リレー（I）	I1 ～ I63424	I1 ～ I8176
	リンクコイル（D）	D1 ～ D2048	D1 ～ D2048
		D10001 ～ D12048 D20001 ～ D22048	—
	ワードデバイスのビット	下記ワードデバイスの指定ビット	下記ワードデバイスの指定ビット
ワードデバイス	入力レジスタ（Z）	Z1 ～ Z31840	Z1 ～ Z8192 Z9000 ～ Z9256
	保持レジスタ（W）	W1 ～ W28291	—
		SW1 ～ SW28291	—
	リンクレジスタ（R, SR）	R1 ～ R2048	R1 ～ R2048
		R10001 ～ R12048 R20001 ～ R22048	—
		SR1 ～ SR2048	—
		SR10001 ～ SR12048 SR20001 ～ SR22048	—
	定数レジスタ（K）	K1 ～ K4096	K1 ～ K6
	ビットデバイスのワード	上記ビットデバイスのワード化 （コイル，入力リレーは除く）	上記ビットデバイスのワード化 （コイル，入力リレーは除く）

＊1 GOT でモニタできる各デバイスを使用するときの注意事項については，下記のマニュアルを参照してください。

・「GOT1000 シリーズ（GT16/GT15/GT11）シミュレータ」の場合

☞ GT Designer2 Version □画面設計マニュアル

・「GOT-A900 シリーズシミュレータ」の場合

☞ GT Designer2 Version □リファレンスマニュアル

(2) 安川電機 CP-9200SH/MP900 シリーズ

	デバイス名	GOT のモニタ可能範囲*1	GT Simulator2 のシミュレート可能範囲（GX Simulator で動作可能な範囲）
ビットデバイス	コイル（MB）	MB000000 ～ MB32767F	MB000000 ～ MB00511F
	入力リレー（IB）	IB0000 ～ IBFFFF	IB0000 ～ IB1FFF
	ワードデバイスのビット	下記ワードデバイスの指定ビット（コイル，入力リレーは除く）	下記ワードデバイスの指定ビット（コイル，入力リレーは除く）
ワードデバイス	入力レジスタ（IW）	IW0000 ～ IW7FFF	IW0000 ～ IW1FFF
	保持レジスタ（MW）	MW0 ～ MW32767	—
	コイル（MB）	MB0 ～ MB32767	MB0 ～ MB511
	入力リレー（IB）	IB000 ～ IBFFF	IB000 ～ IBFFF

＊1 GOT でモニタできる各デバイスを使用するときの注意事項については，下記のマニュアルを参照してください。

·「GOT1000 シリーズ（GT16/GT15/GT11）シミュレータ」の場合

☞ GT Designer2 Version □画面設計マニュアル

·「GOT-A900 シリーズシミュレータ」の場合

☞ GT Designer2 Version □リファレンスマニュアル

(3) 安川電機 CP-9200（H）

	デバイス名	GOT のモニタ可能範囲*1	GT Simulator2 のシミュレート可能範囲（GX Simulator で動作可能な範囲）
ビットデバイス	コイル（OB）	OB000 ～ OB7FF	OB000 ～ OB7FF
	入力リレー（IB）	IB000 ～ IB7FF	IB000 ～ IB7FF
	ワードデバイスのビット	下記ワードデバイスの指定ビット	下記ワードデバイスの指定ビット
ワードデバイス	入力レジスタ（IW）	IW00 ～ IW7F	—
	出力レジスタ（OW）	OW00 ～ OW7F	—
	データレジスタ（DW，ZD）	DW0 ～ DW2047	—
		ZD0 ～ ZD2047	ZD0 ～ ZD6
	共通レジスタ（MW）	MW0 ～ MW7694	—
	ビットデバイスのワード	上記ビットデバイスのワード化	上記ビットデバイスのワード化

＊1 GOT でモニタできる各デバイスを使用するときの注意事項については，下記のマニュアルを参照してください。

·「GOT1000 シリーズ（GT16/GT15/GT11）シミュレータ」の場合

☞ GT Designer2 Version □画面設計マニュアル

·「GOT-A900 シリーズシミュレータ」の場合

☞ GT Designer2 Version □リファレンスマニュアル

(4) 安川電機 CP-9300MS（MC 互換）

	デバイス名	GOT のモニタ可能範囲*2	GT Simulator2 のシミュレート可能範囲（GX Simulator で動作可能な範囲）
ビットデバイス	コイル（OB）	OB0 ～ OB1023	OB0 ～ OB1023
	入力リレー（IB）	IB0 ～ IB1023	IB0 ～ IB1023
	ワードデバイスのビット	下記ワードデバイスの指定ビット	下記ワードデバイスの指定ビット
ワードデバイス	入力レジスタ（I）	I0 ～ I63	—
	データレジスタ（M）	M0 ～ M2047	—
	出力レジスタ（o）	o0 ～ o63	—
	ビットデバイスのワード	上記ビットデバイスのワード化	上記ビットデバイスのワード化

＊2 GOT でモニタできる各デバイスを使用するときの注意事項については，下記のマニュアルを参照してください。

・「GOT1000 シリーズ（GT16/GT15/GT11）シミュレータ」の場合

☞ GT Designer2 Version □画面設計マニュアル

・「GOT-A900 シリーズシミュレータ」の場合

☞ GT Designer2 Version □リファレンスマニュアル

12 横河電機社製シーケンサ

(1) FA500/FA-M3 シリーズ

	デバイス名	GOT のモニタ可能範囲*1	GT Simulator2 のシミュレート可能範囲（GX Simulator で動作可能な範囲）
ビットデバイス	入力リレー（X）	X00201 ～ X71664	X00201 ～ X71664
	出力リレー（Y）	Y00201 ～ Y71664	Y00201 ～ Y71664
	内部リレー（I）	I1 ～ I65535	—
	リンクリレー（L）	L1 ～ L71024	L1 ～ L71024
	共有リレー（E）	E1 ～ E4096	—
	特殊リレー（M）	M1 ～ M9984	M1 ～ M256
	タイマ（TU）	TU1 ～ TU3072	TU1 ～ TU256
	カウンタ（CU）	CU1 ～ CU3072	CU1 ～ CU256
	ワードデバイスのビット	下記ワードデバイスの指定ビット（タイマ（TP，TS），カウンタ（CP，CS）は除く）	下記ワードデバイスの指定ビット（タイマ（TP，TS），カウンタ（CP，CS）は除く）
ワードデバイス	タイマ（TP）	TP1 ～ TP3072	TP1 ～ TP256
	タイマ（TS）	TS1 ～ TS3072	—
	カウンタ（CP）	CP1 ～ CP3072	CP1 ～ CP256
	カウンタ（CS）	CS1 ～ CS3072	—
	ファイルレジスタ（B）	B1 ～ B262144	—
	データレジスタ（D）	D1 ～ D8192	D1 ～ D8192
	共有レジスタ（R）	R1 ～ R4096	—
	インデックスレジスタ（V）	V1 ～ V256	—
	リンクレジスタ（W）	W1 ～ W71024	W1 ～ W71024
	特殊レジスタ（Z）	Z1 ～ Z512	Z1 ～ Z256
	ビットデバイスのワード	上記ビットデバイスのワード化（タイマ（TU），カウンタ（CU）は除く）	上記ビットデバイスのワード化（タイマ（TU），カウンタ（CU）は除く）

＊1 GOT でモニタできる各デバイスを使用するときの注意事項については，下記のマニュアルを参照してください。

・「GOT1000 シリーズ（GT16/GT15/GT11）シミュレータ」の場合

☞ GT Designer2 Version □画面設計マニュアル

(2) STARDOM/FA-M3 シリーズ

	デバイス名	GOT のモニタ可能範囲*1	GT Simulator2 のシミュレート可能範囲（GX Simulator で動作可能な範囲）
ビットデバイス	入力リレー (X)	X00201 ～ X71664	X00201 ～ X71664
	出力リレー (Y)	Y00201 ～ Y71664	Y00201 ～ Y71664
	内部リレー (I)	I1 ～ I65535	I1 ～ I8192
	リンクリレー (L)	L00001 ～ L08192 L10001 ～ L18192 L20001 ～ L28192 L30001 ～ L38192 L40001 ～ L48192 L50001 ～ L58192 L60001 ～ L68192 L70001 ～ L78192	—
	共有リレー (E)	E1 ～ E4096	—
	特殊リレー (M)	M1 ～ M9984	—
	タイマ (TU)	TU1 ～ TU3072	TU1 ～ TU256
	カウンタ (CU)	CU1 ～ CU3072	CU1 ～ CU256
	ワードデバイスのビット	下記ワードデバイスの指定ビット （TP，TS，CP，CS は除く）	下記ワードデバイスの指定ビット （TP，TS，CP，CS は除く）
ワードデバイス	タイマ (TP)	TP1 ～ TP3072	TP1 ～ TP256
	タイマ (TS)	TS1 ～ TS3072	—
	カウンタ (CP)	CP1 ～ CP3072	CP1 ～ CP256
	カウンタ (CS)	CS1 ～ CS3072	—
	ファイルレジスタ (B)	B1 ～ B262144	—
	データレジスタ (D)	D1 ～ D65536	D1 ～ D8192
	共有レジスタ (R)	R1 ～ R4096	—
	インデックスレジスタ	V1 ～ V256	V1 ～ V7
	リンクレジスタ (W)	W00001 ～ W08192 W10001 ～ W18192 W20001 ～ W28192 W30001 ～ W38192 W40001 ～ W48192 W50001 ～ W58192 W60001 ～ W68192 W70001 ～ W78192	—
	特殊レジスタ (Z)	Z1 ～ Z1024	—
	ビットデバイスのワード	上記ビットデバイスのワード化 （TU，CU は除く）	上記ビットデバイスのワード化 （TU，CU は除く）

＊1 GOT でモニタできる各デバイスを使用するときの注意事項については，下記のマニュアルを参照してください。

・「GOT1000 シリーズ（GT16/GT15/GT11）シミュレータ」の場合

☞ GT Designer2 Version □画面設計マニュアル

13 Allen-Bradley 社製シーケンサ接続の場合

(1) AB SLC500

	デバイス名	GOT のモニタ可能範囲*1	GT Simulator2 のシミュレート可能範囲（GX Simulator で動作可能な範囲）
ビットデバイス	ビット（B）	B3:0/0 ～ B3:255/15 B10:0/0 ～ B255:255/15	—
	タイマ（タイミングビット）（T）	T4:0/14（TT）～ T4:255/14（TT） T10:0/14（TT）～ T255:255/14（TT）	—
	タイマ（タイミングビット）（T）	T4:0/13（DN）～ T4:255/13（DN） T10:0/13（DN）～ T255:255/13（DN）	—
	カウンタ（アップカウント）（C）	C5:0/15（CU）～ C5:255/15（CU） C10:0/15（CU）～ C255:255/15（CU）	—
	カウンタ（ダウンカウント）（C）	C5:0/14（CD）～ C5:255/14（CD） C10:0/14（CD）～ C255:255/14（CD）	—
	カウンタ（完了ビット）（C）	C5:0/13（DN）～ C5:255/13（DN） C10:0/13（DN）～ C255:255/13（DN）	—
	整数（N）	N7:0 ～ N7:255 N10:0 ～ N255:255	—
ワードデバイス	ビット（B）	B3:0 ～ B3:255 B10:0 ～ B255:255	—
	タイマ（設定値）（T）	T4:0.1（PRE）～ T4:255.1（PRE） T10:0.1（PRE）～ T255:255.1（PRE）	—
	タイマ（現在値）（T）	T4:0.2（ACC）～ T4:255.2（ACC） T10:0.2（ACC）～ T255:255.2（ACC）	—
	カウンタ（設定値）（C）	C5:0.1（PRE）～ C5:255.1（PRE） C10:0.1（PRE）～ C255:255.1（PRE）	—
	カウンタ（現在値）（C）	C5:0.2（ACC）～ C5:255.2（ACC） C10:0.2（ACC）～ C255:255.2（ACC）	—
	整数（N）	N7:0 ～ N7:255 N10:0 ～ N255:255	—

＊1 GOT でモニタできる各デバイスを使用するときの注意事項については，下記のマニュアルを参照してください。

・「GOT1000 シリーズ（GT16/GT15/GT11）シミュレータ」の場合

☞ GT Designer2 Version □画面設計マニュアル

・「GOT-A900 シリーズシミュレータ」の場合

☞ GT Designer2 Version □リファレンスマニュアル

(2) AB MicroLogix1000/1200/1500 シリーズ

デバイス名		GOT のモニタ可能範囲*1	GT Simulator2 のシミュレート可能範囲（GX Simulator で動作可能な範囲）
ビットデバイス	ビット（B）	B3:0/0 ～ B255:255/15	—
	タイマ（タイミングビット）（T）	T3:0/14（TT）～ T255:255/14（TT）	—
	タイマ（完了ビット）（T）	T3:0/13（DN）～ T255:255/13（DN）	—
	カウンタ（アップカウント）（C）	C3:0/15（CU）～ C255:255/15（CU）	—
	カウンタ（ダウンカウント）（C）	C3:0/14（CD）～ C255:255/14（CD）	—
	カウンタ（完了ビット）（C）	C3:0/13（DN）～ C255:255/13（DN）	—
	整数（N）	N3:0/0 ～ N255:255/15	—
ワードデバイス	ビット（B）	B3:0 ～ B255:255	—
	タイマ（設定値）（T）	T3:0.1（PRE）～ T255:255.1（PRE）	—
	タイマ（現在値）（T）	T3:0.2（ACC）～ T255:255.2（ACC）	—
	カウンタ（設定値）（C）	C3:0.1（PRE）～ C255:255.1（PRE）	—
	カウンタ（現在値）（C）	C3:0.2（ACC）～ C255:255.2（ACC）	—
	整数（N）	N3:0 ～ N255:255	—

＊1 GOT でモニタできる各デバイスを使用するときの注意事項については，下記のマニュアルを参照してください。

・「GOT1000 シリーズ（GT16/GT15/GT11）シミュレータ」の場合

☞ GT Designer2 Version □画面設計マニュアル

・「GOT-A900 シリーズシミュレータ」の場合

☞ GT Designer2 Version □リファレンスマニュアル

(3) AB Control/CompactLogix

デバイス名		GOT のモニタ可能範囲*1	GT Simulator2 のシミュレート可能範囲（GX Simulator で動作可能な範囲）
ビットデバイス	ビットデータ（BOOL）	BOOL0[0] ～ BOOL999[31999]	—
ワードデバイス	ワードデータ（INT）	INT0[0] ～ INT999[999]	—
	ダブルワードデータ（DINT）	DINT0[0] ～ DINT999[999]	—
	浮動小数点データ（REAL）	REAL0[0] ～ REAL999[999]	—

＊1 GOT でモニタできる各デバイスを使用するときの注意事項については，下記のマニュアルを参照してください。

・「GOT1000 シリーズ（GT16/GT15/GT11）シミュレータ」の場合

☞ GT Designer2 Version □画面設計マニュアル

14 SIEMENS 社製シーケンサ

(1) SIEMENS S7-300/400 シリーズ

	デバイス名	GOT のモニタ可能範囲*1	GT Simulator2 のシミュレート可能範囲（GX Simulator で動作可能な範囲）
ビットデバイス	入力リレー（I）	I0000 ～ I5117	I0000 ～ I5117
	出力リレー（Q）	Q0000 ～ Q5117	Q0000 ～ Q5117
	ビットメモリ（M）	M00000 ～ M20477	M00000 ～ M10237
	ワードデバイスのビット	下記ワードデバイスの指定ビット（データレジスタのみ可能）	下記ワードデバイスの指定ビット（データレジスタのみ可能）
ワードデバイス	入力リレー（IW）	IW000 ～ IW510	IW000 ～ IW510
	出力リレー（QW）	QW000 ～ QW510	QW000 ～ QW510
	ビットメモリ（MW）	MW0000 ～ MW2046	MW0000 ～ MW1022
	タイマ（現在値）（T）	T0 ～ T511	T0 ～ T255
	カウンタ（現在値）（C）	C0 ～ C511	C0 ～ C255
	データレジスタ（D）	D000100000 ～ D000165534	—
		D000200000 ～ D000265534	
		D000300000 ～ D000365534	
		・ ・ ・	
		D409400000 ～ D409465534	
		D409500000 ～ D409565534	

＊1 GOT でモニタできる各デバイスを使用するときの注意事項については，下記のマニュアルを参照してください。

・「GOT1000 シリーズ（GT16/GT15/GT11）シミュレータ」の場合

☞ GT Designer2 Version □画面設計マニュアル

・「GOT-A900 シリーズシミュレータ」の場合

☞ GT Designer2 Version □リファレンスマニュアル

(2) SIEMENS S7-200 シリーズ

	デバイス名	GOT のモニタ可能範囲*1	GT Simulator2 のシミュレート可能範囲（GX Simulator で動作可能な範囲）
ビットデバイス	変数メモリ（V）	V0 ～ V51197	—
	入力リレー（I）	I00 ～ I77	I00 ～ I77
	出力リレー（Q）	Q00 ～ Q77	Q00 ～ Q77
	ビットメモリ（M）	M000 ～ M317	M000 ～ M317
	特殊メモリ（SM）	SM0000 ～ SM1947	—
	タイマ（T）	T0 ～ T255	T0 ～ T255
	カウンタ（C）	C0 ～ C255	C0 ～ C255
	シーケンスコントロールリレー（S）	S000 ～ S317	—
ワードデバイス	変数メモリ（VW）	VW0 ～ VW5118	VW0 ～ VW1022
	入力リレー（IW）	IW0 ～ IW6	IW0 ～ IW6
	出力リレー（QW）	QW0 ～ QW6	QW0 ～ QW6
	アナログ入力（AIW）	AIW0 ～ AIW30	—
	アナログ出力（AQW）	AQW0 ～ AQW30	—
	ビットメモリ（MW）	MW0 ～ MW30	MW0 ～ MW30
	特殊メモリ（SMW）	SMW0 ～ SMW192	—
	タイマ（T）	T0 ～ T255	T0 ～ T255
	カウンタ（C）	C0 ～ C255	C0 ～ C255
	高速カウンタ（HC）	HC0 ～ HC2	—
	シーケンスコントロールリレー（SW）	SW0 ～ SW30	—

＊1 GOT でモニタできる各デバイスを使用するときの注意事項については，下記のマニュアルを参照してください。

・「GOT1000 シリーズ（GT16/GT15/GT11）シミュレータ」の場合

☞ GT Designer2 Version □画面設計マニュアル

・「GOT-A900 シリーズシミュレータ」の場合

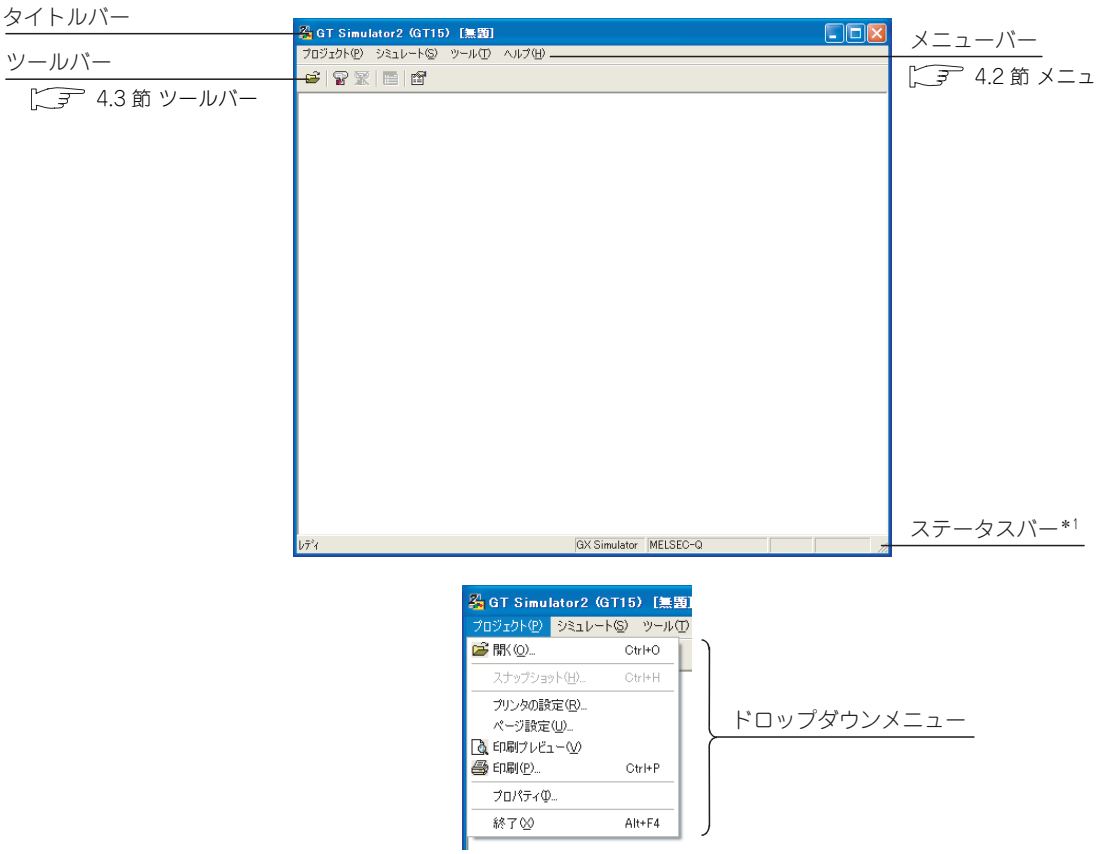
☞ GT Designer2 Version □リファレンスマニュアル

4章　GT Simulator2の画面構成

4.1　画面構成と基本操作

4.1.1　画面構成

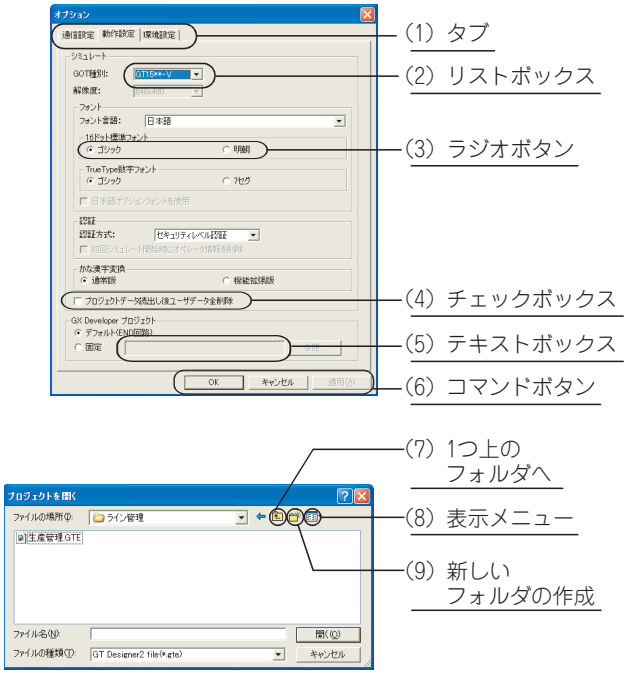
画面構成について説明します。



＊1 GOT1000 シリーズ (GT11) シミュレータ使用時は，画面サイズが 320×240 ドットになるため，ステータスバーの内容がすべて表示されません。
ステータスバーの内容をすべて表示させたい場合は，ウィンドウを広げてください。

4.1.2　基本操作

基本操作について説明します。



(1) タブ
タブの切り換えは，[　　]をクリックします。

(2) リストボックス
▼をクリックして選択一覧を表示した後，選択する項目をクリックします。

(3) ラジオボタン
選択する項目の○をクリックします。

(4) チェックボックス
項目を実行する場合は□をクリックして✔印をつけます。

(5) テキストボックス
キーボードから文字を入力します。

(6) コマンドボタン
コマンドボタンは［OK］，［キャンセル］などがあり，それぞれの項目を実行する場合にクリックします。

(7) 1つ上のフォルダへ
現在のフォルダよりひとつ上の階層を表示します。

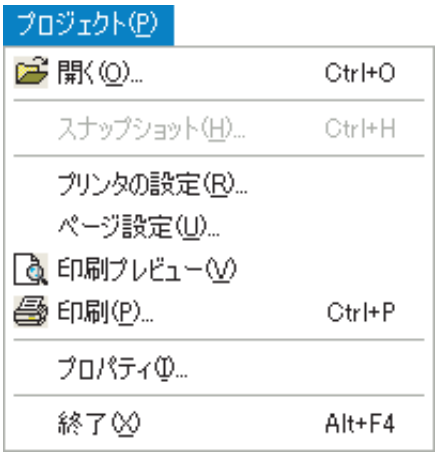
(8) 表示メニュー
現在開いているフォルダ内のフォルダ，ファイルを詳細表示や一覧表示などを選択表示します。

(9) 新しいフォルダの作成
新しいフォルダを作成します。

4.2 メニューバー

メニューバーに割り付けられているコマンドについて説明します。
本節では，「GOT1000 シリーズ (GT15) シミュレータ」の画面を使用し，説明を行います。

プロジェクト



プロジェクトメニューには，プロジェクトデータの読出し，スナップショット，印刷などに関する機能が含まれています。

☞ ・5 章 GT Simulator2 の操作方法
・6 章 GT Simulator2 の機能

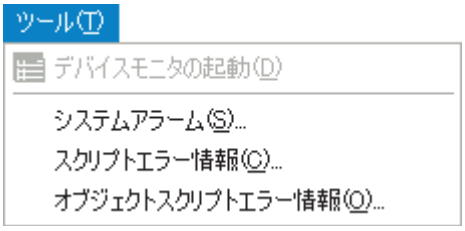
シミュレート



シミュレートメニューには，シミュレートの開始，終了，GT Simulator2 の設定を行う機能が含まれています。

☞ 5 章 GT Simulator2 の操作方法

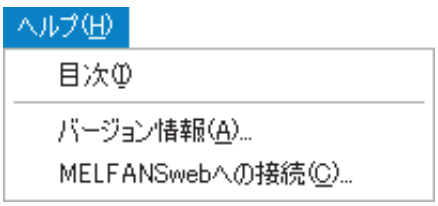
ツール



ツールメニューには，デバイスモニタの起動，終了，各エラー情報の表示を行う機能が含まれています。

☞ ・6 章 GT Simulator2 の機能
・7 章 デバイスモニタ

ヘルプ



ヘルプメニューには，GT Simulator2 に関する PDF ファイルの閲覧，ソフトウェアバージョンの確認などができる機能が含まれています。

☞ 4.4 節 ヘルプの使い方

4.3 ツールバー

ツールバーについて説明します。

1 シミュレート実行前



名　称	内　容
GT Designer2 形式ファイルを開く	シミュレートを行うプロジェクトデータを読み出します。(☞ 5.5 節 プロジェクトを開く)
開始	前回シミュレートしたプロジェクトデータでシミュレートを実行します。(☞ 5.4 節 シミュレートを実行する)
オプション	オプションダイアログボックスを表示します。(☞ 5.3 節 オプションを設定する)

2 シミュレート実行中



名　称	内　容
GT Designer2 形式ファイルを開く	シミュレートを行うプロジェクトデータを読み出します。(☞ 5.5 節 プロジェクトを開く)
終了	シミュレートを終了します。(☞ 5.8 節 GT Simulator2 を終了する)
デバイスモニタの起動	デバイスモニタを起動します。*1 (☞ 7 章 デバイスモニタ)
オプション	オプションダイアログボックスを表示します。*2 (☞ 5.3 節 オプションを設定する)

＊1 デバイスモニタ起動中にクリックすると，デバイスモニタを終了します。
＊2「オプション」の設定内容の確認のみ可能です。(設定は，変更できません。)

4.4　ヘルプの使い方

ヘルプでは，GT Simulator2 に関連する PDF マニュアルの閲覧，ソフトウェアバージョンの確認などができます。

Point

PDF マニュアルを閲覧する前に

PDF マニュアルを閲覧する為には，GT Manual および Adobe® Reader® をインストールする必要があります。

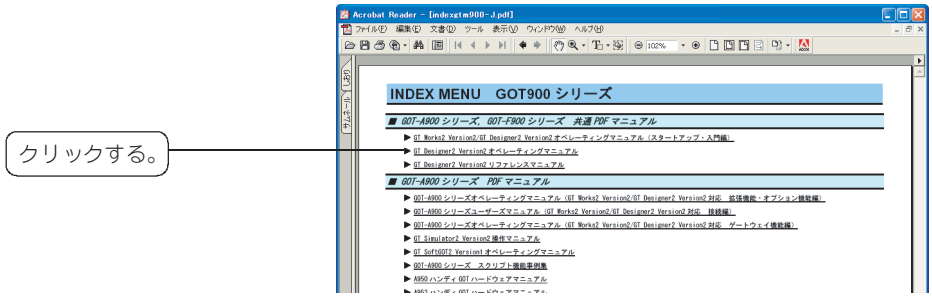
1 操作方法

1 【ヘルプ】の各メニューをクリックします。

項　目	内　容
【目次】	PDF マニュアルを閲覧します。
【バージョン情報】	GT Simulator2 のバージョンを確認できます。
【MELFANSweb への接続】	三菱電機 FA 機器技術情報サービス MELFANSweb ホームページに接続します。

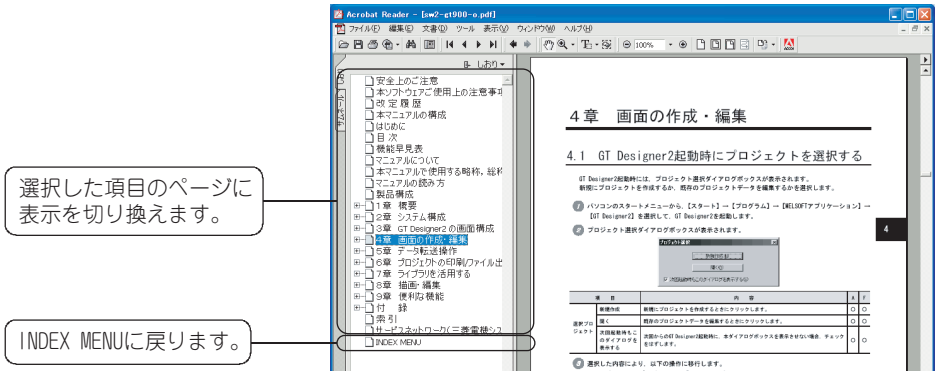
2 PDF マニュアルの閲覧手順（【目次】選択時）

1 1 の操作後，下記の画面が表示されるので，参照したいマニュアルをクリックしてください。



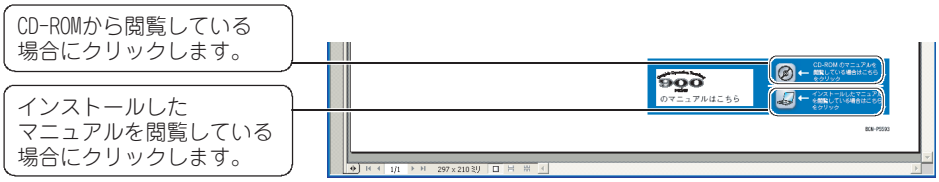
＊上記は説明のために作成したページのため，実際のページとは異なります。

3 選択したマニュアルが表示されます。
（Adobe® Reader® の操作方法の詳細は，Adobe® Reader® ヘルプを参照してください。）



＊上記は説明のために作成したページのため，実際のページとは異なります。

④ INDEX MENU 右下のアイコンをクリックすると，GOT1000/GOT900 シリーズのマニュアルに切り換わります。

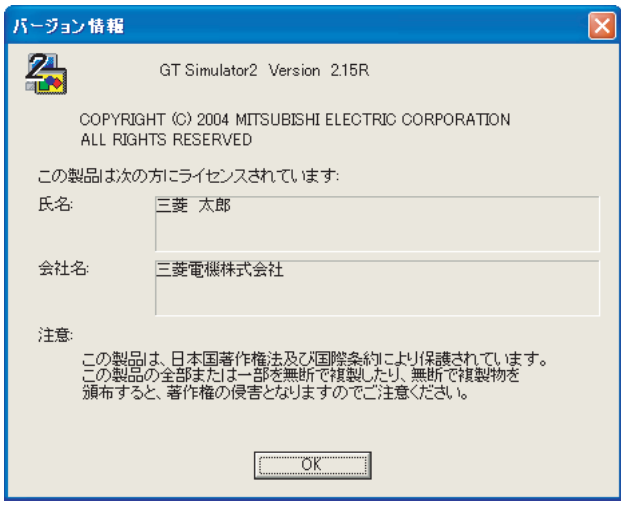


（例：GOT900シリーズに変更する場合の画面）

＊上記は説明のために作成したページのため，実際のページとは異なります。

3 GT Simulator2 のバージョン確認手順（【バージョン情報】選択時）

① 1 の操作後，バージョン情報画面が表示されます。



（例：バージョン 2.15R の場合）

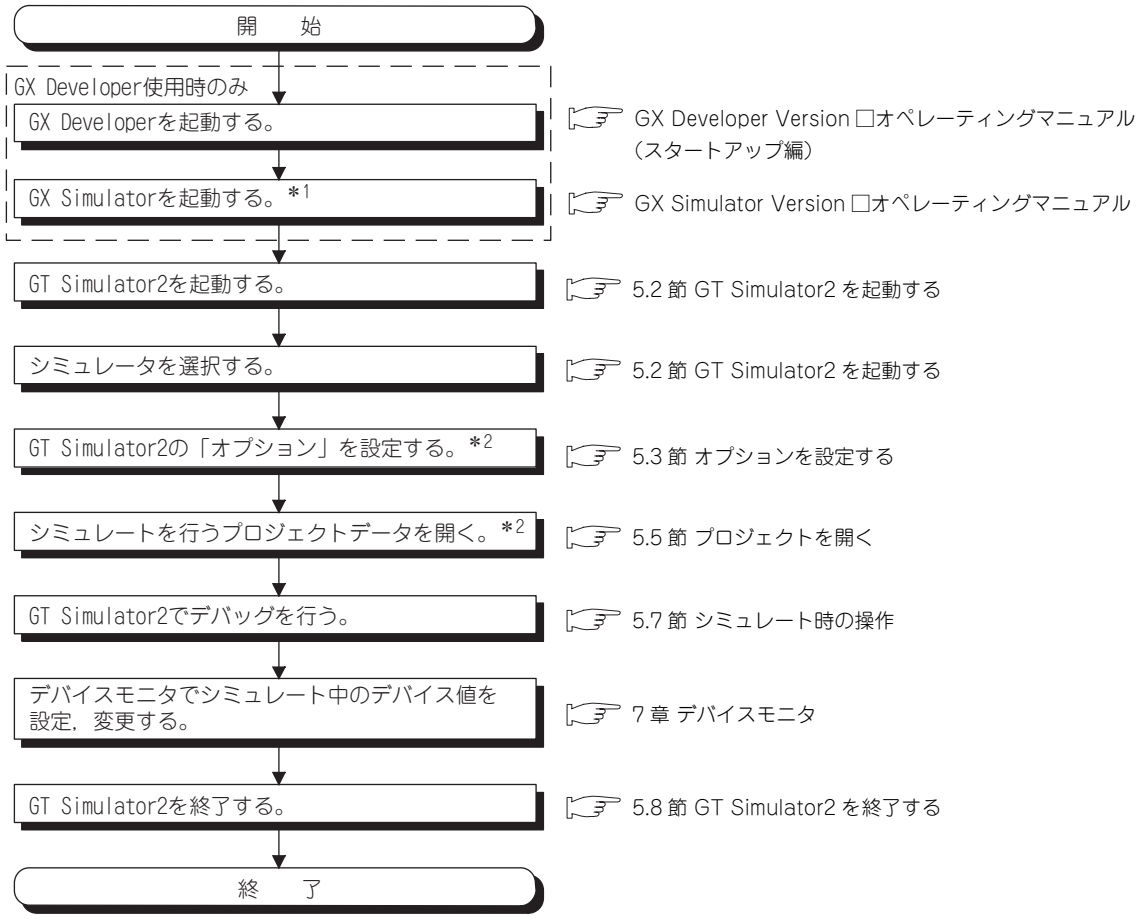
項　目	内　容
GT Simulator2	GT Simulator2 のバージョンが表示されます。
氏名	GT Simulator2 のインストール時に入力した名前が表示されます。
会社名	GT Simulator2 のインストール時に入力した会社名が表示されます。
OK	バージョン情報画面を閉じます。

5章　GT Simulator2の操作方法

5.1　操作手順

GT Simulator2 の操作手順を下記に示します。

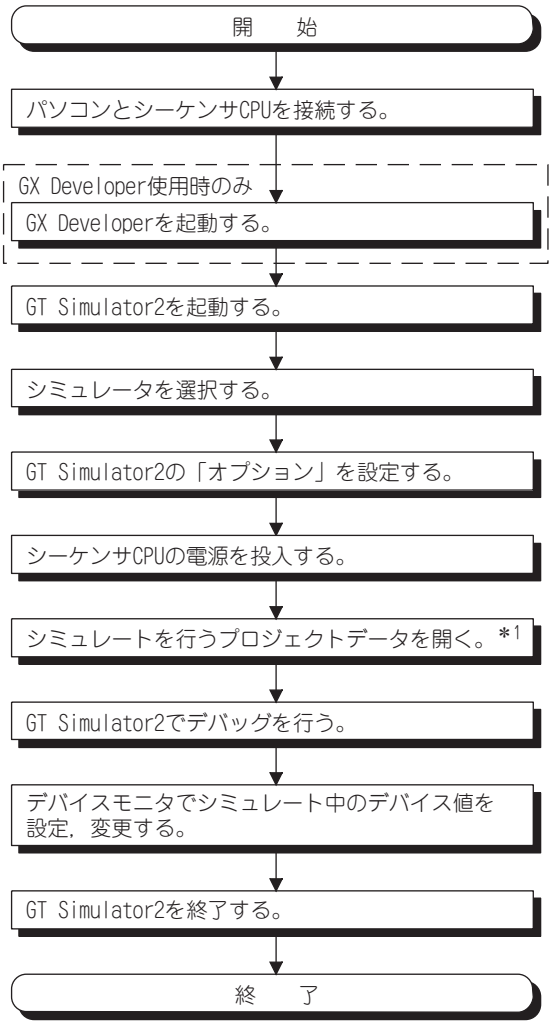
1 GT Simulator2 と GX Simulator を接続する場合



＊1 GX Developer を使用しない場合，GX Simulator は GT Simulator2 でシミュレート実行時に自動的に起動されます。

＊2 前回シミュレートしたプロジェクトデータでシミュレートを行う場合は，【シミュレート】→【開始】メニューでシミュレートを実行できます。
詳細については，下記を参照してください。
☞ 5.4 節 シミュレートを実行する

2 GT Simulator2 とシーケンサ CPU を接続する場合



☞ ・2.3 節 シミュレートできるシーケンサ CPU
・2.4 節 接続ケーブル

☞ GX Developer Version □オペレーティングマニュアル（スタートアップ編）

☞ 5.2 節 GT Simulator2 を起動する

☞ 5.2 節 GT Simulator2 を起動する

☞ 5.3 節 オプションを設定する

☞ 使用するシーケンサ CPU のマニュアル

☞ 5.5 節 プロジェクトを開く

☞ 5.7 節 シミュレート時の操作

☞ 7 章 デバイスモニタ

☞ 5.8 節 GT Simulator2 を終了する

＊1 前回シミュレートしたプロジェクトデータでシミュレートを行う場合は，【シミュレート】→【開始】メニューでシミュレートを実行できます。
詳細については，下記を参照してください。
☞ 5.4 節 シミュレートを実行する

Point **「オプション」の「接続方法」について**

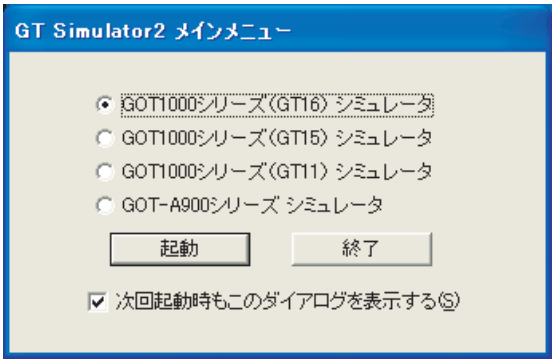
「接続方法」の設定内容は，GT Simulator2 を終了させると「GX Simulator」（デフォルト）に戻ります。
GT Simulator2 とシーケンサ CPU を接続する場合は，GT Simulator2 起動時に「接続方法」の設定内容を「CPU」に設定しなおしてください。

5.2 GT Simulator2 を起動する

シミュレータを選択し，GT Simulator2 を起動します。

1 Microsoft® Windows® の【スタート】→【プログラム】→【MELSOFT アプリケーション】→【GT Works2】→【GT Simulator2】メニューを選択します。

2 GT Simulator2 メインメニューダイアログボックスが表示されます。
次の項目を設定して[起動]ボタンをクリックします。



項　目	内　容
GOT1000 シリーズ (GT16) シミュレータ	「GOT1000 シリーズ (GT16) シミュレータ」を起動する場合に選択します。 GT16 のプロジェクトデータをシミュレートする場合に選択してください。
GOT1000 シリーズ (GT15) シミュレータ	「GOT1000 シリーズ (GT15) シミュレータ」を起動する場合に選択します。 GT15 のプロジェクトデータをシミュレートする場合に選択してください。
GOT1000 シリーズ (GT11) シミュレータ	「GOT1000 シリーズ (GT11) シミュレータ」を起動する場合に選択します。 GT11 のプロジェクトデータをシミュレートする場合に選択してください。
GOT-A900 シリーズシミュレータ	「GOT-A900 シリーズシミュレータ」を起動する場合に選択します。 GOT-A900 シリーズのプロジェクトデータをシミュレートする場合に選択してください。
次回起動時もこのダイアログを表示する	次回から GT Simulator2 起動時に，本ダイアログボックスを表示させない場合，チェックをはずします。
[起動]	GT Simulator2 を起動します。
[終了]	GT Simulator2 を起動させずに，本ダイアログボックスを閉じます。

3 GT Simulator2 が起動します。

Point

「次回起動時もこのダイアログを表示する」のチェックをはずした場合

「次回起動時もこのダイアログを表示する」のチェックをはずし，GT Simulator2 を起動した場合，次回起動時はシミュレータを選択できなくなります。
「オプション」の環境設定タブで，GT Simulator2 メインメニューダイアログボックスを表示させるための設定を行ってください。

☞ 5.3 節 オプションを設定する

5.3 オプションを設定する

GT Simulator2 の接続方法，シミュレートする GOT の種類，使用するシーケンスプログラムなどを設定します。

1 次のいずれかの操作を行います。

-  （オプション）をクリック
- 【シミュレート】→【オプション】メニューを選択
- マウスを右クリックし，【オプション】メニューを選択

2 オプションダイアログボックスが表示されます。
各項目を設定し，OK ボタンをクリックしてください。
オプションダイアログボックスの詳細については，下記を参照してください。

☞ ・5.3.1 項 設定項目（GOT1000 シリーズ（GT16/GT15/GT11）シミュレータ）
・5.3.2 項 設定項目（GOT-A900 シリーズシミュレータ）

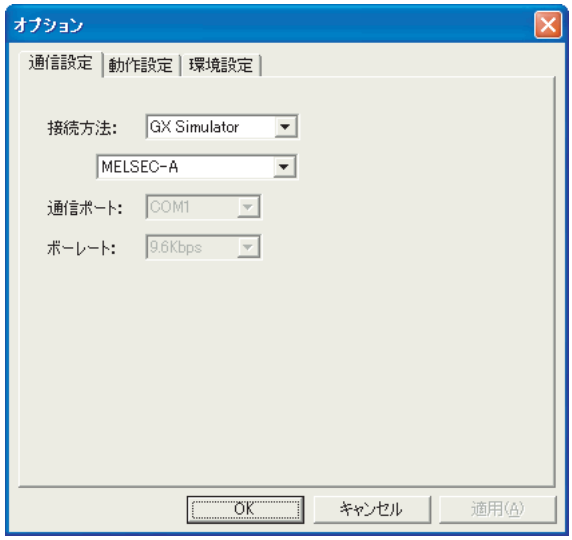
Point **「オプション」の設定**

「オプション」の設定は，シミュレート実行前に行ってください。
シミュレート実行中は，「オプション」の設定を変更することはできません。
一度シミュレートを終了し，GT Simulator2 を再起動してください。

5.3.1　設定項目（GOT1000 シリーズ (GT16/GT15/GT11) シミュレータ）

1 通信設定タブ

接続方法，シーケンサ CPU のタイプ，通信ポート，ボーレートの設定を行います。



通信設定 | 動作設定 | 環境設定

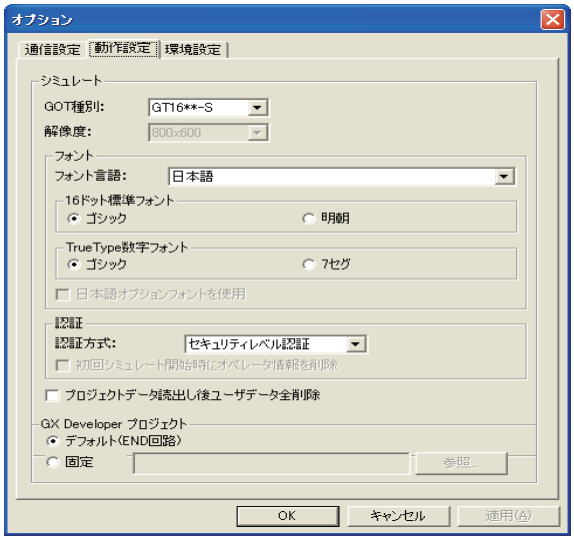
項　目	内　容		
接続方法	GT Simulator2 の接続方法を設定します。 GX Simulator ：GX Simulator でシミュレートを行う場合に設定します。 CPU ：シーケンサ CPU に接続してシミュレートを行う場合に設定します。		
	GX Simulator およびシーケンサ CPU の CPU 種別を設定します。		
	接続方法	CPU 種別	内　容
	GX Simulator 選択時	MELSEC-A	下記シーケンサ CPU 時に設定します。 ・ACPU ・モーションコントローラ CPU（A シリーズ） ・他社製シーケンサ
		MELSEC-QnA	QnACPU 時に設定します。
		MELSEC-Q	QCPU（Q モード）時に設定します。
		MELSEC-Q(A-Mode)	QCPU（A モード）時に設定します。
		MELSEC-FX	FXCPU 時に設定します。
	CPU 選択時	MELSEC-A	ACPU，モーションコントローラ CPU（A シリーズ）時に設定します。
		MELSEC-QnA	QnACPU 時に設定します。
		MELSEC-Q	QCPU（Q モード）時に設定します。
		MELSEC-Q(A-Mode)	QCPU（A モード）時に設定します。
		MELSEC-FX	FXCPU 時に設定します。
		MELDAS C6*	MELDAS C6/C64 時に設定します。
		OMRON SYSMAC	オムロン社製シーケンサ時に設定します。
通信ポート	パソコン側の通信ポート（COM1 ～ COM6）を設定します。 「接続方法」で「CPU」を選択した場合のみ選択できます。		
ボーレート	MELDAS C6* との伝送速度は，19.2kbps（固定）です。 その他のシーケンサ CPU との伝送速度は，9.6kbps（固定）です。		

Point 「オプション」の「接続方法」について

「接続方法」の設定内容は，GT Simulator2 を終了させると「GX Simulator」（デフォルト）に戻ります。
GT Simulator2 とシーケンサ CPU を接続する場合は，GT Simulator2 起動時に「接続方法」の設定内容を「CPU」に設定しなおしてください。

2 動作設定タブ

GOT の種別，解像度，フォントなどの設定を行います。



通信設定 | **動作設定** | 環境設定

項　目	内　容
GOT 種別	シミュレートする GOT の種別を設定します。 GT16**-V：GT16**-V としてシミュレートします。(640×480 ドット) GT16**-S：GT16**-S としてシミュレートします。(800×600 ドット) GT16**-X：GT16**-X としてシミュレートします。(1024×768 ドット) GT15**-Q：GT15**-Q としてシミュレートします。(320×240 ドット) GT155*-V：GT155*-V としてシミュレートします。(640×480 ドット) GT15**-V：GT15**-V *1 としてシミュレートします。(640×480 ドット) GT15**-S：GT15**-S としてシミュレートします。(800×600 ドット) GT15**-X：GT15**-X としてシミュレートします。(1024×768 ドット)
フォント言語	シミュレート時のフォント言語を選択します。 GT Designer2 の「システム環境」で設定したフォント言語と同じフォント言語を選択してください。 日本語　：日本語でシミュレートを行います。 日本語（欧州対応）　：欧州対応の日本語でシミュレートを行います。 中国語（簡体）　：中国語（簡体）でシミュレートを行います。 中国語（簡体）（欧州対応）　：欧州対応の中国語（簡体）でシミュレートを行います。 中国語（繁体）（欧州対応）　：欧州対応の中国語（繁体）でシミュレートを行います。
16 ドット標準フォント	シミュレート時の 16 ドット標準フォントを選択します。*2
TrueType 数字フォント	シミュレート時の TrueType 数字フォントを選択します。
日本語オプションフォントを使用*3	「フォント言語」にて「中国語（簡体）」または「中国語（簡体）（欧州対応）」選択時のみの設定項目です。 通常（中国語（簡体）で表示する場合）は，チェックしないでください。 チェックすると，漢字圏の設定が無いオブジェクトなどは，日本語で表示されます
認証方式*3	認証方式を選択します。 GT Designer2 の「システム環境」で設定した認証方式と同じ認証方式を選択してください。
初回シミュレート開始時にオペレータ情報を削除	「認証方式」で「オペレータ認証」を選択時のみの設定項目です。 本設定をチェックすると，GT Simulator2 に登録したオペレータ情報を，シミュレート開始時に削除します。(オペレータ認証用のパスワードを忘れた場合にリセットできます。)
かな漢字変換*5	シミュレート時のかな漢字変換機能を選択します。

項　目	内　容
プロジェクトデータ読出し後ユーザデータ全削除	プロジェクトデータの読出し後に，下記フォルダ内のデータをすべて削除する場合にチェックします。 ・「GOT1000シリーズ（GT16）シミュレータ」の場合 （インストール先フォルダ* 4）\GSS2\GT1600\Drive\A,B ・「GOT1000シリーズ（GT15）シミュレータ」の場合 （インストール先フォルダ* 4）\GSS2\GT1500\Drive\A,B ・「GOT1000シリーズ（GT11）シミュレータ」の場合 （インストール先フォルダ* 4）\GSS2\GT1100\Drive\D
GX Developer プロジェクト	シミュレート時に使用するシーケンスプログラムを設定します。 デフォルト（END 回路）：END 命令のみのシーケンスプログラムでシミュレートを行います。 固定　：任意のシーケンスプログラムでシミュレートを行います。 参照ボタンをクリックし，GX Developer のプロジェクトを選択します。

＊1 シミュレートできる GOT については，下記を参照してください。
☞ 3.1 項 シミュレートできる GOT
＊2「フォント言語」にて「中国語（簡体）」または「中国語（簡体）（欧州対応）」選択時は，自動的に「明朝」となります。
＊3 GOT1000 シリーズ（GT16/GT15）シミュレータのみの設定項目です。
＊4 デフォルトは "C:\Program Files\MELSOFT" です。
＊5 GOT1000 シリーズ（GT15）シミュレータのみの設定項目です。

Point

GX Developer プロジェクトについて

「デフォルト（END 回路）」を選択した場合，GT Simulator2 は以下の CPU でシミュレートを実施します。

・QCPU：Q25HCPU　　・QnACPU ：Q4ACPU
・ACPU：A4UCPU　　・FXCPU　：FX2N(C) シリーズ

上記以外の CPU を想定してプロジェクトデータを作成している場合，デバイス範囲の違いなどにより，正常にシミュレートできない場合があります。
シミュレートできない場合は，GX Developer でシミュレートしたい CPU のプロジェクト（END 回路）を作成し，そのプログラムを指定してシミュレートしてください。

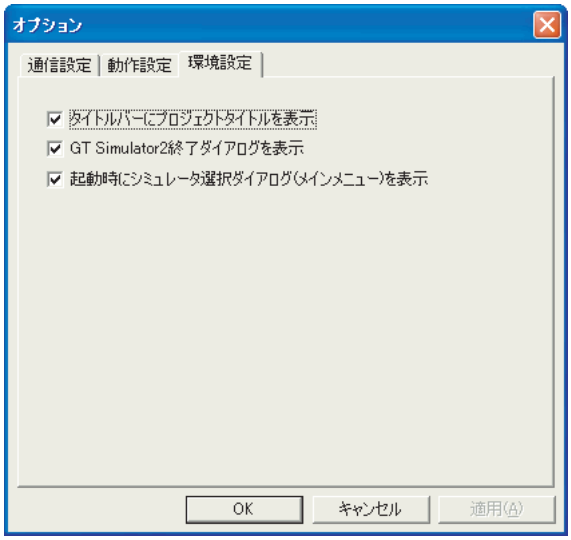
備　考

レシピファイルについて

同一ファイル名のレシピファイルがすでに存在する場合，GT Designer2 で設定を変更しても，変更内容は，反映（上書き）されません。
そのため，変更した設定内容でデバイス値の読出し／書込みが行われません。
上記場合には，「プロジェクトデータ読出し後ユーザデータ全削除」をチェックしてください。

3 環境設定タブ

タイトルバー，終了ダイアログボックス，メインメニューの表示を設定します。



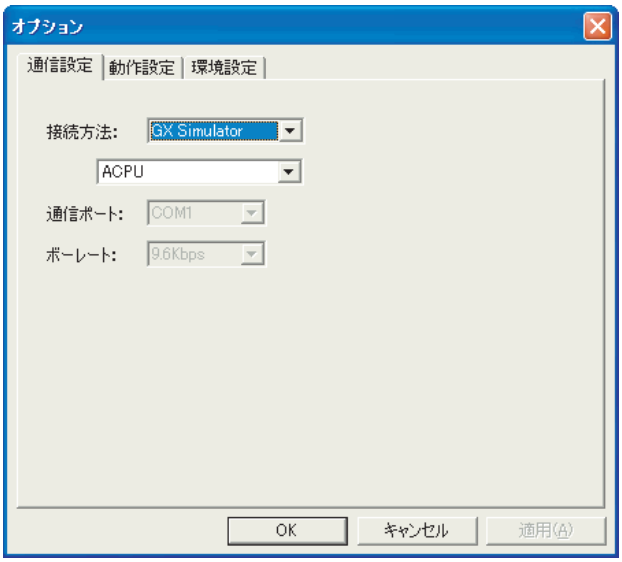
通信設定 | 動作設定 | **環境設定**

項　目	内　容
タイトルバーにプロジェクトタイトルを表示	タイトルバーに，プロジェクトデータのタイトルを表示する場合にチェックします。
GT Simulator2 終了ダイアログを表示	GT Simulator2 の終了時に，終了確認ダイアログボックスを表示させる場合にチェックします。
起動時にシミュレータ選択ダイアログ（メインメニュー）を表示	GT Simulator2 起動時に，GT Simulator2 メインメニューダイアログボックスを表示させる場合にチェックします。

5.3.2　設定項目（GOT-A900 シリーズシミュレータ）

1 通信設定タブ

接続方法，シーケンサ CPU のタイプ，通信ポート，ボーレートの設定を行います。



通信設定 動作設定 環境設定

項　目	内　容		
接続方法	GT Simulator2 の接続方法を設定します。 GX Simulator ：GX Simulator でシミュレートを行う場合に設定します。 CPU ：シーケンサ CPU に接続してシミュレートを行う場合に設定します。		
	GX Simulator およびシーケンサ CPU の CPU 種別を設定します。		
	接続方法	CPU 種別	内　容
	GX Simulator 選択時	ACPU	下記シーケンサ CPU 時に設定します。 ・ACPU ・モーションコントローラ CPU（A シリーズ） ・他社製シーケンサ
		QnACPU, MELDAS C6*	QnACPU, MELDAS C6/C64 時に設定します。
		QCPU	QCPU（Q モード）時に設定します。
		QCPU-A	QCPU（A モード）時に設定します。
		FX	FXCPU 時に設定します。
	CPU 選択時	ACPU	ACPU，モーションコントローラ CPU（A シリーズ）時に設定します。
		QnACPU, MELDAS C6*	QnACPU, MELDAS C6/C64 時に設定します。
		QCPU	QCPU（Q モード）時に設定します。
		QCPU-A	QCPU（A モード）時に設定します。
		FX	FXCPU 時に設定します。
通信ポート	パソコン側の通信ポート（COM1 ～ COM6）を設定します。 「接続方法」で「CPU」を選択した場合のみ選択できます。		
ボーレート	シーケンサ CPU との伝送速度（9.6kbps ～ 115.2kbps）を設定します。 「接続方法」で「CPU」を選択した場合のみ選択できます。 「接続方法」で設定した CPU 種別により設定範囲が異なります。		

Point

(1) 「オプション」の「接続方法」について

「接続方法」の設定内容は，GT Simulator2 を終了させると「GX Simulator」（デフォルト）に戻ります。
GT Simulator2 とシーケンサ CPU を接続する場合は，GT Simulator2 起動時に「接続方法」の設定内容を「CPU」に設定しなおしてください。

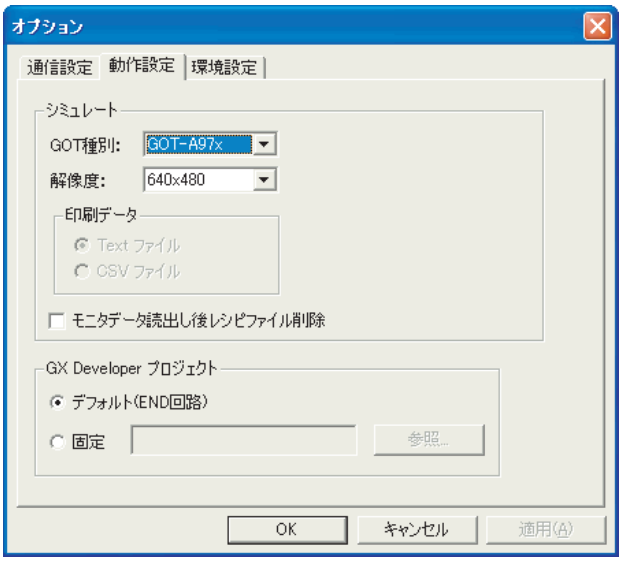
(2) 「ボーレート」の設定内容

MELDAS C6/C64 または FXCPU と接続する場合は，下記の設定を行ってください。

- MELDAS C6/C64 と接続時
  19.2kbps に設定してください。
- FXCPU と接続時
  接続する FXCPU が対応しているボーレートを設定してください。
  対応していないボーレートを設定した場合は，9.6kbps でシミュレートを行います。

2 動作設定タブ

GOT の種別，解像度，印刷データなどの設定を行います。



通信設定 | **動作設定** | 環境設定

項　　目	内　　容
GOT 種別	シミュレートする GOT の種別を設定します。 GOT-A950　：A950GOT としてシミュレートします。(320×240 ドット) GOT-A956W：A956WGOT としてシミュレートします。(480×234 ドット) GOT-A960　：A960GOT としてシミュレートします。(640×400 ドット) GOT-A97x　：A97*GOT としてシミュレートします。(640×480 ドット) GOT-A985　：A985GOT(-V) としてシミュレートします。(800×600 ドット) SoftGOT2　：GT SoftGOT2 としてシミュレートします。
解像度	GT Simulator2 の画面サイズ（640×480 ～ 1280×1024 ドット）を設定します。 「GOT 種別」で「SoftGOT2」を選択した場合のみ選択できます。
印刷データ	アラーム履歴表示／レポート／レシピ機能などの印刷や保存時に，MemCard フォルダ内に保存するデータの形式を選択します。 「GOT 種別」で「SoftGOT2」を選択した場合のみ選択できます。 Text ファイル：データを Text ファイル形式で保存します。 CSV ファイル：データを CSV ファイル形式で保存します。
モニタデータ読出し後 レシピファイル削除	モニタデータ読出し後，MemCard のフォルダ内にあるレシピデータを削除する場合にチェックします。
GX Developer プロジェクト	シミュレート時に使用するシーケンスプログラムを設定します。 デフォルト（END 回路）：END 命令のみのシーケンスプログラムでシミュレートを行います。 固定　：任意のシーケンスプログラムでシミュレートを行います。 参照 ボタンをクリックし，GX Developer のプロジェクトを選択します。

Point

GX Developer プロジェクトについて

「デフォルト（END 回路）」を選択した場合，GT Simulator2 は以下の CPU でシミュレートを実施します。

・QCPU：Q25HCPU　　・QnACPU ：Q4ACPU
・ACPU：A4UCPU　　・FXCPU ：FX2N(C) シリーズ

上記以外の CPU を想定してプロジェクトデータを作成している場合，デバイス範囲の違いなどにより，正常にシミュレートできない場合があります。
シミュレートできない場合は，GX Developer でシミュレートしたい CPU のプロジェクト（END 回路）を作成し，そのプログラムを指定してシミュレートしてください。

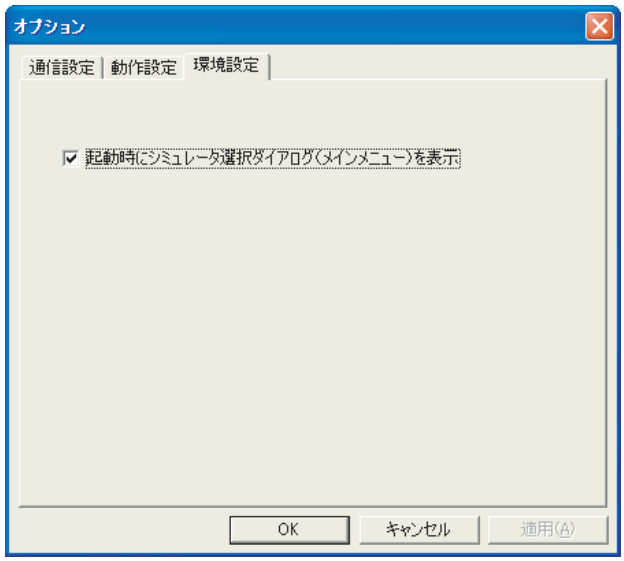
備　考

レシピファイルについて

同一ファイル名のレシピファイルがすでに存在する場合，GT Designer2 で設定を変更しても，変更内容は，反映（上書き）されません。
そのため，変更した設定内容でデバイス値の読出し／書込みが行われません。
上記場合には，「モニタデータ読出し後レシピファイル削除」をチェックしてください。

3 環境設定タブ

メインメニューの表示を設定します。



通信設定 | 動作設定 | **環境設定**

項　目	内　容
起動時にシミュレータ選択ダイアログ（メインメニュー）を表示	GT Simulator2 起動時に，GT Simulator2 メインメニューダイアログボックスを表示させる場合にチェックします。

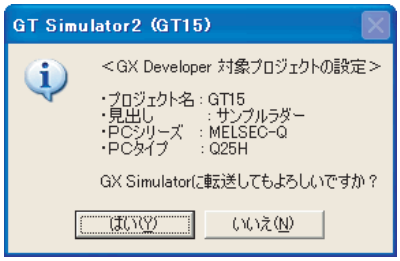
5.4　シミュレートを実行する

前回シミュレートしたプロジェクトデータでシミュレートを実行します。

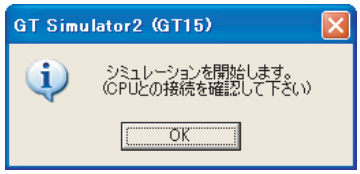
1 次のいずれかの操作を行います。

- （開始）をクリック
- 【シミュレート】→【開始】メニューを選択
- マウスを右クリックし，【開始】メニューを選択

2 確認ダイアログボックスが表示されます。
「オプション」の設定内容により，表示されるメッセージが異なります。
表示内容を確認し，[はい]ボタンまたは[OK]ボタンをクリックします。

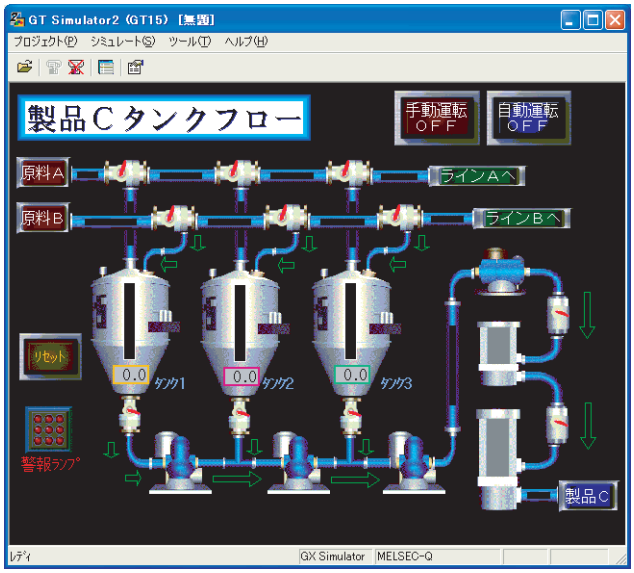


（GX Simulator接続時）



（CPU直接接続時）

3 前回シミュレートしたプロジェクトデータでシミュレートが開始されます。



Point

(1) 初めてシミュレートを実行する場合

【プロジェクト】→【開く】メニューを選択し，シミュレートを行うプロジェクトデータを設定してください。

☞ 5.5 節 プロジェクトを開く

初めてシミュレートを実行する場合に，本節の操作を行うとユーティリティが表示されます。

(2) 前回のシミュレート後からプロジェクトデータを修正している場合

【プロジェクト】→【開く】メニューを選択し，シミュレートを行うプロジェクトデータを再設定し，シミュレートを実行してください。

☞ 5.5 節 プロジェクトを開く

5.5　プロジェクトを開く

シミュレートを行うプロジェクトデータを設定し，シミュレートを実行します。

1 次のいずれかの操作を行います。

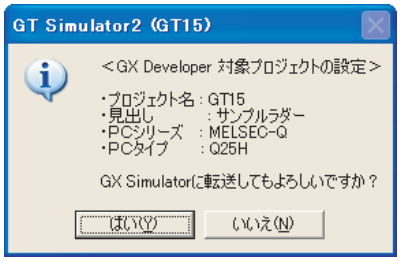
- （GT Designer2 形式ファイルを開く）をクリック
- 【プロジェクト】→【開く】メニューを選択
- マウスを右クリックし，【開く】メニューを選択

2 GT Designer2 形式ファイルを開くダイアログボックスが表示されます。
次の項目を設定して[開く]ボタンをクリックします。

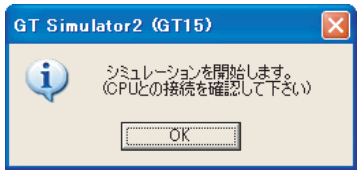


項　目	内　容
ファイルの場所	プロジェクトデータが保存されている場所を選択します。
ファイル名	シミュレートを行うプロジェクトデータ名を設定します。
ファイルの種類	プロジェクトデータの種類を選択します。 ・「GOT1000シリーズ（GT16/GT15/GT11）シミュレータ」の場合 GT Designer2 file(*.gte)　：GT Designer2 で作成した GOT1000 シリーズ（GT16/GT15/GT11）のプロジェクトデータ時に選択します。 ・「GOT-A900シリーズシミュレータ」の場合 GT Designer2 file(*.gtd)　：GT Designer2 で作成した GOT-A900 シリーズのプロジェクトデータ時に選択します。 GT Designer file(A9gotp.got)　：GT Designer で作成した GOT-A900 シリーズのプロジェクトデータ時に選択します。

3 確認ダイアログボックスが表示されます。
「オプション」の設定内容により，表示されるメッセージが異なります。
表示内容を確認し，[はい]ボタンまたは[OK]ボタンをクリックします。



（GX Simulator接続時）

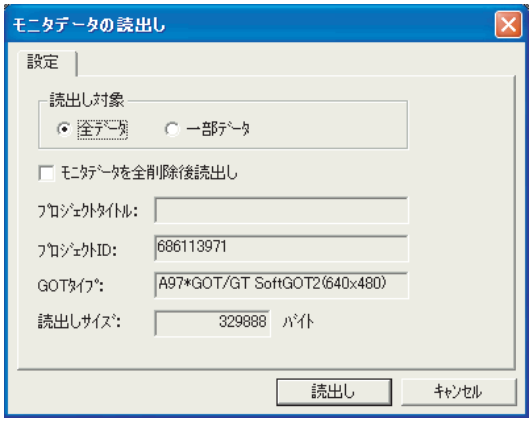


（CPU直接接続時）

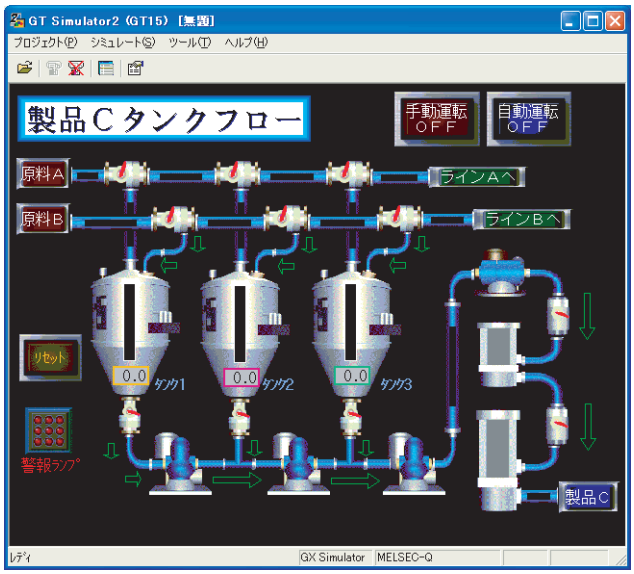
4 「GOT-A900 シリーズシミュレータ」の場合，モニタデータの読出しダイアログボックスが表示されます。

各項目を設定して 読出し ボタンをクリックします。
詳細については，下記を参照してください。

☞ 5.6 節 モニタデータの読出しを設定する（GOT-A900 シリーズシミュレータ）



5 シミュレートが開始されます。



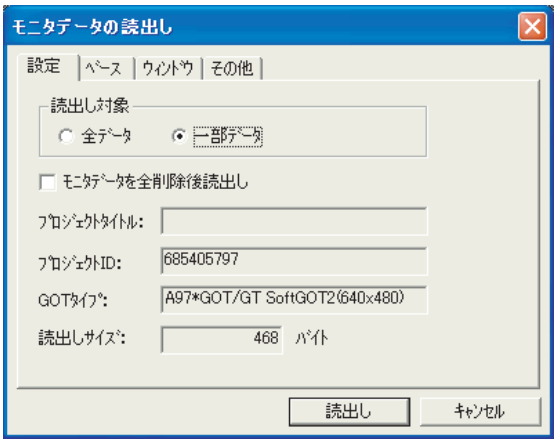
5.6 モニタデータの読出しを設定する（GOT-A900シリーズシミュレータ）



シミュレートするモニタデータを設定します。

1 設定タブ

読み出すモニタデータを設定します。

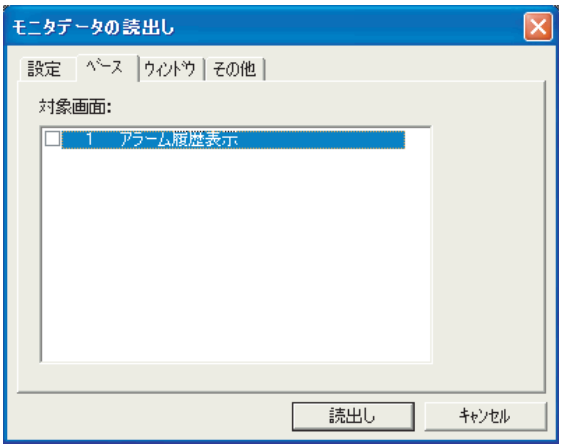


設定 ベース ウィンドウ その他

項　目	内　容
読出し対象	読み出すモニタデータを設定します。 全データ　：モニタデータ内のすべてのデータを読み出す場合に設定します。 一部データ：モニタデータ内の一部のデータを読み出す場合に設定します。 読み出すデータはベースタブ，ウィンドウタブ，その他タブで選択します。
モニタデータを全削除後読出し	すでに読み出しているモニタデータを削除後，選択したモニタデータを読み出す場合にチェックします。
プロジェクトタイトル	モニタデータのタイトルが表示されます。
プロジェクト ID	モニタデータのプロジェクト ID が表示されます。
GOT タイプ	モニタデータの GOT タイプが表示されます。
読出しサイズ	読み出すモニタデータのデータサイズが表示されます。
読出し	モニタデータを読出し，シミュレートを実行します。
キャンセル	モニタデータの読出しを行わずに，本ダイアログボックスを閉じます。 キャンセルボタンをクリックすると，「GOT-A900 シリーズシミュレータ」にはユーティリティが表示されます。

2 ベースタブ

読み出すベース画面を設定します。
本タブは，設定タブの「読出し対象」で「一部データ」を選択して表示させます。

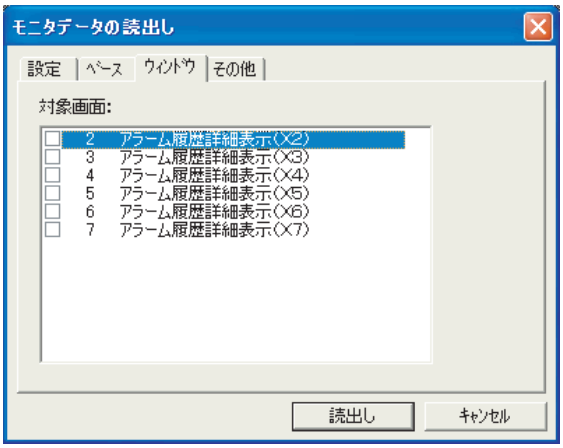


設定 | ベース | ウィンドウ | その他

項　目	内　容
対象画面	ベース画面の画面番号と画面タイトルが表示されます。 読み出すベース画面にチェックします。
読出し	（☞ 本節 1 設定タブ）
キャンセル	

3 ウィンドウタブ

読み出すウィンドウ画面を設定します。
本タブは，設定タブの「読出し対象」で「一部データ」を選択して表示させます。

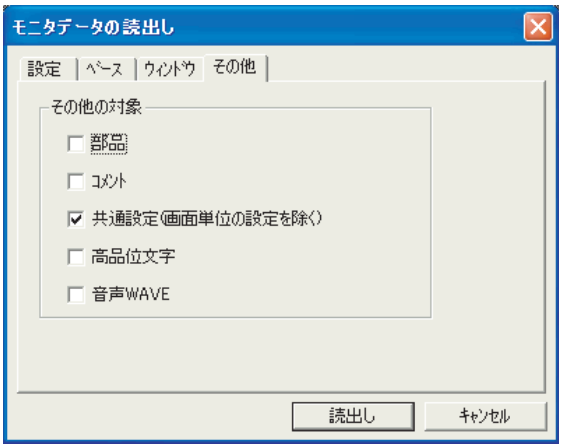


設定 | ベース | ウィンドウ | その他

項　目	内　容
対象画面	ウィンドウ画面の画面番号と画面タイトルが表示されます。 読み出すウィンドウ画面にチェックします。
読出し	（☞ 本節 1 設定タブ）
キャンセル	

4 その他タブ

ベース画面，ウィンドウ画面以外の読み出す対象を設定します。
本タブは，設定タブの「読出し対象」で「一部データ」を選択して表示させます。

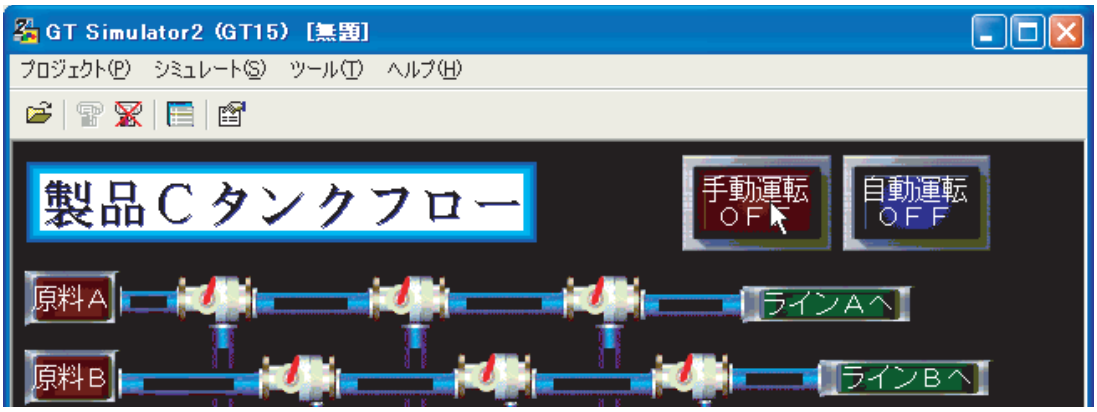


設定 | ベース | ウィンドウ | その他

項　目	内　容
その他の対象	読み出す対象をチェックします。 共通設定は必ず読み出されます。(「共通設定（画面単位の設定は除く）」のチェックは，はずれません。) 部品　：部品データを読み出す場合にチェックします。 コメント　：コメントデータを読み出す場合にチェックします。 高品位文字：高品位文字データを読み出す場合にチェックします。 音声 WAVE：音声 WAVE データを読み出す場合にチェックします。
読出し	(☞ 本節 1 設定タブ)
キャンセル	

5.7　シミュレート時の操作

GT Simulator2 では GOT のタッチ入力は，マウスでの入力となります。
GOT に比べ入力範囲が狭いので，入力後のブザー音により入力を確認してください。



Point

ブザー音について

Windows® 98，Windows® Me では，サウンドカードを装着している場合，「コントロールパネル」→「サウンド」の「一般の警告音」で設定した音が鳴ります。

備　考

GT Simulator2 の使用例

GT Designer2 が提供するサンプルプロジェクトデータを使用した，GT Simulator2 の使用方法については，下記を参照してください。

☞ 付 1 GT Simulator2 の使用例

5.8 GT Simulator2 を終了する

GT Simulator2 を終了します。

1. デバイスモニタを使用している場合は，デバイスモニタを終了します。

   ☞ 7.4 節 デバイスモニタの操作方法

2. 次のいずれかの操作を行います。

   -  （終了）をクリック
   - 【プロジェクト】→【終了】メニューを選択
   - 【シミュレート】→【終了】メニューを選択
   - タイトルバーの  をクリック
   - マウスを右クリックし，【終了】メニューを選択

3. GT Simulator2 が終了します。

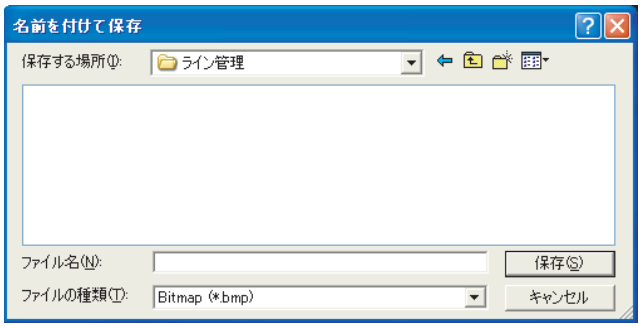
6章　GT Simulator2の機能

6.1　スナップショット

シミュレート実行中の画面イメージを，BMP 形式または JPEG 形式のファイルに保存します。

1 次の操作を行います。
- 【プロジェクト】→【スナップショット】メニューを選択

2 名前を付けて保存ダイアログボックスが表示されます。
次の項目を設定して保存ボタンをクリックします。



項　目	内　容
保存する場所	ファイルを保存する場所を選択します。
ファイル名	保存するファイル名を設定します。
ファイルの種類	・「GOT1000シリーズ（GT16/GT15/GT11）シミュレータ」の場合 BMP(＊.bmp) または JPEG(＊.jpg) 形式のファイルに保存します。 ・「GOT-A900シリーズシミュレータ」の場合 BMP(＊.bmp) 形式のファイルに保存します。

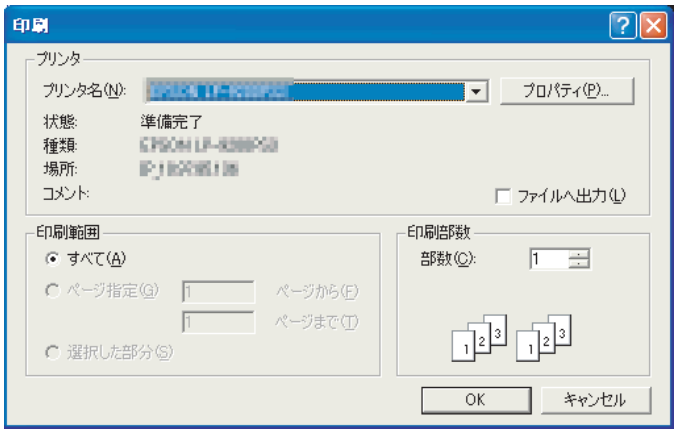
6.2　印刷

シミュレート実行中の画面イメージをプリンタへ出力します。

6.2.1　印刷をする

1 次の操作を行います。
- 【プロジェクト】→【印刷】メニューを選択

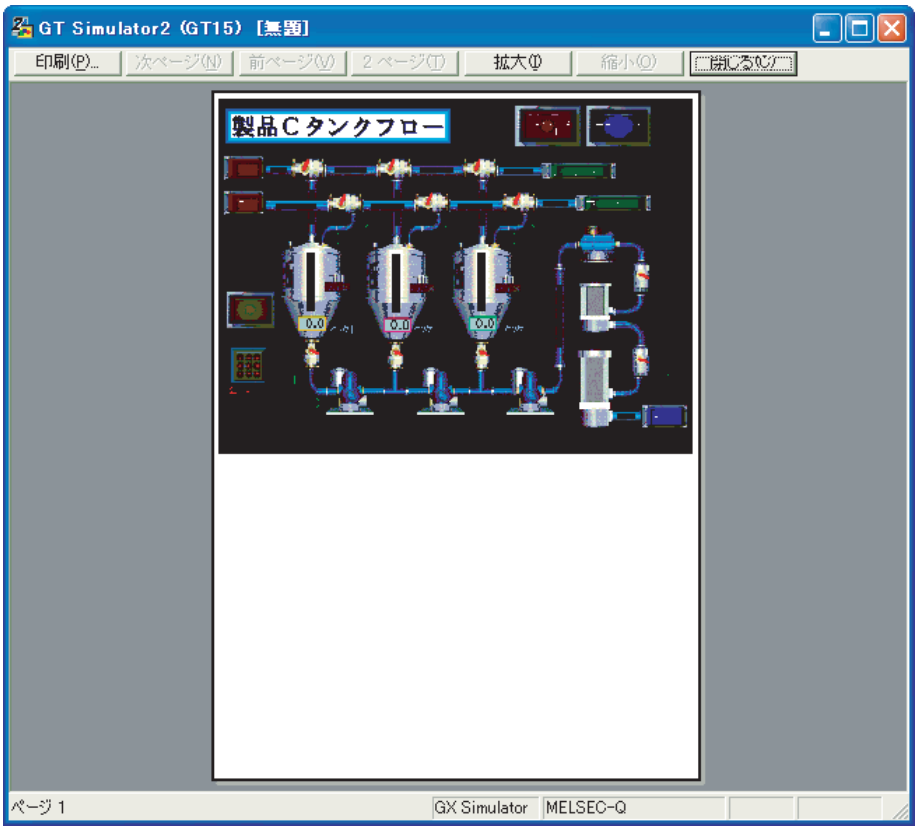
2 Windows® の印刷ダイアログボックスが表示されます。
OK ボタンをクリックすると，印刷を開始します。



6.2.2　印刷プレビューをする

1 次の操作を行います。
- 【プロジェクト】→【印刷プレビュー】メニューを選択

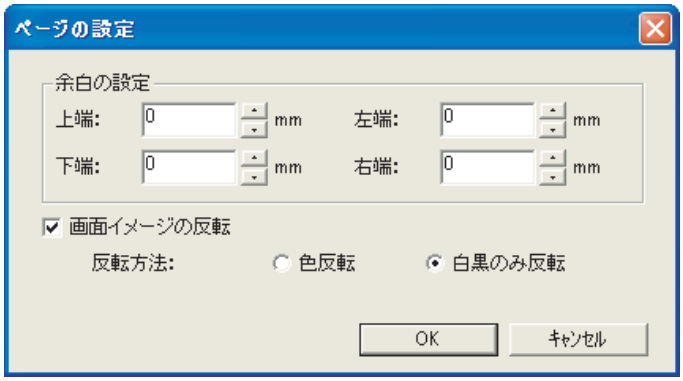
2 印刷プレビューが表示されます。



6.2.3　ページ設定をする

1 次の操作を行います。
- 【プロジェクト】→【ページ設定】メニューを選択

2 ページの設定ダイアログボックスが表示されます。
次の項目を設定して[OK]ボタンをクリックします。

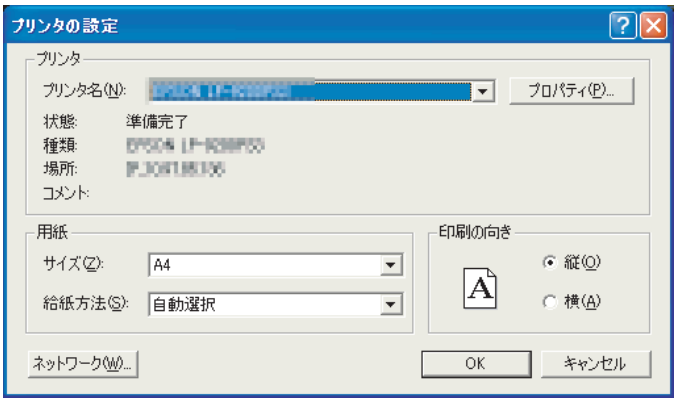


項　目		内　容
余白の設定		印刷時のページの余白を設定します。
画面イメージの反転		印刷時に画面イメージの色を反転する場合，選択します。
	反転方法	画面イメージの反転方法を設定します。 ・色反転　　：印刷する画面イメージ全体の色を反転します。 ・白黒のみ反転：印刷する画面イメージの中の，白と黒を反転します。

6.2.4　プリンタの設定をする

1 次の操作を行います。
- 【プロジェクト】→【プリンタの設定】メニューを選択

2 Windows® の印刷ダイアログボックスが表示されます。
プリンタの設定（プリンタの選択，用紙サイズ，印刷の向きなど）を行います。
[OK]ボタンをクリックすると，印刷を開始します。



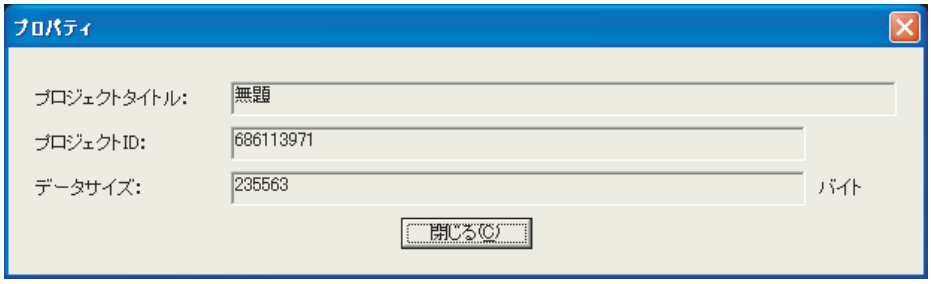
6.3 プロパティ

GOT1000 のみ

シミュレート実行中のプロジェクトデータのプロジェクトタイトル，プロジェクト ID，データサイズを表示します。

1 次の操作を行います。
- 【プロジェクト】→【プロパティ】メニューを選択

2 プロパティダイアログボックスが表示されます。



項　目	内　容
プロジェクトタイトル	プロジェクトタイトルを表示します。
プロジェクト ID	プロジェクト ID を表示します。
データサイズ	プロジェクトデータのデータサイズを表示します。

備　考

シミュレート実行前にプロパティダイアログボックスを表示させた場合について

シミュレート実行前にプロパティダイアログボックスを表示させた場合は，前回シミュレート実行時のプロジェクトデータのプロジェクトタイトル，プロジェクト ID，データサイズを表示します。
（プロジェクトデータを読み出していない場合，プロジェクトタイトル，プロジェクト ID，データサイズは表示されません。）

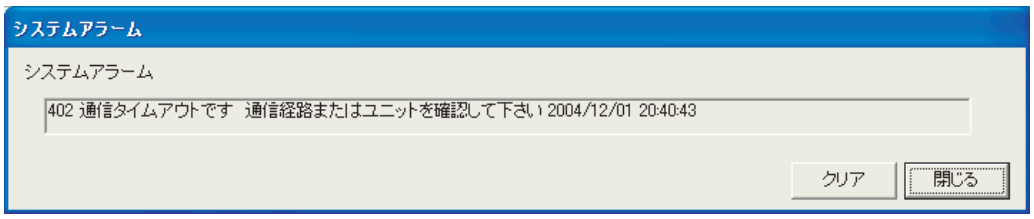
6.4 システムアラーム



システムアラームを表示します。
プロジェクトデータにシステムアラームが設定されていなくても，本ダイアログボックスで確認が可能です。

1 次の操作を行います。
- 【ツール】→【システムアラーム】メニューを選択

2 システムアラームダイアログボックスが表示されます。



項　目	内　容
システムアラーム＊1	エラー内容を表示します。
クリア	表示しているエラーメッセージをクリアします。 ただし，継続してエラーが発生している場合は再表示します。

＊1 システムアラーム一覧については，下記のマニュアルを参照してください。
☞ GT □本体取扱説明書

Point

表示されるシステムアラームについて

・システムアラームダイアログボックスには，GOT で検出するエラーのみ表示されます。
シーケンサ CPU およびネットワークのエラーを確認する場合は，プロジェクトデータにシステムアラームを設定してください。
・エラーメッセージは，日本語で表示されます。
他の言語で表示したい場合は，プロジェクトデータにシステムアラームを設定してください。

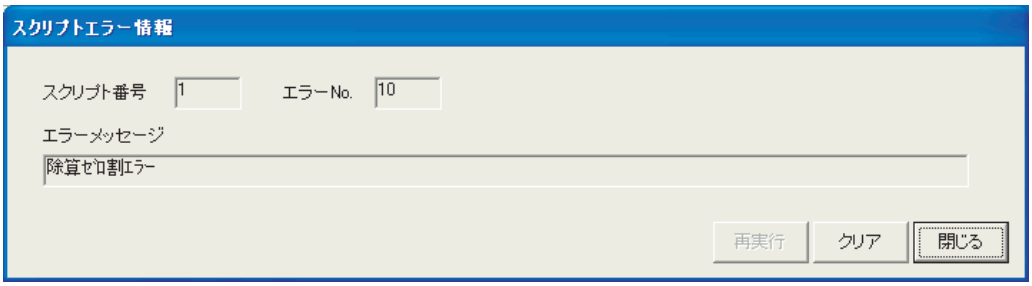
6.5 スクリプトエラー

GOT1000 のみ

スクリプトエラー情報を表示します。

1 次の操作を行います。
- 【ツール】→【スクリプトエラー情報】メニューを選択

2 スクリプトエラー情報ダイアログボックスが表示されます。



項　目	内　容
スクリプト番号＊1	エラーが発生しているスクリプトの番号を表示します。
エラー No.	発生しているエラーのエラーコードを表示します。
エラーメッセージ	エラー内容を表示します。
再実行	スクリプトを再度実行します。
クリア	表示しているエラーメッセージをクリアします。 ただし，継続してエラーが発生している場合は再表示します。

＊1 スクリプト機能については，下記のマニュアルを参照してください。

☞ GT Designer2 Version □画面設計マニュアル

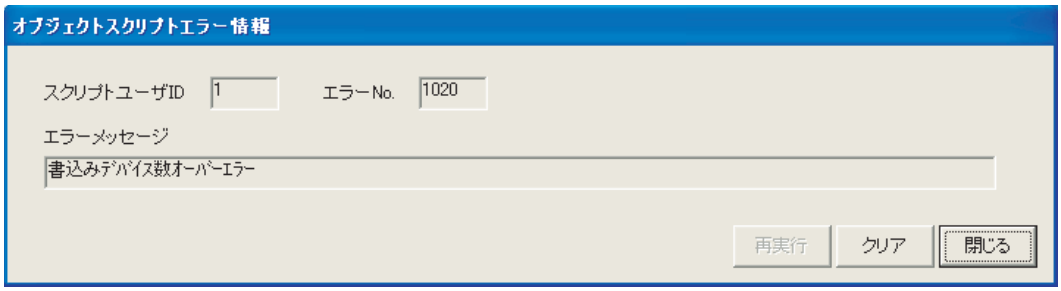
6.6 オブジェクトスクリプトエラー



オブジェクトスクリプトエラーを表示します。

1 次の操作を行います。
- 【ツール】→【オブジェクトスクリプトエラー情報】メニューを選択

2 オブジェクトスクリプトエラー情報ダイアログボックスが表示されます。



項　目	内　容
スクリプトユーザ ID *1	エラーが発生しているオブジェクトスクリプトのユーザ ID を表示します。
エラー No.	発生しているエラーのエラーコードを表示します。
エラーメッセージ	エラー内容を表示します。
再実行	オブジェクトスクリプトを再度実行します。
クリア	表示しているエラーメッセージをクリアします。 ただし，継続してエラーが発生している場合は再表示します。

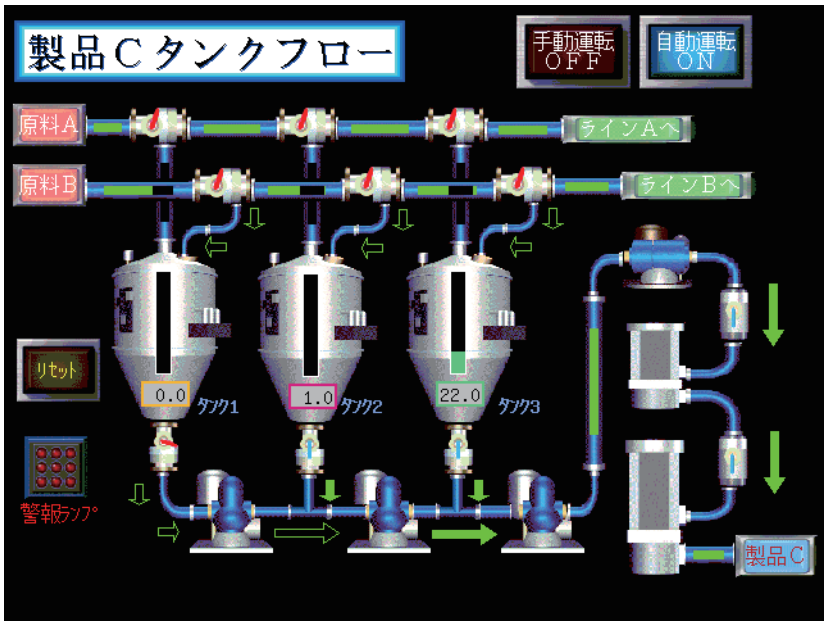
＊1 オブジェクトスクリプト機能については，下記のマニュアルを参照してください。
☞ GT Designer2 Version □画面設計マニュアル

6.7　全画面表示機能（GT16**-X，GT15**-X のみ）

GT16**-X，GT15**-X（解像度 1024×768 ドット）選択時，GT Simulator2 をパソコンのディスプレイにフルスクリーンで表示できます。
パソコンのディスプレイの解像度が 1024×768 ドットの場合，本機能を使用して，メニューバー等を非表示にすることをお薦めします。
本機能を使用しない場合，メニューバー等により，若干上下左右が切れて表示されます。

1 全画面表示の実行

1. 次のいずれかの操作を行います。
   - Alt ＋ F9
   - マウスを右クリック →【全画面表示】メニューを選択
2. 全画面表示ダイアログボックスが表示されます。
   OKボタンをクリックすると，GT Simulator2 が全画面表示されます。



2 全画面表示の解除

1. 次のいずれかの操作を行います。
   - Alt ＋ F9
   - マウスを右クリック →【全画面表示】メニューを選択
2. 全画面表示解除ダイアログボックスが表示されます。
   OKボタンをクリックすると，全画面表示が解除されます。

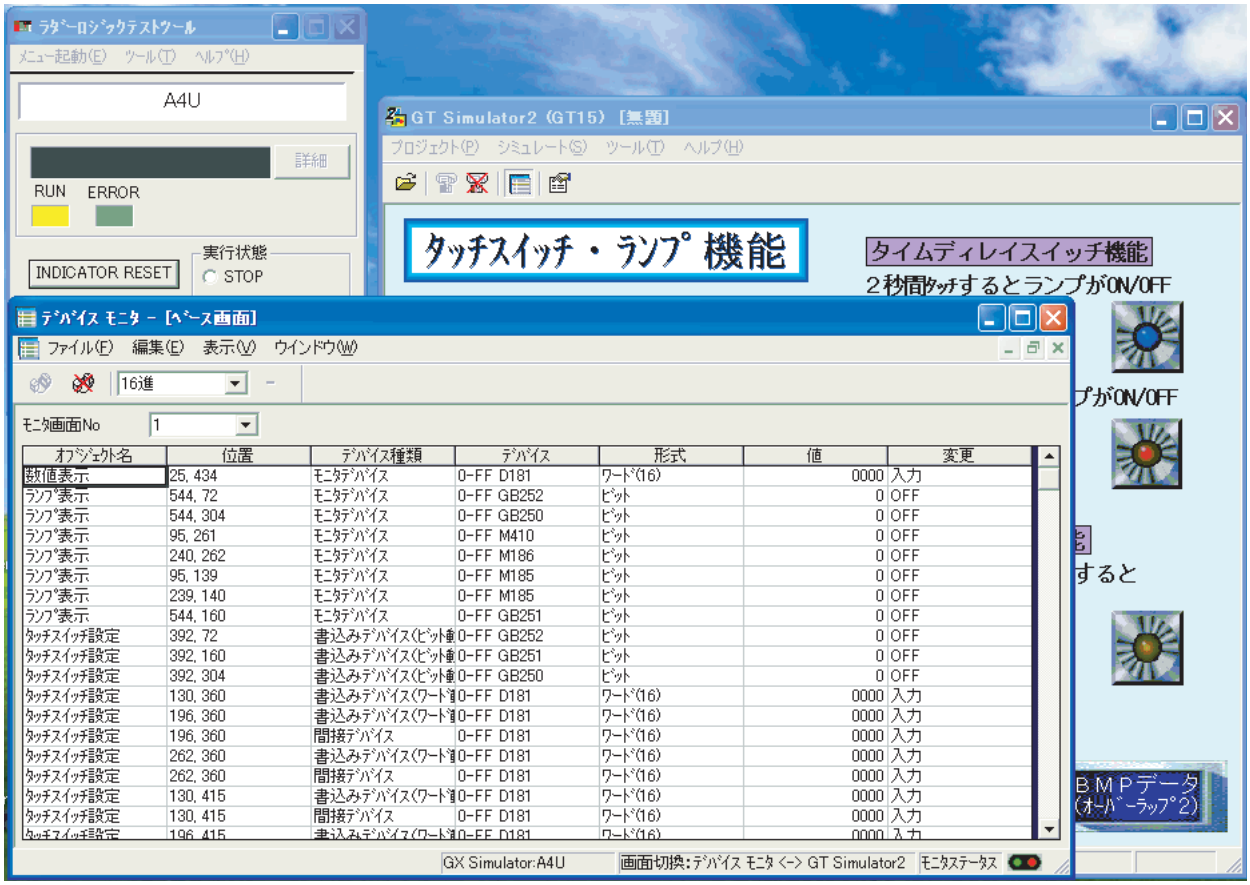
Point

- 全画面表示時は「開く」「開始」「終了」「オプション」の操作が行えます。上記以外の操作を行う場合は，全画面表示を解除することにより行えます。（全画面表示の解除方法は 2 を参照してください。）
- シミュレート実行前に全画面表示になっている場合，GT16**-X，GT15**-X（解像度 1024×768 ドット）以外のプロジェクトデータは開けません。
- パソコンのディスプレイの解像度が 1024×768 ドットを超える環境で全画面表示を実行した場合，GT Simulator2 はパソコンのディスプレイの左上に固定されます。（移動できません。）

7章　デバイスモニタ

7.1　概要

デバイスモニタは，GT Simulator2 でシミュレートしているプロジェクトデータのデバイス値をモニタ／テストする機能です。
デバイスモニタにより，GT Simulator2 で表示の変化を確認できるので，デバッグを効率的に行うことができます。



7.2 注意事項

Point **GT Simulator2 を使用時の注意事項**

GT Simulator2 を使用時の注意事項については，下記を参照してください。

☞ 3.3 節 注意事項

1 デバイスモニタの複数起動

デバイスモニタを複数起動することはできません。

2 GT Simulator2 で表示していない画面のデバイス値を参照したい場合

デバイスモニタは，画面単位でデバイスの一覧を表示します。
GT Simulator2 で表示していない画面のデバイス値を参照したい場合は，GT Simulator2 の「自由登録」にてデバイスを設定し，デバイス値を参照してください。

☞ 7.5.3 項 デバイスを登録／削除する（自由登録）

3 画面呼出し機能を使用している場合

画面呼出し機能を使用している場合，呼び出した画面に設定されているデバイスは表示しません。
呼び出した画面に設定されているデバイス値を参照したい場合は，GT Simulator2 の「自由登録」にてデバイスを設定し，デバイス値を参照してください。

☞ 7.5.3 項 デバイスを登録／削除する（自由登録）

4 CPU 直接接続時の局番切換え

CPU 直接接続時，局番切換えを使用してもデバイスのモニタ先は切り換えません。
（GT Designer2 で設定している各デバイスをモニタします。）
切換え先のデバイスを参照したい場合は，「自由登録」にてデバイスを設定し，デバイス値を参照してください。

☞ 7.5.3 項 デバイスを登録／削除する（自由登録）

5 GX Simulator と接続時

GX Simulator がサポートしないデバイスは，「値」が表示されません。

6 PC タイプが他社シーケンサのプロジェクトデータをシミュレートする場合（GX Simulator と接続時）

シミュレートできる範囲以外のデバイスは，「値」が表示されません。
シミュレートできるデバイス範囲については，下記を参照してください。

☞ 3.4 節 シミュレートできるデバイス範囲

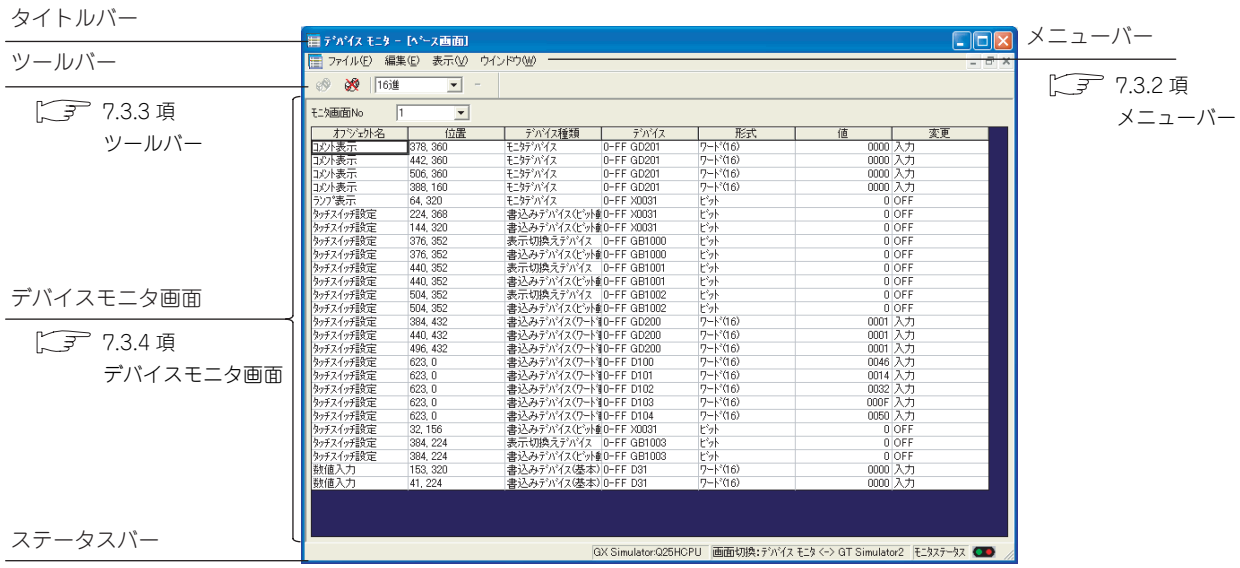
7 オブジェクトスクリプトを使用している場合

オブジェクトスクリプトのテンポラリワーク（TMP）は，デバイスモニタ（GT Simulator2）で確認できません。

7.3　デバイスモニタの画面構成

7.3.1　画面構成と各種ツール

デバイスモニタの画面構成と各種ツールについて説明します。



7.3.2　メニューバー

メニューバーに割り付けられているコマンドについて説明します。

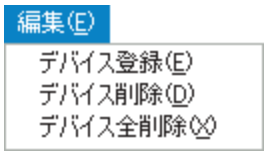
ファイル



ファイルメニューには，デバイスモニタを終了する機能が含まれています。

☞ 7.4 節 デバイスモニタの操作方法

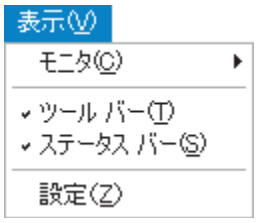
編集



編集メニューには，「自由登録」にデバイスを登録，削除する機能が含まれています。
（本メニューは，デバイスモニタ画面で「自由登録」を選択してる場合に操作できます。）

☞ ・7.3.4 項 デバイスモニタ画面
・7.4 節 デバイスモニタの操作方法

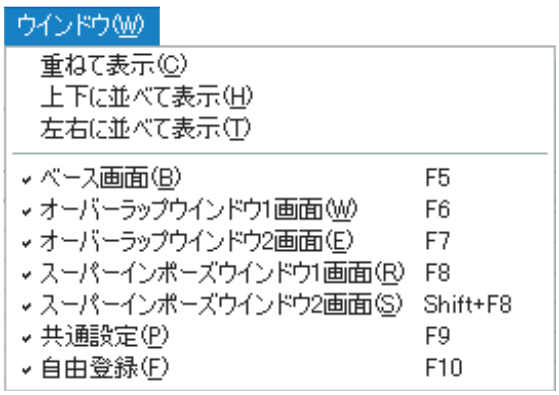
表示



表示メニューには，モニタの開始／停止，デバイスモニタの設定などができる機能が含まれています。

☞ ・7.3.3 項 ツールバー
・7.3.5 項 ステータスバー
・7.4 節 デバイスモニタの操作方法

ウィンドウ



ウィンドウメニューには，デバイスモニタ画面の整列，表示画面の選択などができる機能が含まれています。

☞ ・7.3.4 項 デバイスモニタ画面
・7.4 節 デバイスモニタの操作方法

7.3.3　ツールバー

ツールバーについて説明します。

1 モニタ実行前



名　称		内　容
	開始	デバイスのモニタを実行します。
	デバイス値表示の変更	デバイス値の表示形式をリストボックスで選択します。 (☞ 7.3.4 項 2 (1)「値」の表示)
	符号有り／無し	デバイス値を符号付きバイナリ値として扱う場合に選択します。 (「デバイス値表示の変更」が「10 進数」の場合のみ選択可能) (☞ 7.3.4 項 2 (1)「値」の表示)

2 モニタ実行中



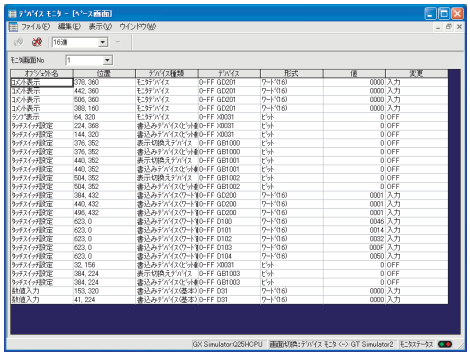
名　称		内　容
	停止	デバイスのモニタを停止します。
	デバイス値表示の変更	デバイス値の表示形式をリストボックスで選択します。 (☞ 7.3.4 項 2 (1)「値」の表示)
	符号有り／無し	デバイス値を符号付きバイナリ値として扱う場合に選択します。 (「デバイス値表示の変更」が「10 進数」の場合のみ選択可能) (☞ 7.3.4 項 2 (1)「値」の表示)

7.3.4　デバイスモニタ画面

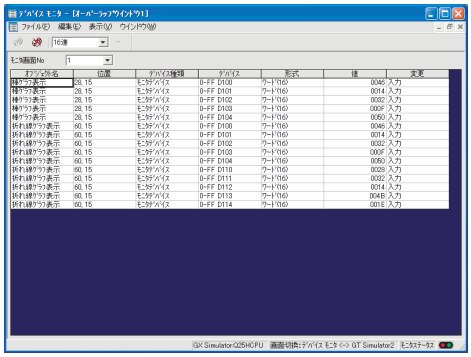
デバイスモニタ画面について説明します。

1 デバイスモニタの種類

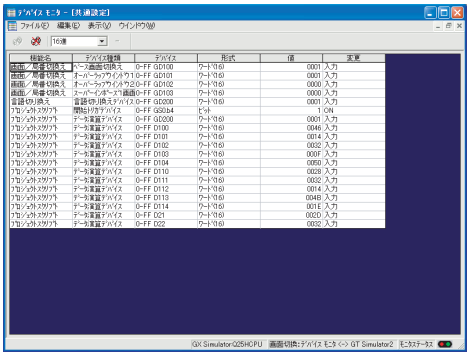
デバイスモニタには，下記の 4 種類があります。
画面ごとに表示される内容，項目が異なります。



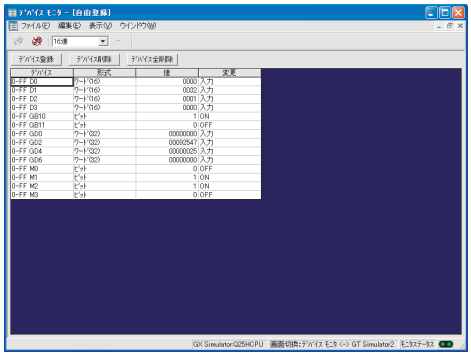
（ベース画面）



（ウィンドウ画面）



（共通設定）



（自由登録）

画　面	内　容
ベース画面	ベース画面で使用しているデバイス値を確認／テストできます。 ベース画面ごとにデバイスが表示されます。
ウィンドウ画面	オーバーラップウィンドウ（1，2），スーパーインポーズウィンドウ（1，2）で使用しているデバイス値を確認／テストできます。 ウィンドウ画面ごとにデバイスが表示されます。
共通設定	GT Designer2 の共通設定で設定した内容を確認／テストできます。
自由登録	任意のデバイスを登録して，デバイス値を確認／テストできます。 すべてのデバイス（GOT の内部デバイスを含む）を登録することができますので，プロジェクトデータには設定されていないデバイスを登録して，確認／テストできます。 デバイスの登録については，下記を参照してください。 ☞ 7.5.3 項 デバイスを登録／削除する（自由登録）

備　考

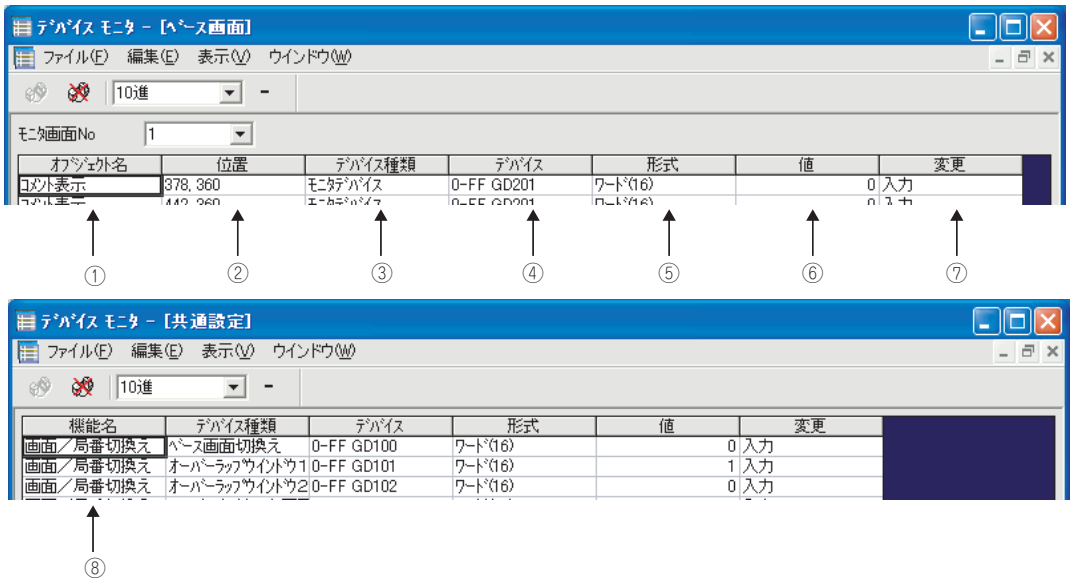
デバイスモニタと GT Simulator2 の画面切換えの連動について

デバイスモニタと GT Simulator2 の画面切換えを連動させないようにすることができます。
詳細は，下記を参照してください。

☞ 7.6.1 項 3 画面切換えタブ

2 デバイスモニタの表示項目

デバイスモニタで表示される項目の内容を下記に示します。



番号	項　　目	内　　容
①	オブジェクト名	設定されているオブジェクトの名称を表示します。
②	位置	表示しているオブジェクトの位置（座標）を表示します。
③	デバイス種類	デバイスの種類を表示します。
④	デバイス	オブジェクトに設定されているデバイスを表示します。 デバイスの表記は GT Designer2 と同一の表記です。
⑤	形式	使用しているデバイスの形式を表示します。 ビット　　：ビットデバイス使用時 ワード (16)　：ワードデバイス（16 ビット）使用時 ワード (32)　：ワードデバイス（32 ビット）使用時
⑥	値	デバイス値を表示します。（☞ 本項 2 (1)「値」の表示）
⑦	変更	デバイス値を変更します。（☞ 7.5.2 項 デバイス値をテストする）
⑧	機能名	GT Designer2 で設定した共通設定の名称を表示します。

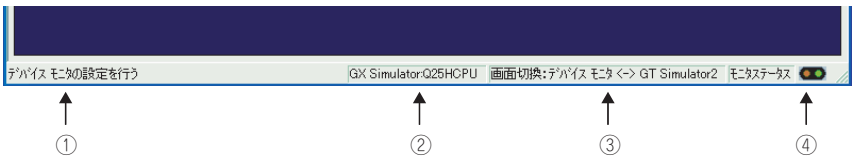
(1) 「値」の表示

「値」の表示は，ツールバーの「デバイス値表示の変更」および「符号の有り／無し」の選択により，下表のように表示されます。

「デバイス値表示の変更」，「符号の有り／無し」の設定		「値」の表示		
		「形式」が「ビット」の場合	「形式」が「ワード (16)」の場合	「形式」が「ワード (32)」の場合
2 進		0，1（1 桁）	0000…0000 ～ 1111…1111（16 桁）	0000…0000 ～ 1111…1111（32 桁）
8 進			0 ～ 177777	0 ～ 37777777777
10 進	符号付き		-32768 ～ 32767	-2147483648 ～ 2147483647
	符号なし		0 ～ 65535	0 ～ 4294967295
16 進			0 ～ FFFF	0 ～ FFFFFFFF

7.3.5　ステータスバー

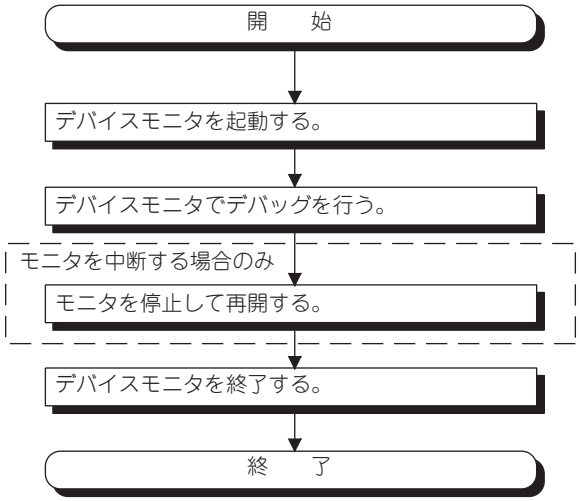
ステータスバーについて説明します。



番　　号	内　　容
①	マウスのカーソルを重ねたボタンおよびメニューの説明を表示します。
②	接続しているシーケンサ CPU の種類を表示します。 CPU 直接接続時　　：“CPU：＜接続しているシーケンサ CPU 形名＞” GX Simulator 時　　：“GX Simulator：＜接続しているシーケンサ CPU 形名＞”
③	画面切換え設定の設定内容を表示します。（☞ 7.6 節 表示の設定をする）
④	モニタ状態をランプの状態で表示します。 ランプ点滅中　　：モニタ実行中です。 ランプ 2 つとも緑の表示：モニタ停止中です。

7.4 デバイスモニタの操作方法

デバイスモニタの操作手順を下記に示します。



☞ 7.4.1 項 デバイスモニタを起動する

☞ 7.5 節 デバイスモニタの機能

☞ 7.4.2 項 モニタを停止して再開する

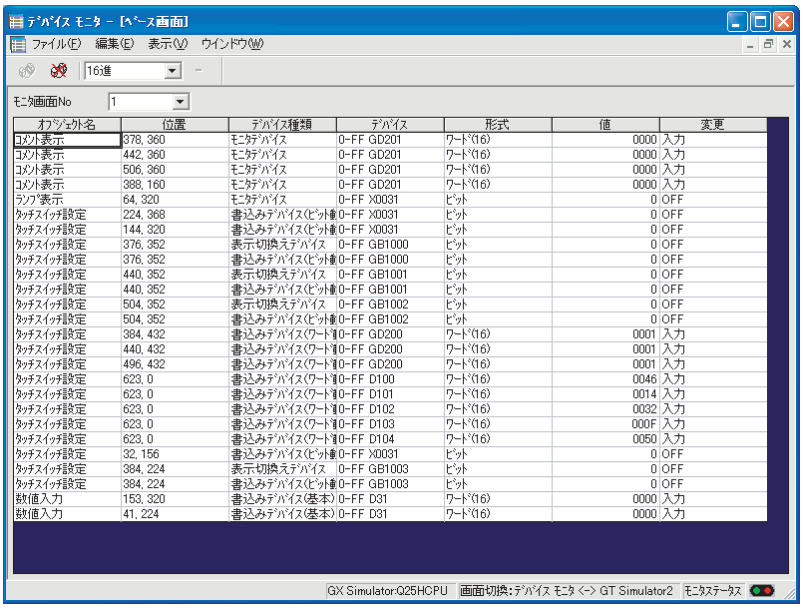
☞ 7.4.3 項 デバイスモニタを終了する

7.4.1　デバイスモニタを起動する

1 GT Simulator2 がシミュレート実行中に，次のいずれかの操作を行います。

- GT Simulator2 の  （デバイスモニタの起動）をクリック
- GT Simulator2 の【ツール】→【デバイスモニタの起動】メニューを選択

2 デバイスモニタが起動し，モニタが実行されます。



Point

デバイスモニタの起動について

デバイスモニタは，GT Simulator2 でシミュレート実行中に起動してください。
GT Simulator2 でシミュレート実行前または終了後は，デバイスモニタを起動できません。

7.4.2　モニタを停止して再開する

1 次のいずれかの操作を行うと，モニタを停止します。

- デバイスモニタの  （停止）をクリック
- デバイスモニタの【表示】→【モニタ】→【停止】メニューを選択

2 モニタを停止した後に再開する場合は，次のいずれかの操作を行います。

- デバイスモニタの  （開始）をクリック
- デバイスモニタの【表示】→【モニタ】→【開始】メニューを選択

備　考

モニタの停止とデバイスモニタの終了の関係について

モニタを停止しても，デバイスモニタは終了しません。
デバイスモニタの終了については，下記を参照してください。

☞ 7.4.3 項 デバイスモニタを終了する

7.4.3　デバイスモニタを終了する

1 次のいずれかの操作を行うと，デバイスモニタを終了します。

- デバイスモニタの【ファイル】→【デバイスモニタの終了】メニューを選択
- デバイスモニタのタイトルバーの  をクリック
- GT Simulator2 の  （デバイスモニタの起動／終了）をクリック
- GT Simulator2 の【ツール】→【デバイスモニタの終了】メニューを選択

備　考

GT Simulator2 ／デバイスモニタの終了とメッセージについて

GT Simulator2 の終了は，デバイスモニタを終了してから行ってください。
デバイスモニタでモニタ実行中に GT Simulator2 を終了すると，下記のメッセージが他の画面に隠れて表示される場合があります。



デバイスモニタでモニタ実行中に GT Simulator2 を終了した場合は，他の画面を移動するなどして操作してください。

7.5　デバイスモニタの機能

デバイスモニタの機能について説明します。

7.5.1　データをソートする

デバイスモニタで表示しているデータを，文字コードの昇順または降順で並べることができます。
デフォルトは，各画面の左の列を文字コードの昇順で表示しています。

1 各列のタイトルをクリックすると，文字コードの昇順または降順に並び換ります。

この部分を
クリック



Point

(1) 「オブジェクト名」の並び順について

「オブジェクト名」は，並び順をユーザにて設定できます。
詳細については，下記を参照してください。
☞ 7.6 節 表示の設定をする

(2) 「変更」の並び順について

「変更」は，並び順を変えることができません。
他の列で並び換えてください。

7.5.2　デバイス値をテストする

モニタしているデバイスの値をテストすることができます。
デバイス値をテストして，GT Simulator2 での表示がどのように変化するかを確認することができます。

1 テストできる値

テストできる値の範囲は，表示範囲と同じです。
詳細については，下記を参照してください。

☞ 7.3.4 項 2 (1)「値」の表示

2 テスト方法

デバイス値のテスト方法を下記に示します。

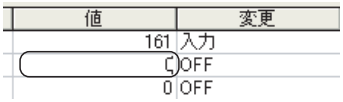
(1) ビットデバイスをマウスでテストする場合

1 マウスで「変更」の「ON」または「OFF」をクリックすると，「値」と「変更」に反映されます。



(2) ビットデバイスをキーボードでテストする場合

1 パソコンのキーボードで「値」を選択して 0 または 1 を入力すると，「値」と「変更」に反映されます。

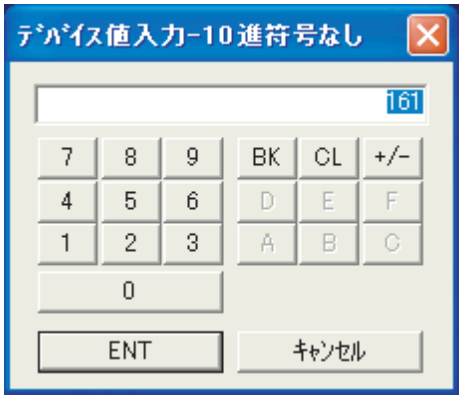


(3) ワードデバイスをマウスでテストする場合

1 マウスで「変更」の「入力」をクリックすると，「デバイス値入力」が表示されます。



2 [0]～[F]，[BK]，[CL]，[+/-]ボタンでデバイス値を設定し，[ENT]ボタンを押すと「値」と「変更」に反映されます。（直接入力することもできます。）



(4) ワードデバイスをキーボードで編集する場合

1 パソコンのキーボードで「値」を選択して直接編集すると，「値」と「変更」に反映されます。

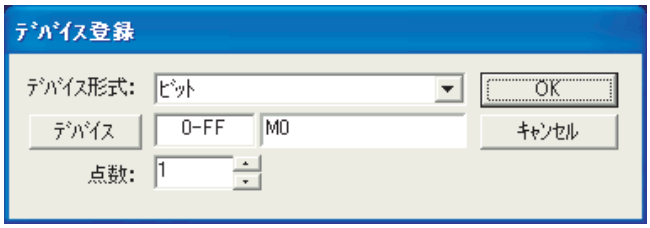


7.5.3　デバイスを登録／削除する（自由登録）

「自由登録」に任意のデバイスを登録して，デバイスをテストすることができます。
プロジェクトデータに設定されていないデバイスを登録して，値をテストすることで変更後の動作確認ができます。

1 デバイスの登録方法

1. 次のいずれかの操作を行います。
   - デバイスモニタの【編集】→【デバイス登録】メニューを選択
   - 「自由登録」の[デバイス登録]ボタンをクリック
2. デバイス登録ダイアログボックスが表示されます。
   次の項目を設定して[OK]ボタンをクリックすると，デバイスが登録されます。



項　目	内　容
デバイス形式	デバイスの形式を選択します。
[デバイス]	デバイスを設定します。 デバイスの設定については，下記を参照してください。 ☞ GT Designer2 Version □ 画面設計マニュアル（5.1 節 デバイスの設定）
点数	[デバイス]ボタンで設定したデバイスから連続で，登録するデバイスの点数を設定します。

Point

(1) デバイスの表示順序について
デバイスは，登録した順に上から下へ表示されます。

(2) 登録内容を破棄する操作について
登録内容は，シミュレートするプロジェクトデータの「PC タイプ」が変更されると破棄します。

2 デバイスの削除方法

1. 「自由登録」で削除するデバイスを選択します。
2. 次のいずれかの操作を行うと，デバイスが削除されます。
   - デバイスモニタの【編集】→【デバイス削除】メニューを選択
   - 「自由登録」の[デバイス削除]ボタンをクリック

3 全デバイスの削除方法

1. 「自由登録」を表示します。
2. 次のいずれかの操作を行うと，全デバイスが削除されます。
   - デバイスモニタの【編集】→【デバイス全削除】メニューを選択
   - 「自由登録」の[デバイス全削除]ボタンをクリック

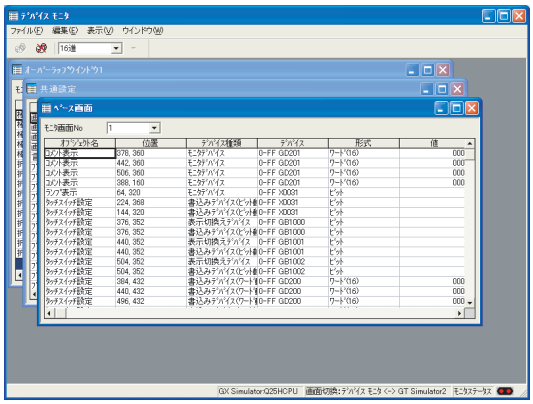
7.5.4　画面を重ねて／並べて表示する

各画面を重ねて／並べて表示することができます。

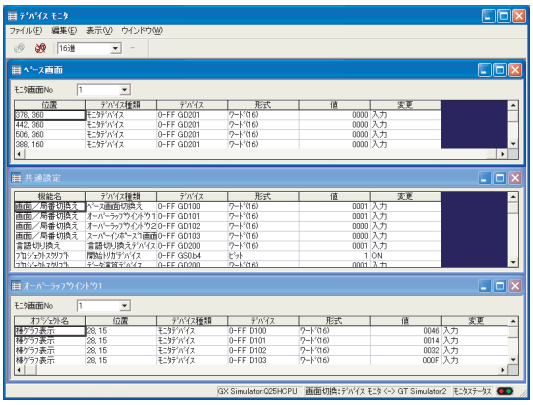
1. デバイスモニタの【ウィンドウ】→【重ねて表示】／【上下に並べて表示】／【左右に並べて表示】メニューを選択します。

2. 画面が下記のように表示されます。

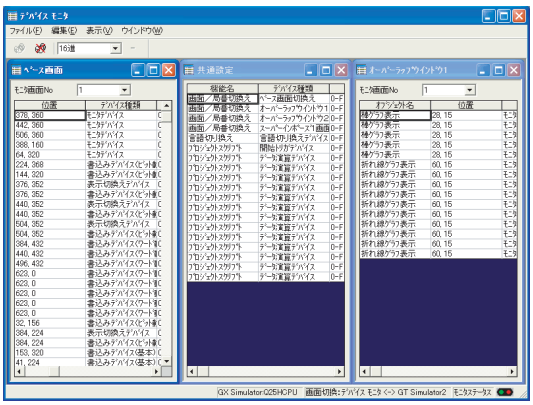
- 【重ねて表示】メニューを選択した場合



- 【上下に並べて表示】メニューを選択した場合



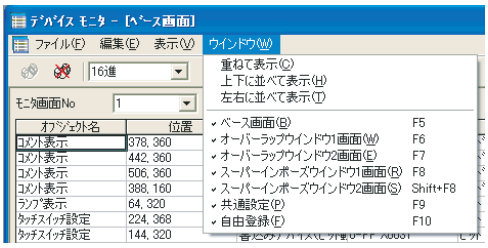
- 【左右に並べて表示】メニューを選択した場合



7.5.5　デバイスモニタ画面を変更する

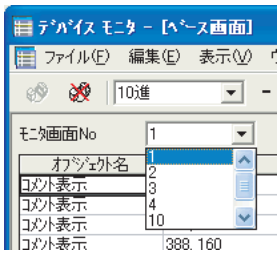
1 デバイスモニタに表示する画面を変更する場合

1. デバイスモニタに表示する画面をウィンドウメニューで選択します。



2 表示する画面の画面番号を変更する場合

1. ベース画面を表示している場合は，「モニタ画面 No.」で表示する画面の画面番号を選択できます。
   ウィンドウ画面を表示している場合は，「モニタ画面 No.」で表示する画面の画面番号を選択および，画面の非表示設定ができます。



7.6　表示の設定をする

デバイスモニタの表示をカスタマイズすることができます。

1 次の操作を行います。
- デバイスモニタの【表示】→【設定】メニューを選択

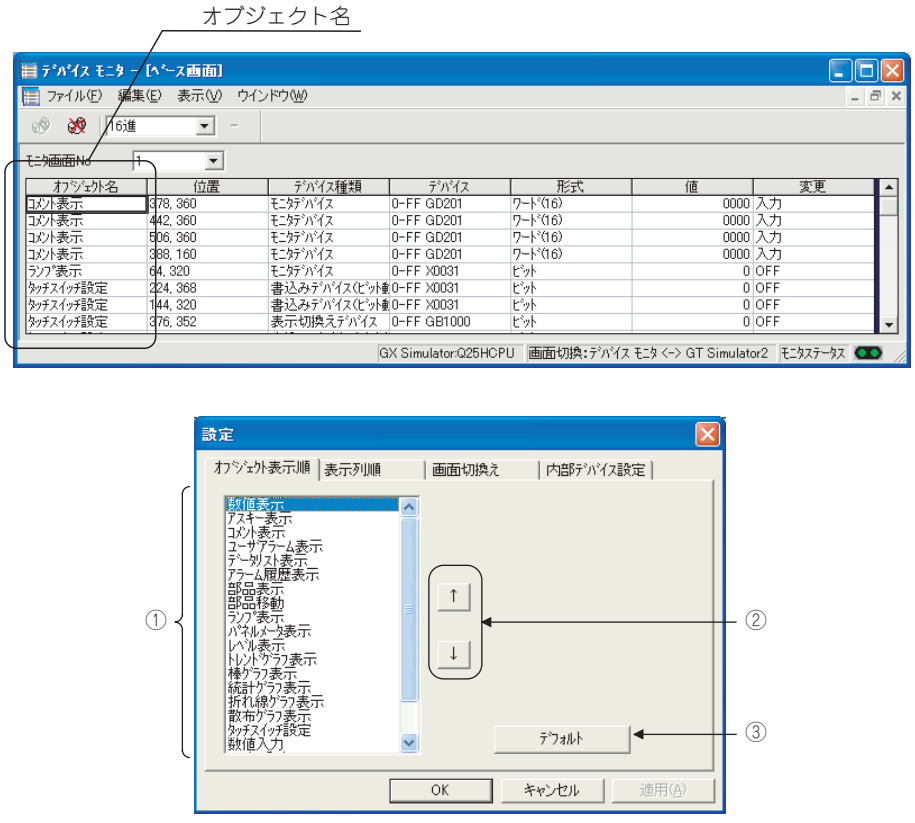
2 設定ダイアログボックスが表示されます。
各項目を設定し，OK ボタンをクリックしてください。
設定ダイアログボックスの詳細については，下記を参照してください。

☞ 7.6.1 項 設定項目

7.6.1　設定項目

1 オブジェクト表示順タブ

ベース画面，ウィンドウ画面に表示する「オブジェクト名」の列の表示順を設定します。

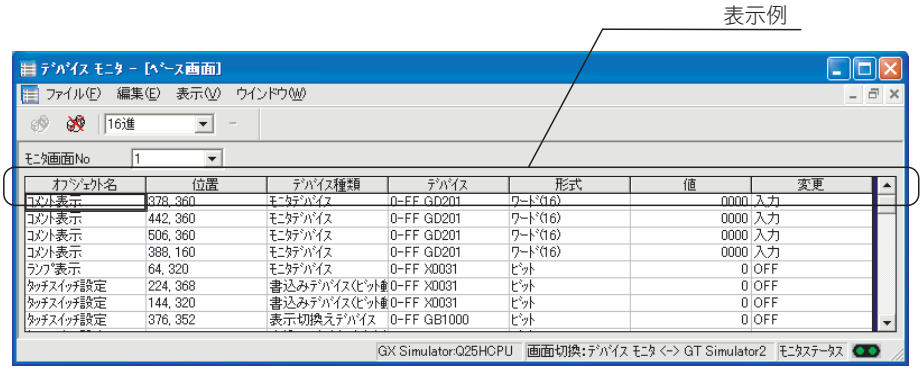


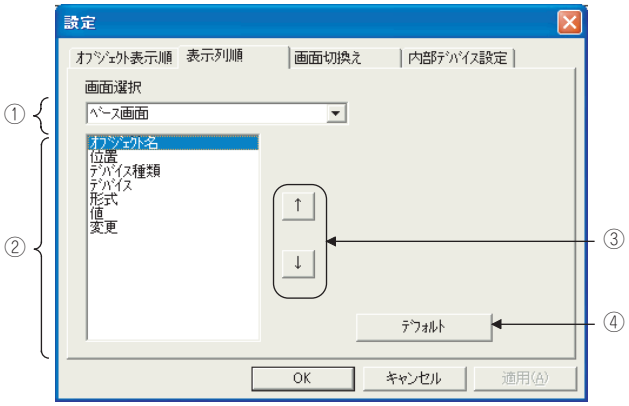
オブジェクト表示順　表示列順　画面切換え　内部デバイス設定

番号	項　目	内　容
①	オブジェクト項目	移動させたいオブジェクトの項目を選択します。
②	↑，↓	オブジェクト項目で選択したオブジェクトを移動します。
③	デフォルト	オブジェクトの項目の表示順を標準（デフォルト）に戻します。

2 表示列順設定タブ

ベース画面，ウィンドウ画面，共通設定，自由登録での表示列の順番を設定します。





オブジェクト表示順 | **表示列順** | 画面切換え | 内部デバイス設定

番号	項　目	内　容
①	画面選択	表示列を変更させたいデバイスモニタを選択します。
②	表示列項目	移動させたい表示列項目を選択します。
③	↑，↓	表示列項目で選択したオブジェクトを移動します。
④	デフォルト	表示列項目の表示順を標準（デフォルト）に戻します。

3 画面切換えタブ

デバイスモニタと GT Simulator2 の画面（ベース画面，ウィンドウ画面）を連動させる／させないなどの画面切換えパターンを設定します。



オブジェクト表示順 | 表示列順 | **画面切換え** | 内部デバイス設定

項　目	内　容
画面切換え設定	画面切換えの種類を選択します。 ・デバイスモニタ <-> GT Simulator2 デバイスモニタの画面，GT Simulator2 の画面，どちらか一方を切り換えると，もう一方も切り換わります。 ・デバイスモニタ -> GT Simulator2 デバイスモニタの画面を切り換えると，GT Simulator2 の画面が切り換わります。 GT Simulator2 の画面を切り換えても，デバイスモニタの画面は切り換わりません。 ・GT Simulator2 -> デバイスモニタ GT Simulator2 の画面を切り換えると，デバイスモニタの画面が切り換わります。 デバイスモニタの画面を切り換えても，GT Simulator2 の画面は切り換わりません。 ・デバイスモニタ -X- GT Simulator2 デバイスモニタの画面，GT Simulator2 の画面，どちらか一方を切り換えても，もう一方は切り換わりません。

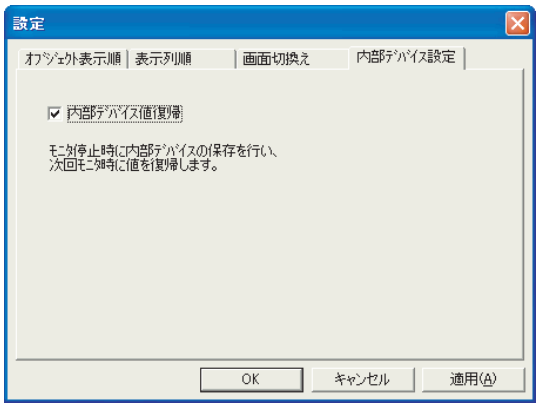
Point

デバイス値のテスト

本設定に関わらず，デバイス値のテストをすると，変更内容はデバイスモニタや GT Simulator2 に反映されます。
デバイス値の変更を反映させたくない場合は，モニタを停止してから，デバイス値をテストしてください。（☞ 7.4 節 デバイスモニタの操作方法）

4 内部デバイス設定タブ

GT Simulator2 を終了時に内部デバイス (GD，GB，GS) の状態を保存して，次回モニタ時に前回終了時の状態を表示する／しないを設定します。



オブジェクト表示順 | 表示列順 | 画面切換え | **内部デバイス設定**

項　目	内　容
内部デバイス値復帰	チェックすると，モニタ停止または終了時に内部デバイス値の保存を行い，次回モニタ時に内部デバイスの値を前回終了時の状態で表示します。

8章　トラブルシューティング

8.1　ファイル保存に関するトラブルシューティング

現象	異常内容と原因	処置方法
GT Simulator2 のモニタ画面からハードコピーを実行してもファイル出力されない。	出力先のディスクの状態に何らかの問題があるため，ファイル保存をすることができない。	• 仮想ドライブに指定したフォルダが存在するか確認してください。 • 仮想ドライブに指定したフォルダのアクセス権を確認してください。 • 仮想ドライブに指定したフォルダのディスク空き容量を確認してください
	ファイル番号外部制御デバイス値を 1 ～ 9999 の範囲内で指定していないため，ファイル保存をすることができない。	• ファイル番号外部制御デバイス値を1～9999の範囲内で指定しているか確認してください。

8.2 エラーメッセージ（GOT1000 シリーズ (GT16/GT15/GT11) シミュレータ）

「GOT1000 シリーズ (GT16/GT15/GT11) シミュレータ」使用時に表示されるエラーメッセージ，異常内容と原因，処置方法を下記に示します。

1 GT Simulator2 使用時に表示するエラーメッセージ

エラーメッセージ	異常内容と原因	処置方法
Adobe Reader が正しくインストールされていません。 Adobe Reader をインストールしてください。	• Adobe® Reader® がインストールされていない。 • Adobe® Reader® が正しくインストールされていない。	Adobe® Reader® をアンインストール後，再インストールする。
Easysocket がインストールされていません！	GT Simulator2 が正しくインストールされていない可能性がある。	GT Simulator2 をアンインストール後，再インストールする。
‘GT Simulator2’ が正しくインストールされていません。	GT Simulator2 の製品レジストリが存在しない。	GT Simulator2 をアンインストール後，再インストールする。
‘GT Simulator2’ で指定されている CPU タイプと ‘GX Developer’ で設定されている CPU タイプが異なります。 「オプション」設定の CPU タイプを変更するか ‘GX Developer’ プロジェクトの設定内容を確認してください。	CPU タイプの設定に矛盾がある。	GX Developer のプロジェクトの CPU タイプを変更する。
‘GT Simulator2’ と ‘GX Simulator’ の対応言語が異なるため動作しません！	GT Simulator2 と GX Simulator の対応言語が異なるため動作できない。	GT Simulator2 と同一言語に対応した GX Simulator をインストールする。
‘GT Simulator2’ のインストールパスが取得出来ません。	GT Simulator2 が正しくインストールされていない可能性がある。	GT Simulator2 をアンインストール後，再インストールする。
‘GT Simulator2’ の動作環境が不正です。	GT Simulator2 の動作に必要なファイルにアクセスできなかった。	• Windows® XP Professional ／ Windows® XP Home Edition で administrator（コンピュータ管理用）の属性を持つユーザとしてログオンしているか確認する。 • Windows® XP Professional ／ Windows® XP Home Edition のユーザの簡易切り替え機能，リモートデスクトップ機能が使用中になっていないか確認する。
	• 前回，GT Simulator2 が不正な状態で終了された。 • 不正なプロセスが動作している。	パソコンを再起動後，GT Simulator2 を再起動する。
‘GT Simulator2’ を終了してから Windows のログオフ／終了処理を行ってください。	GT Simulator2 を終了する前に Windows® のログオフ／終了処理を実行した。	GT Simulator2 を終了後，Windows® のログオフ／終了処理を実行する。

（次のページへつづく）

エラーメッセージ	異常内容と原因	処置方法
‘GX Developer’ のプロジェクト情報が取得できませんでした。 Gppw.gps，又は Gppw.gpj が見つかりません。	不正な GX Developer プロジェクトを設定している可能性がある。	オプションにて，GX Developer のプロジェクトを再設定する。
‘GX Developer’ のプロジェクトパスが取得できません。 <原因> • ‘GT Simulator2’ が正しくインストールされていない • 未対応の CPU タイプを指定している • レジストリが破壊されている	• GX Developer のプロジェクトパスに関するレジストリ情報が破壊されている。 • 未対応の CPU タイプを指定している。	オプションダイアログボックスにて，GX Developer のプロジェクトを再設定する。
	GT Simulator2 が正しくインストールされていない。	GT Simulator2 をアンインストール後，再インストールする。
‘GX Developer’ プロジェクトファイルが正しくありません。	オプションダイアログボックスの「GX Developer プロジェクト」で指定したプロジェクトが存在しない。	指定した GX Developer のプロジェクトが存在するか確認する。
‘GX Simulator’ がインストールされていません！	• GX Simulator がインストールされていない。 • GX Simulator が正しくインストールされていない。	GX Simulator をインストールする。
GX Simulator に対して SFC プログラムは書き込めません。 SFC 以外のプログラムを指定してください。	SFC の GX Developer プロジェクトを指定している。	オプションにて，GX Developer のプロジェクトを再設定する。
‘GX Simulator’ の起動に失敗しました。 < ES：＊＊＊＊ > ＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊エラー （計 2 種）	GX Simulator が正しくインストールされていない可能性がある。	• GX Simulator をアンインストール後，再インストールする。 • 最新版の GT Simulator2，GX Simulator，GX Developer を再インストールする。
‘GX Simulator’ の起動に必要なメモリが確保できません。	動的メモリが確保できない。	メモリ容量を確保する。 • 不要なアプリケーションを終了する。 • ハードディスクの空き容量を確認する。
‘GX Simulator’ の初期化に失敗しました。 < ES：＊＊＊＊ > ＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊ （計 32 種）	GX Simulator が正しくインストールされていない可能性がある。	GX Simulator をアンインストール後，再インストールする。
	• 前回，GT Simulator2，GX Simulator，GX Developer が不正な状態で終了された。 • 不正なプロセスが動作している。	• GT Simulator2 を再起動する。 • パソコンを再起動後，GT Simulator2 を再起動する。 • 最新版の GT Simulator2，GX Simulator，GX Developer を再インストールする。
共有メモリサーバ (Vlinks.exe) の起動に失敗しました。 < ES：＊＊＊＊ > ＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊エラー （計 2 種）	• 前回，GT Simulator2，GX Simulator，GX Developer が不正な状態で終了された。 • 不正なプロセスが動作している。	• パソコンを再起動後，GT Simulator2 を再起動する。 • 最新版の GT Simulator2，GX Simulator，GX Developer を再インストールする。
現在この機能は使えません。	GT Simulator2 では使用できない機能を選択した。	「OK」を押す。
このバージョンの Easysocket では動作しません！	GT Simulator2 が正しくインストールされていない可能性がある。	GT Simulator2 をアンインストール後，再インストールする。
このバージョンの ‘GX Simulator’ では動作しません！	インストールされている GX Simulator のバージョンが古い。	Version 5 E 版以降の GX Simulator をインストールする。

（次のページへつづく）

エラーメッセージ	異常内容と原因	処置方法
シミュレートが終了出来ない状態です。 シミュレート画面のダイアログを閉じてから再度実行してください。	画面上に「現在この機能は使えません」などのメッセージが表示されているため，GT Simulator2 が正常に終了できない。	ダイアログの「OK」を選択し，画面上のメッセージ表示を消したあと，再度 GT Simulator2 を終了する。
	上記以外に内部的に終了できない状態である。	ダイアログの「OK」を選択し，しばらくしてから再度 GT Simulator2 を終了する。
終了要求に対して ‘GX Simulator’ からの応答がありません。 ‘GX Simulator’ を強制終了します。 ただちに ‘GT Simulator2’ を終了してパソコンを Shutdown して下さい。	• 前回，GT Simulator2，GX Simulator，GX Developer が不正な状態で終了された。 • 不正なプロセスが動作している。	• GT Simulator2 を再起動する。 • パソコンを再起動後，GT Simulator2 を再起動する。
スナップショットに失敗しました。	• 前回，GT Simulator2 が不正な状態で終了された。 • 不正なプロセスが動作している。	• GT Simulator2 を再起動する。 • パソコンを再起動後，GT Simulator2 を再起動する。
縦型のプロジェクトデータは対応していません。	表示形式が縦型のプロジェクトデータを読み出した。	プロジェクトデータの「GOT タイプ」を GT16/GT15 に変更し，シミュレートする。
通信エラーが発生しました。 • 再試行　　: 通信を再実行します • キャンセル : 以降全ての通信を行いません シミュレートを行う場合は ‘GT Simulator2’ を再起動してください <ES:XXXXXXXX>	• ケーブルが抜けている。 • ケーブルが断線している。	左記原因チェック後，表示されているダイアログボックスのボタンを選択する。 「再試行」 通信を再実行します。 「キャンセル」 キャンセルを選択した場合 , 以降すべての通信を行いません。 シミュレートを行う場合 ,GT Simulator2 を再起動してください。
	伝送速度（ボーレート）が正しくない。	
	接続先のシーケンサ CPU がプロジェクトの PC タイプと異なる。	
デバイスモニタの起動に失敗しました。	GT Simulator2 が正しくインストールされていない可能性がある。	GT Simulator2 をアンインストール後，再インストールする。
デバイスモニタの終了に失敗しました。	GT Simulator2 が正しくインストールされていない可能性がある。	GT Simulator2 をアンインストール後，再インストールする。
動作環境の構築に失敗しました。 以下チェック後再度実行してください。 • 空きディスク容量 • ファイルのアクセス権	ハードディスクの空き容量不足	ハードディスクの空き容量を 200MB 以上にする。
	GT Simulator2 の動作に必要なファイルにアクセスできなかった。	すでに GT Simulator2 を動作させていないか確認する。
	GT Simulator2 が正しくインストールされていない可能性がある。	GT Simulator2 をアンインストール後，再インストールする。
パス名が大きすぎます。	深い階層に保存されている GX Developer プロジェクトを設定している。	オプションにて，GX Developer のプロジェクトを再設定する。
パラメータファイルが見つかりません。	GT Simulator2 が正しくインストールされていない可能性がある。	GT Simulator2 をアンインストール後，再インストールする。
	不正な GX Developer プロジェクトを設定している可能性がある。	GX Developer のプロジェクトを新規作成する。
不正な CPU タイプです。	GX Developer のプロジェクトにて，未対応の CPU タイプを指定している。	GX Developer のプロジェクトの CPU タイプを変更する。
不正なプロジェクト (GX Developer) です。 ‘GX Simulator’ に転送できません。	GX Developer プロジェクトフォルダ内に不正なプログラムが存在する。	GX Developer のプロジェクトを新規作成する。
プログラムファイルが見つかりません。	GT Simulator2 が正しくインストールされていない可能性がある。	GT Simulator2 をアンインストール後，再インストールする。
	不正な GX Developer プロジェクトを設定している可能性がある。	GX Developer のプロジェクトを新規作成する。

（次のページへつづく）

エラーメッセージ	異常内容と原因	処置方法
プロジェクトの GOT タイプが ‘GT Simulator2’ の設定と異なります。	読み出したプロジェクトデータの GOT タイプが GT Simulator2 の設定と異なっている。	GT Designer2 で作成したプロジェクトデータの GOT タイプと GT Simulator2 の GOT タイプを同じにする。
プロジェクトの PC タイプが ‘GT Simulator2’ の設定と異なります。	読み出したプロジェクトデータの PC タイプが GT Simulator2 の設定と異なっている。	GT Designer2 で作成したプロジェクトデータの PC タイプと GT Simulator2 の CPU タイプを同じにする。
プロジェクトファイルが存在しません。	指定されたパスにプロジェクトデータが存在しない。	プロジェクトデータが存在するパスを指定する。
プロジェクトファイルにアクセス出来ません。	指定されたプロジェクトデータにアクセスできなかった。	プロジェクトデータのアクセス権をチェックする。
マニュアルファイルが見つかりません。 マニュアルをインストールしてください。	• GT Manual がインストールされていない。 • GT Manual が正しくインストールされていない。	GT Manual をアンインストール後，再インストールする。
未サポートの CPU タイプを選択しています。	GT Simulator2 の CPU タイプ設定が未サポートの CPU タイプになっている。	CPU タイプを変更して再度モニタを開始する。
ユーザデータの削除に失敗しました。 • ユーザデータを開いている場合は閉じてください。 • ファイルのアクセス権をチェックしてください。	画面データ読み出し後のユーザデータ削除に失敗した。	• 他のソフトにてユーザデータを開いている場合はそのファイルを閉じる。 • ファイルのアクセス権をチェックする。
読出し準備に失敗しました。 以下チェック後再度実行してください。 • ダイアログ表示 • オフラインモード待ち	画面上に「現在この機能は使えません」などのメッセージが表示されているため，読込みができない。	ダイアログの「OK」を選択し，画面上のメッセージ表示を消した後，再度読出しを実行する。
	上記以外の内部的に処理待ちの状態である。	しばらくしてから再度読出しを実行する。
読出しに失敗しました。 以下チェック後再度実行してください。 • 画面データサイズ，およびデータ数 • 空きディスク容量 • プロジェクトファイルのアクセス権 • プロジェクトファイルが不正，または破損	画面データサイズが大きすぎる。	画面データサイズを確認する。 (☞ 3.1 節 シミュレートできる GOT)
	ハードディスクの空き容量不足。	ハードディスクの空き容量を 200MB 以上にする。
	プロジェクトデータにアクセスできない。	プロジェクトデータのアクセス権をチェックする。
	プロジェクトの設定に矛盾がある。	GT Designer2 にて，設定に問題がないか確認する。
	• GOT 用のプロジェクトデータではない。 • プロジェクトデータが破損している。	正しいプロジェクトデータまたは，正常なプロジェクトデータを使用する。

2 デバイスモニタ使用時に表示するエラーメッセージ

エラーメッセージ	異常内容と原因	処置方法
Device Monitor files not exists!	デバイスモニタ用のインストールファイルが削除されている。	GT Simulator2 をアンインストール後，再インストールする。
Memory is not enough	共有メモリの作成に失敗している。	十分なメモリを確保し，GT Simulator2 を起動し , デバイスモニタを使用する。
アプリケーションの設定に失敗しました	デバイスモニタ用の環境設定ファイルが壊れている。	GT Simulator2 をアンインストール後，再インストールする。
数値が範囲を超えています	入力されたデバイス No. が範囲外である。	範囲内の No. を入力する。
データの読み込みに失敗しました。GT Simulator2 にてデータを読み込んでください。	GT Simulator2 にてプロジェクトデータを読み込んでいない。	GT Simulator2 でプロジェクトデータを読出し後，デバイスモニタを起動する。
デバイス番号は偶数を設定してください	入力されたデバイス No. が奇数である。	デバイス No. に偶数を入力する。
デバイスモニタは既に起動しています	既にデバイスモニタが起動している。	タスクバーを調べて既に起動しているデバイスモニタを選択する。 タスクマネージャなどから非表示になっているデバイスモニタを終了して，再度起動する。
登録件数オーバーです	自由登録件数が 65535 件を超えている。	既に登録されている自由登録の項目を削除し，登録したいものを再登録する。
ネットワーク番号，局番が不正です	ネットワーク入力が正しくない。	ネットワークに設定可能な値を確認し入力する。
ビットのワード指定時はデバイス番号を 16 の倍数にしてください	ビットのワード指定時に 16 の倍数にて入力されていない。	16 の倍数にて入力を行う。
ビットのワード指定時はデバイス番号を 16 の倍数＋ 1 にしてください	安川 GL 用のビットデバイス入力時にワード指定する場合，16 の倍数＋ 1 で入力されていない。	16 の倍数＋ 1 にて入力を行う。
不正なデバイスです	デバイス登録時，入力内容が正しくない。	デバイス表記文字，デバイス No.，ビット位置の入力を確認しデバイスを登録する。
モニタ時にエラーが発生した（ステータスバー）	通信初期化に失敗した。	デバイスモニタ，GT Simulator2 を終了し，シーケンサ CPU との接続を確認後，GT Simulator2，デバイスモニタを再起動する。
□□は不正な値です	入力されたデバイス No. の書式が不正，または範囲外の値になっている。	・書式を正しく入力する。 ・範囲内の値を入力する。
□□は，□□の範囲外です	入力された値が範囲外。	デバイス No. をメッセージの指示に従い，入力する。

8.3 エラーメッセージ（GOT-A900 シリーズシミュレータ）

「GOT-A900 シリーズシミュレータ」使用時に表示されるエラーメッセージ，異常内容と原因，処置方法を下記に示します。

1 GT Simulator2 使用時に表示するエラーメッセージ

エラーメッセージ	異常内容と原因	処置方法
Adobe Reader が正しくインストールされていません。 Adobe Reader をインストールしてください。	• Adobe® Reader® がインストールされていない。 • Adobe® Reader® が正しくインストールされていない。	Adobe® Reader® をアンインストール後，再インストールする。
Easysocket がインストールされていません！	GT Simulator2 が正しくインストールされていない可能性がある。	GT Simulator2 をアンインストール後，再インストールする。
‘GT Simulator2’ が終了できない状態です。 表示しているダイアログや印刷プレビューを全て閉じてください。	• ダイアログや印刷プレビューが表示されている。 • 内部的に終了処理待ち状態である。	表示しているダイアログや印刷プレビューを全て閉じる。
‘GT Simulator2’ が正しくインストールされていません。	GT Simulator2 の製品レジストリが存在しない。	GT Simulator2 をアンインストール後，再インストールする。
‘GT Simulator2’ で指定されている CPU タイプと ‘GX Developer’ で設定されている CPU タイプが異なります。 「オプション」設定の CPU タイプを変更するか ‘GX Developer’ プロジェクトの設定内容を確認して下さい。	CPU タイプの設定に矛盾がある。	GX Developer プロジェクトの CPU タイプを変更する。
‘GT Simulator2’ のインストールパスが取得出来ません。	GT Simulator2 が正しくインストールされていない可能性がある。	GT Simulator2 をアンインストール後，再インストールする。
‘GT Simulator2’ の動作環境が不正です。	GT Simulator2 の動作に必要なファイルにアクセスできなかった。	• Windows® XP Professional ／ Windows® XP Home Edition で administrator（コンピュータ管理用）の属性を持つユーザとしてログオンしているか確認する。 • Windows® XP Professional ／ Windows® XP Home Edition のユーザの簡易切り替え機能，リモートデスクトップ機能が使用中になっていないか確認する。
	• 前回，GT Simulator2 が不正な状態で終了された。 • 不正なプロセスが動作している。	パソコンを再起動後，GT Simulator2 を再起動する。
‘GT Simulator2’ を終了してから Windows のログオフ／終了処理を行ってください。	GT Simulator2 を終了する前に Windows® のログオフ／終了処理を実行した。	GT Simulator2 を終了後，Windows® のログオフ／終了処理を実行する。
‘GX Developer’ のプロジェクト情報が取得できませんでした。 Gppw.gps，又は Gppw.gpj が見つかりません。	不正な GX Developer プロジェクトを設定している可能性がある。	オプションにて，GX Developer のプロジェクトを再設定する。

（次のページへつづく）

エラーメッセージ	異常内容と原因	処置方法
‘GX Developer’ のプロジェクトパスが取得できません。 ＜原因＞ • ‘GT Simulator2’ が正しくインストールされていない • 未対応の CPU タイプを指定している • レジストリが破壊されている	• GX Developer のプロジェクトパスに関するレジストリ情報が破壊されている。 • 未対応の CPU タイプを指定している。	オプションダイアログボックスにて，GX Developer のプロジェクトを再設定する。
	GT Simulator2 が正しくインストールされていない。	GT Simulator2 をアンインストール後，再インストールする。
‘GX Developer’ プロジェクトファイルが正しくありません。	オプションダイアログボックスの「GX Developer プロジェクト」で指定したプロジェクトが存在しない。	指定した GX Developer のプロジェクトが存在するか確認する。
‘GX Simulator’ がインストールされていません！	• GX Simulator がインストールされていない。 • GX Simulator が正しくインストールされていない。	GX Simulator をインストールする。
GX Simulator に対して SFC プログラムは書き込めません。 SFC 以外のプログラムを指定してください。	SFC の GX Developer プロジェクトを指定している。	オプションにて，GX Developer のプロジェクトを再設定する。
‘GX Simulator’ の起動に失敗しました。 ＜ ES：＊＊＊＊＞ ＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊ （計 2 種）	GX Simulator が正しくインストールされていない可能性がある。	• GX Simulator をアンインストール後，再インストールする。 • 最新版の GT Simulator2，GX Simulator，GX Developer を再インストールする。
‘GX Simulator’ の起動に必要なメモリが確保できません。	動的メモリが確保できない。	メモリ容量を確保する。 • 不要なアプリケーションを終了する。 • ハードディスクの空き容量を確認する。
‘GX Simulator’ の初期化に失敗しました。 ＜ ES：＊＊＊＊＞ ＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊ （計 32 種）	GX Simulator が正しくインストールされていない可能性がある。	GX Simulator をアンインストール後，再インストールする。
	• 前回，GT Simulator2，GX Simulator，GX Developer が不正な状態で終了された。 • 不正なプロセスが動作している。	• GT Simulator2 を再起動する。 • パソコンを再起動後，GT Simulator2 を再起動する。 • 最新版の GT Simulator2，GX Simulator，GX Developer を再インストールする。
共有メモリサーバ (Vlinks.exe) の起動に失敗しました。 ＜ ES：＊＊＊＊＞ ＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊ （計 2 種）	• 前回，GT Simulator2，GX Simulator，GX Developer が不正な状態で終了された。 • 不正なプロセスが動作している。	• パソコンを再起動後，GT Simulator2 を再起動する。 • 最新版の GT Simulator2，GX Simulator，GX Developer を再インストールする。
現在この機能は使えません。	GT Simulator2 では使用できない機能を選択した。	「OK」を押す。
このバージョンの Easysocket では動作しません！	GT Simulator2 が正しくインストールされていない可能性がある。	GT Simulator2 をアンインストール後，再インストールする。
このバージョンの ‘GX Simulator’ では動作しません！	インストールされている GX Simulator のバージョンが古い。	Version 5 E 版以降の GX Simulator をインストールする。
	GT Simulator2 と GX Simulator の対応言語が異なるため動作できない。	GT Simulator2 と同一言語に対応した GX Simulator をインストールする。

（次のページへつづく）

エラーメッセージ	異常内容と原因	処置方法
終了要求に対して ‘GX Simulator’ からの応答がありません。 ‘GX Simulator’ を強制終了します。 ただちに ‘GT Simulator2’ を終了してパソコンを Shutdown して下さい。	• 前回，GT Simulator2，GX Simulator，GX Developer が不正な状態で終了された。 • 不正なプロセスが動作している。	• GT Simulator2 を再起動する。 • パソコンを再起動後，GT Simulator2 を再起動する。
シミュレートが終了出来ない状態です。 シミュレート画面のダイアログを閉じてから再度実行してください。	画面上に「現在この機能は使えません」などのメッセージが表示されているため，GT Simulator2 が正常に終了できない。	ダイアログの「OK」を選択し，画面上のメッセージ表示を消したあと，再度 GT Simulator2 を終了する。
	上記以外に内部的に終了できない状態である。	ダイアログの「OK」を選択し，しばらくしてから再度 GT Simulator2 を終了する。
スナップショットに失敗しました。	• 前回，GT Simulator2 が不正な状態で終了された。 • 不正なプロセスが動作している。	• GT Simulator2 を再起動する。 • パソコンを再起動後，GT Simulator2 を再起動する。
通信エラーが発生しました。 • 再試行　　：通信を再実行します • キャンセル ：以降全ての通信を行いません シミュレートを行う場合は ‘GT Simulator2’ を再起動してください <ES:XXXXXXXX>	• ケーブルが抜けている。 • ケーブルが断線している。	左記原因チェック後，表示されているダイアログボックスのボタンを選択する。 「再試行」 通信を再実行します。 「キャンセル」 キャンセルを選択した場合 , 以降すべての通信を行いません。 シミュレートを行う場合 ,GT Simulator2 を再起動してください。
	伝送速度（ボーレート）が正しくない。	
	接続先のシーケンサ CPU がプロジェクトの PC タイプと異なる。	
通信回路をチェックしてください。	• ケーブルが抜けている。 • ケーブルが断線している。	ケーブルをチェックする。
	伝送速度（ボーレート）が正しくない。	CPU 側の伝送速度（ボーレート）をチェックする。
	接続先のシーケンサ CPU がプロジェクトの PC タイプと異なる。	接続先のシーケンサ CPU をチェックする。
デバイスモニタの起動に失敗しました。	GT Simulator2 が正しくインストールされていない可能性がある。	GT Simulator2 をアンインストール後，再インストールする。
デバイスモニタの終了に失敗しました。	GT Simulator2 が正しくインストールされていない可能性がある。	GT Simulator2 をアンインストール後，再インストールする。
パス名が大きすぎます。	深い階層に保存されている GX Developer プロジェクトを設定している。	オプションにて，GX Developer のプロジェクトを再設定する。
パラメータファイルが見つかりません。	GT Simulator2 が正しくインストールされていない可能性がある。	GT Simulator2 をアンインストール後，再インストールする。
	不正な GX Developer プロジェクトを設定している可能性がある。	GX Developer のプロジェクトを新規作成する。
不正な CPU タイプです。	GX Developer のプロジェクトにて，未対応の CPU タイプを指定している。	GX Developer のプロジェクトの CPU タイプを変更する。
不正なプロジェクト (GX Developer) です。 ‘GX Simulator’ に転送できません。	GX Developer プロジェクトフォルダ内に不正なプログラムが存在する。	GX Developer のプロジェクトを新規作成する。
プログラムファイルが見つかりません。	GT Simulator2 が正しくインストールされていない可能性がある。	GT Simulator2 をアンインストール後，再インストールする。
	不正な GX Developer プロジェクトを設定している可能性がある。	GX Developer のプロジェクトを新規作成する。

（次のページへつづく）

エラーメッセージ	異常内容と原因	処置方法
プロジェクトの GOT タイプが正しくありません。	読み出したプロジェクトの GOT タイプが GOT-A900 シリーズ以外（GOT-F900 シリーズ）になっている。	GT Designer および GT Designer2 で作成したプロジェクトの GOT タイプを GOT-A900 シリーズに変更する。
プロジェクトの PC タイプが ‘GT Simulator2’ の設定と異なります。	読み出したプロジェクトデータの PC タイプが GT Simulator2 の設定と異なっている。	GT Designer および GT Designer2 で作成したプロジェクトデータの PC タイプと GT Simulator2 の CPU タイプを同じにする。
プロジェクトファイルが存在しません。	指定されたパスにプロジェクトデータが存在しない。	プロジェクトデータが存在するパスを指定する。
プロジェクトファイルにアクセス出来ません。	指定されたプロジェクトデータにアクセスできなかった。	プロジェクトデータ（a9gotp.got など）のアクセス権をチェックする。
マニュアルファイルが見つかりません。 マニュアルをインストールしてください。	• GT Manual がインストールされていない。 • GT Manual が正しくインストールされていない。	GT Manual をアンインストール後，再インストールする。
未サポートの CPU タイプを選択しています。	GT Simulator2 の CPU タイプ設定が未サポートの CPU タイプになっている。	CPU タイプを変更して再度モニタを開始する。
読み出し準備に失敗しました。 以下チェック後再度実行してください。 • ダイアログ表示 • オフラインモード待ち • 空きディスク容量 • プロジェクトファイルのアクセス権 • プロジェクトファイルが不正，または破損	ハードディスクの空き容量不足。	ハードディスクの空き容量を 200MB 以上にする。
	画面上に「現在この機能は使えません」などのメッセージが表示されているため，読込みができない。	ダイアログの「OK」を選択し，画面上のメッセージ表示を消した後，再度読出しを実行する。
	スクリプト機能の終了処理待ち。 （オフラインモード待ち状態）	画面に「オフライン処理実行」のメッセージ表示後，再度読出しを実行する。
	プロジェクトデータにアクセスできない。	プロジェクトデータ（a9gotp.got など）のアクセス権をチェックする。
	• GOT 用のプロジェクトデータではない。 • プロジェクトデータが破損している。	正しいプロジェクトデータまたは，正常なプロジェクトデータを使用する。
読出しに失敗しました。 以下チェック後再度実行してください。 • 画面データサイズ，およびデータ数 • 空きディスク容量 • ダイアログ表示 • オフラインモード待ち状態 • プロジェクトファイルのアクセス権 • プロジェクトファイルが不正，または破損	画面データサイズが大きすぎる。	画面データサイズを確認する。 (☞ 3.1 節 シミュレートできる GOT)
	ユーザメモリの空き容量不足	全削除後，全ユーザデータをダウンロードする。
	ハードディスクの空き容量不足。	ハードディスクの空き容量を 200MB 以上にする。
	画面上に「現在この機能は使えません」などのメッセージが表示されているため，読込みができない。	ダイアログの「OK」を選択し，画面上のメッセージ表示を消した後，再度読出しを実行する。
	スクリプト機能の終了処理待ち。 （オフラインモード待ち状態）	画面に「オフライン処理実行」のメッセージ表示後，再度読出しを実行する。
	プロジェクトデータにアクセスできない。	プロジェクトデータ（a9gotp.got など）のアクセス権をチェックする。
	• GOT 用のプロジェクトデータではない。 • プロジェクトデータが破損している。	正しいプロジェクトデータまたは，正常なプロジェクトデータを使用する。
レシピファイルの削除に失敗しました。 • レシピファイルを開いている場合は閉じてください。 • ファイルのアクセス権をチェックしてください。	画面データ読み出し後のレシピファイル削除に失敗した。	• 他のソフトにてレシピファイルを開いている場合はそのファイルを閉じる。 • ファイルのアクセス権をチェックする。

2 デバイスモニタ使用時に表示するエラーメッセージ

「GOT1000 シリーズ (GT15/GT11) シミュレータ」使用時と同様のエラーメッセージが表示されます。

☞ 8.2 節 エラーメッセージ（GOT1000 シリーズ (GT16/GT15/GT11) シミュレータ）

付　　録

付 1　GT Simulator2 の使用例

GT Designer2 が提供するサンプルプロジェクトデータを使用して，GT Simulator2 の使用方法を具体的に説明します。
本使用例では，GT Designer2，GT Simulator2，GX Developer，GX Simulator を使用します。
各ソフトウェアをパソコンにインストールしてください。
各ソフトウェアのインストール方法および起動方法については，下記のマニュアルを参照してください。

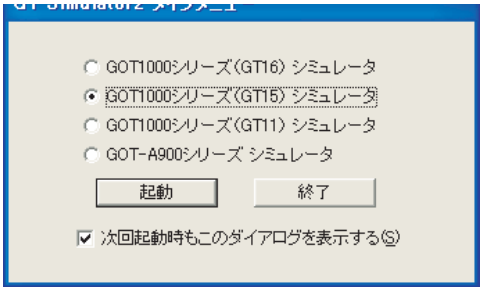
ソフトウェア	参照マニュアル
GT Designer2	・GOT1000（GT16/GT15/GT11）シリーズの場合 ☞ GT Designer2 Version □基本操作・データ転送マニュアル（2.2 節 各ソフトウェアのインストール）
GT Simulator2	・GOT-A900シリーズの場合 ☞ GT Works2 Version □ /GT Designer2 Version □オペレーティングマニュアル（スタートアップ・入門編）
GX Developer	☞ GX Developer Version □オペレーティングマニュアル（スタートアップ編）
GX Simulator	☞ MELSOFT シリーズのインストール方法について ＊1

＊1 GX Simulator の CD-ROM に同梱されています。

付 1.1　サンプルプロジェクトデータをシミュレートする

GT Designer2 のサンプルプロジェクトデータ（GT15 用）を使用し，GT Simulator2 でシミュレートする手順を下記に示します。

1 シミュレートの実行



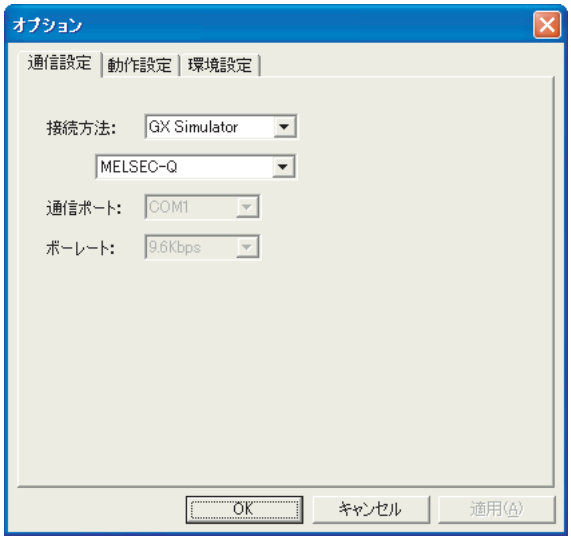
GT Simulator2の起動

1 GT Simulator2 を起動すると左記の画面が表示されます。
「GOT1000 シリーズ (GT15) シミュレータ」を選択し，起動ボタンをクリックします。



「オプション」の設定

2 【シミュレート】→【オプション】メニューを選択します。

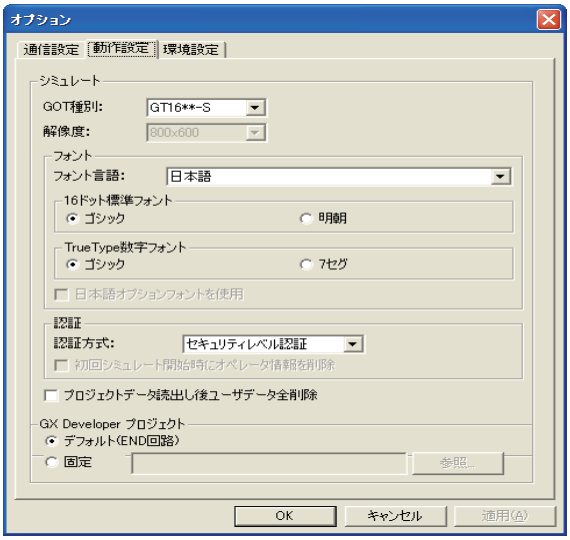


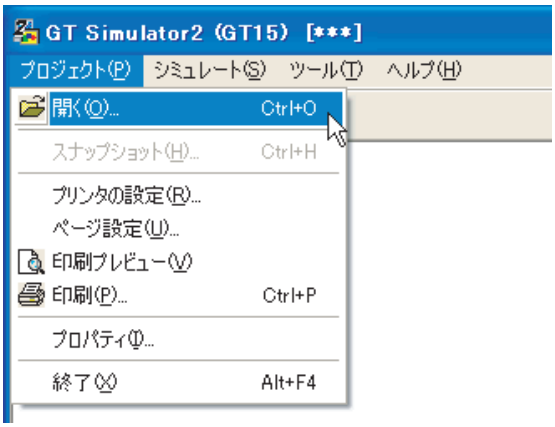
3 オプションを設定します。
通信設定タブをクリックし，下記の内容を設定します。

設定内容
「接続方法」:「GX Simulator」
:「MELSEC-Q」

（次のページへつづく）

（前ページから）





（次のページへつづく）

4 動作設定タブをクリックし，下記の内容を設定します。

設定後，OK ボタンをクリックしてください。

設定内容

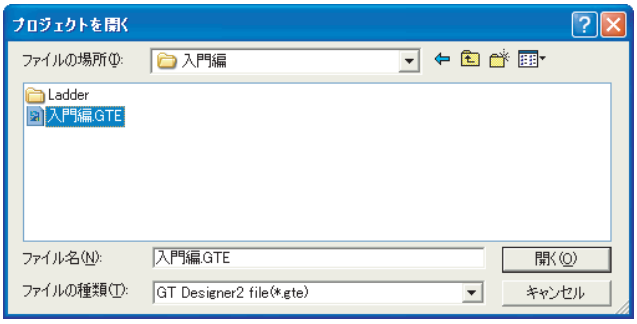
「GOT 種別」　：「GT15**-V」
「フォント言語」：「日本語」
「16 ドット標準フォント」
　　：「ゴシック」
「TrueType 数字フォント」
　　：「ゴシック」
「認証方式」　：「セキュリティレベル認証」
「プロジェクトデータ読出し後
「かな漢字変換」：「通常版」
ユーザデータ全削除」
　　：チェックなし
「GX Developer プロジェクト」
　　：「デフォルト（END 回路）」

シミュレートの開始

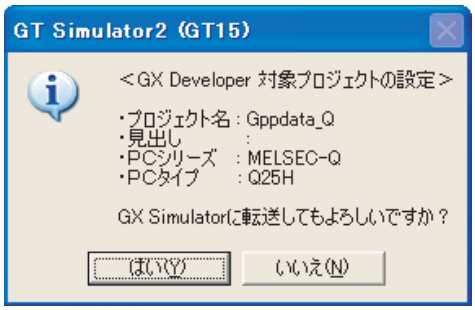
5 【プロジェクト】→【開く】メニューを選択します。

（前ページから）

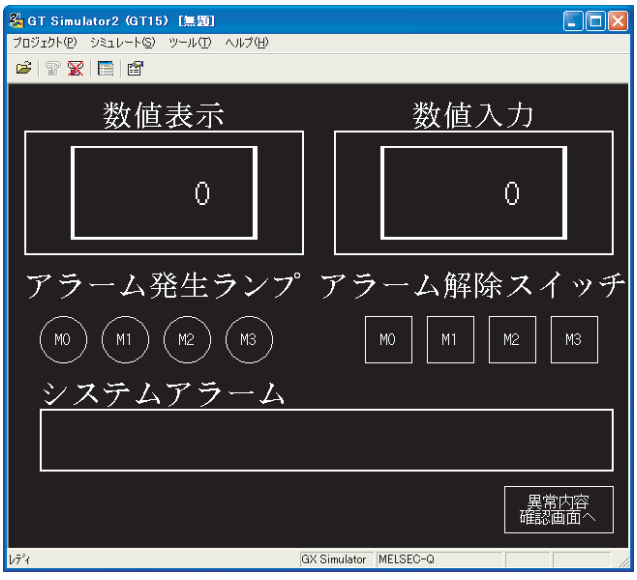
3



6 GT Simulator2 に読出すサンプルプロジェクトデータを選択します。
GOT1000 シリーズ用のサンプルプロジェクトデータ (入門編 .GTE) は，下記のフォルダに格納されています。
＜フォルダ＞
（インストール先フォルダ＊1）
\GTD2\Example1000\ 入門編
＜ファイル名＞
入門編 .GTE
選択後, 開く ボタンをクリックしてください。
＊1 デフォルトは “C:\Program Files\MELSOFT” です。



7 左記の画面が表示されます。
はい ボタンをクリックしてください。

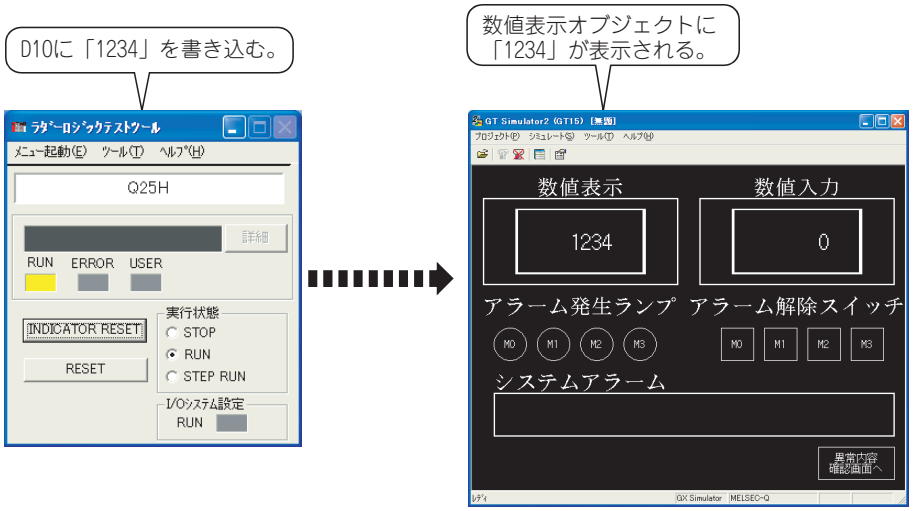


8 読出し完了後，サンプルプロジェクトデータが表示され，シミュレートが開始されます。

2 デバッグを行う

(1) 操作概要

GX Simulator のデバイスメモリに値を書込み，GT Simulator2 に正しく表示できるか確認します。



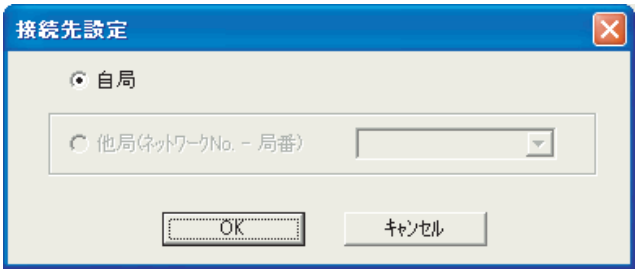
備　考

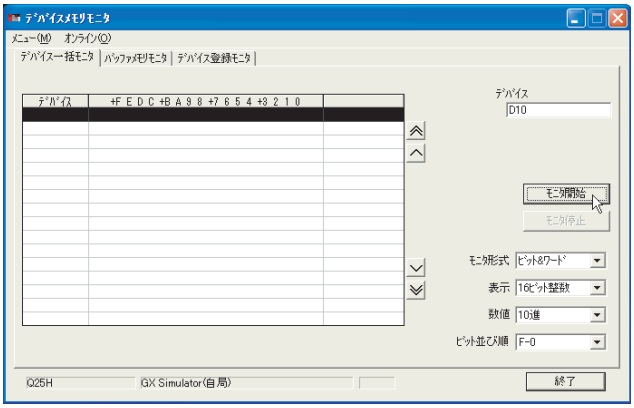
GX Simulator について

本項では，GX Simulator Version 7.03D を使用し，説明を行います。
（GX Simulator のバージョンにより，画面，メニュー項目などが異なります。）

(2) 操作手順







（次のページへつづく）

デバイスメモリモニタの起動

1 GX Simulator の【メニュー起動】→【モニタ機能】→【デバイスメモリモニタ】メニューを選択します。

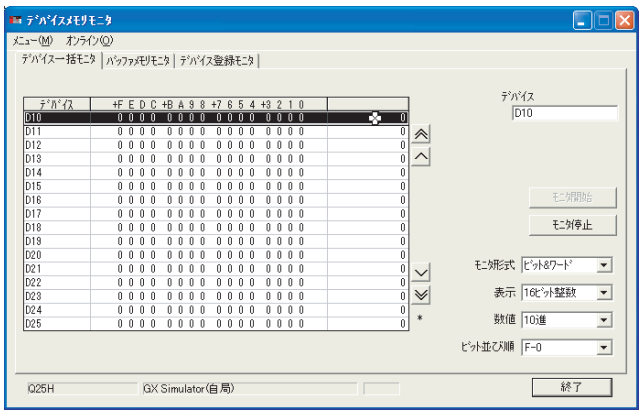
接続先の決定

2 接続先設定ダイアログボックスが表示されます。
「自局」を選択し，OK ボタンをクリックしてください。

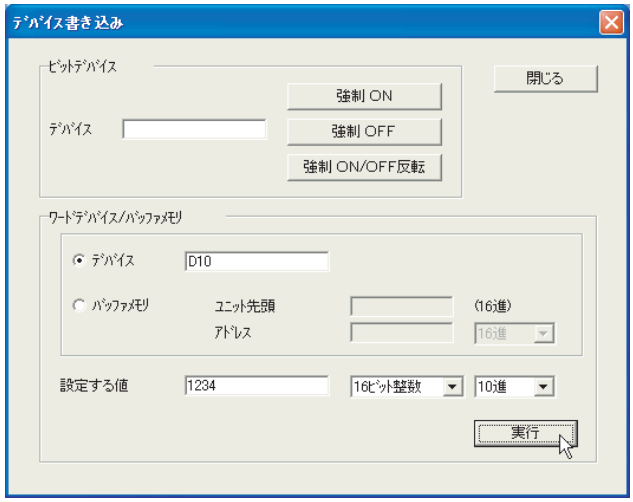
デバイス値の入力

3 デバイスメモリモニタダイアログボックスが表示されます。
デバイス一括モニタタブを選択してください。
「デバイス」に「D10」を入力後，モニタ開始 ボタンをクリックしてください。

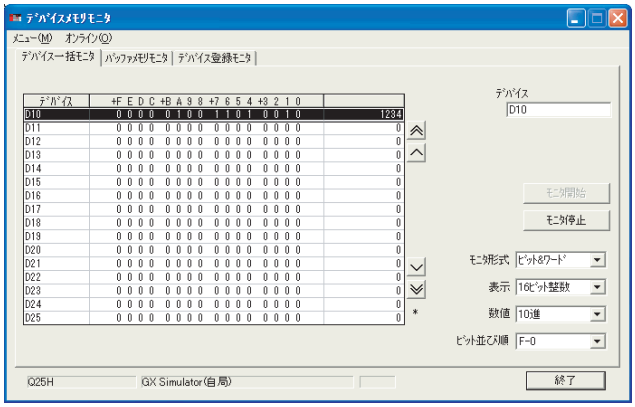
（前ページから）



4 3の操作後，デバイスのモニタが開始されます。
「デバイス」が「D10」の欄をダブルクリックしてください。



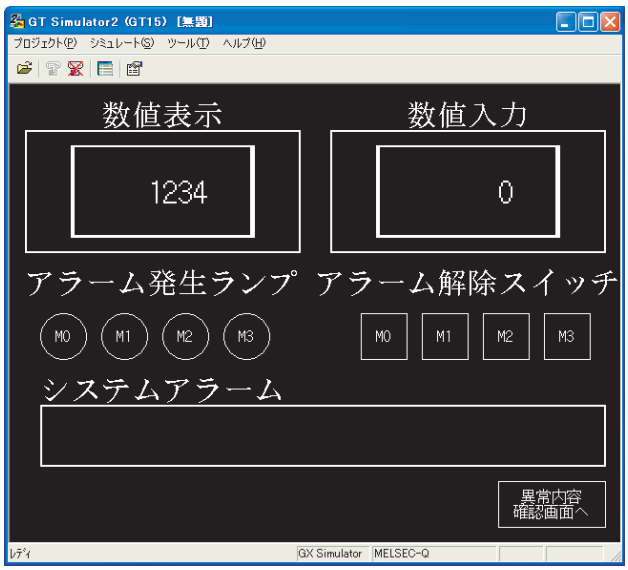
5 デバイス書き込みダイアログボックスが表示されます。
「設定する値」に「1234」を入力し，実行ボタンをクリックしてください。



6 5の操作後，GX Simulator の D10 に値 (1234) が書き込まれます。

（次のページへつづく）

（前ページから）



GT Simulator2の表示の確認

7 5の操作後，GT Simulator2 の数値表示オブジェクトには，「1234」が表示されます。

備　考

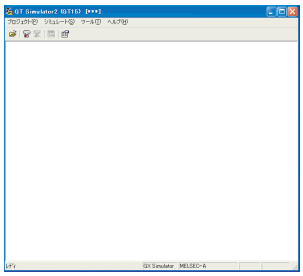
GT Simulator2 からのデバイス値の変更

GT Simulator2 のデバイスモニタを使用し，シミュレート中のデバイス値を変更することも可能です。
デバイスモニタの詳細については，下記を参照してください。

☞ 7 章 デバイスモニタ

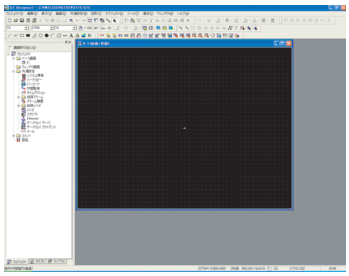
付２ 使用するプロジェクトデータについて

GT Simulator2 は GT Designer2 と同じバージョンを使用してください。
GT Simulator2 と GT Designer2 のバージョンが異なる場合は，同じバージョンをインストールしてください。



GT Simulator2のバージョン

＝



GT Designer2のバージョン

Hint!

使用する GT Simulator2 より古いバージョンの GT Designer2 で作成したプロジェクトデータを使用する場合

使用する GT Simulator2 より古いバージョンの GT Designer2 で作成したプロジェクトデータを使用する場合は，GT Simulator2 と同じバージョンの GT Designer2 でプロジェクトデータを開きなおし，保存してください。

SW3D5C-GOTR-PACK 以前の GT Designer，または GT Converter で変換したプロジェクトデータを使用する場合の注意事項については，下記を参照してください。

☞ 3.3.1 項 GT Simulator2 を使用時の注意事項

付 3 GT Simulator2 のバージョンアップによる追加機能一覧

Point

GT Simulator2 のバージョンアップについて

GT Simulator2 は，GT Designer2 のバージョンアップ（共通設定／オブジェクト機能，GOT 本体機能など）にも対応しています。
GT Designer2 のバージョンアップについては，下記のマニュアルを参照してください。

・GOT1000（GT16/GT15/GT11）シリーズの場合

☞ GT Designer2 Version □画面設計マニュアル

・GOT-A900 シリーズの場合

☞ GT Designer2 Version □リファレンスマニュアル

1 追加された機能

GT Simulator2 Version 2 で追加された機能を下記に示します。

項　目	内　容	GT Simulator2 のバージョン
GOT1000 シリーズ（GT15）	GT15 のプロジェクトデータがシミュレート可能	2.07H
GOT1000 シリーズ（GT11）	GT11 のプロジェクトデータがシミュレート可能	2.15R
GOT1000 シリーズ（GT15**-X）	GT15**-X のプロジェクトデータがシミュレート可能	
GOT1000 シリーズ	接続機器に MELDAS C6* を追加	
GOT1000 シリーズ（GT15）	オブジェクトスクリプトエラー情報の表示	
GOT1000 シリーズ（GT15**-X）	全画面表示機能の追加	2.25B
GOT1000 シリーズ	フォント言語の指定が可能	
GOT1000 シリーズ（GT15**-Q）	GT15**-Q のプロジェクトデータがシミュレート可能	2.30G
GOT1000 シリーズ	ハードコピー（ファイル保存）のデータ保存先を，GT Designer2 で設定したフォルダに保存	2.40S
GOT1000 シリーズ（GT155*-V）	GT155*-V のプロジェクトデータがシミュレート可能	2.55H
GOT1000 シリーズ	動作設定に，認証方式に関する設定の追加	
GOT1000 シリーズ（GT16）	GT16 のプロジェクトデータがシミュレート可能	2.87R
GOT1000 シリーズ	接続機器に下記のシーケンサ CPU を追加 Q00UJCPU，Q00UCPU，Q01UCPU，Q02UCPU，Q03UDCPU， Q04UDHCPU，Q06UDHCPU，Q10UDHCPU，Q13UDHCPU，Q20UDHCPU，Q26UDHCPU， Q03UDECPU，Q04UDEHCPU，Q06UDEHCPU，Q10UDEHCPU， Q13UDEHCPU，Q20UDEHCPU，Q26UDEHCPU	2.93X
GOT1000 シリーズ（GT16）	GT16**-V のプロジェクトデータがシミュレート可能	

索　引

[G]

GT Designer2 形式ファイルを開く ……4-4,5-17
GX Simulator ……2-4

[い]

印刷 ……6-2

[え]

エラーメッセージ
　GOT1000（GT16/GT15/GT11）シミュレータ ……8-2
　GOT-A900 シリーズシミュレータ ……8-7

[お]

オブジェクトスクリプトエラー ……6-8
オプション ……4-4,5-4

[か]

開始 ……4-4,5-15
画面構成 ……4-1
環境設定
　GOT1000（GT16/GT15/GT11）シミュレータ ……5-9
　GOT-A900 シリーズシミュレータ ……5-14

[き]

起動 ……5-3
機能 ……6-1
基本操作 ……4-2

[け]

ケーブル ……2-9

[し]

システムアラーム ……6-6
システム構成
　GT Simulator2 インストール時 ……2-1
　GT Simulator2 実行時 ……2-2
シミュレートできる GOT ……3-1
シミュレートできるデバイス範囲
　GX Simulator と接続時 ……3-19
　シーケンサ CPU と接続時 ……3-18
シミュレートを実行する ……5-15
終了 ……4-4,5-24
仕様 ……3-1
使用するプロジェクトデータについて ……付 -9
使用例 ……付 -1

[す]

スクリプトエラー ……6-7
スナップショット ……6-1

[せ]

接続形態 ……2-7
全画面表示 ……6-9

[そ]

操作 ……5-23
操作手順
　GX Simulator と接続する場合 ……5-1
　シーケンサ CPU と接続する場合 ……5-2

[ち]

注意事項
　GT Simulator2 使用時の注意事項 ……3-10
　GX Simulator 接続時の注意事項 ……3-16
　シーケンサ CPU 接続時の注意事項 ……3-17

[つ]

ツールバー ……4-4
通信設定
　GOT1000（GT16/GT15/GT11）シミュレータ ……5-5
　GOT-A900 シリーズシミュレータ ……5-10

[て]

適応 CPU ……2-5
デバイスモニタ ……7-1
　重ねて表示 ……7-15
　画面構成 ……7-3
　画面の変更 ……7-16
　起動 ……7-10
　機能 ……7-12
　再開 ……7-11
　自由登録 ……7-14
　終了 ……7-11
　種類 ……7-6
　ステータスバー ……7-8
　設定 ……7-17
　ソート ……7-12
　操作方法 ……7-9
　注意事項 ……7-2
　ツールバー ……7-5
　停止 ……7-11
　デバイス削除 ……7-14
　デバイス値テスト ……7-13
　デバイス登録 ……7-14
　動作環境 ……2-3
　並べて表示 ……7-15
　メニューバー ……7-4

[と]

動作設定
　GOT1000（GT16/GT15/GT11）シミュレータ ……5-7
　GOT-A900 シリーズシミュレータ ……5-12

トラブルシューティング ·····8-1

[は]
ハードディスクの空き容量 ·····2-3
パソコン ·····2-3

[ふ]
フォント言語 ·····5-7
プロパティ ·····6-5

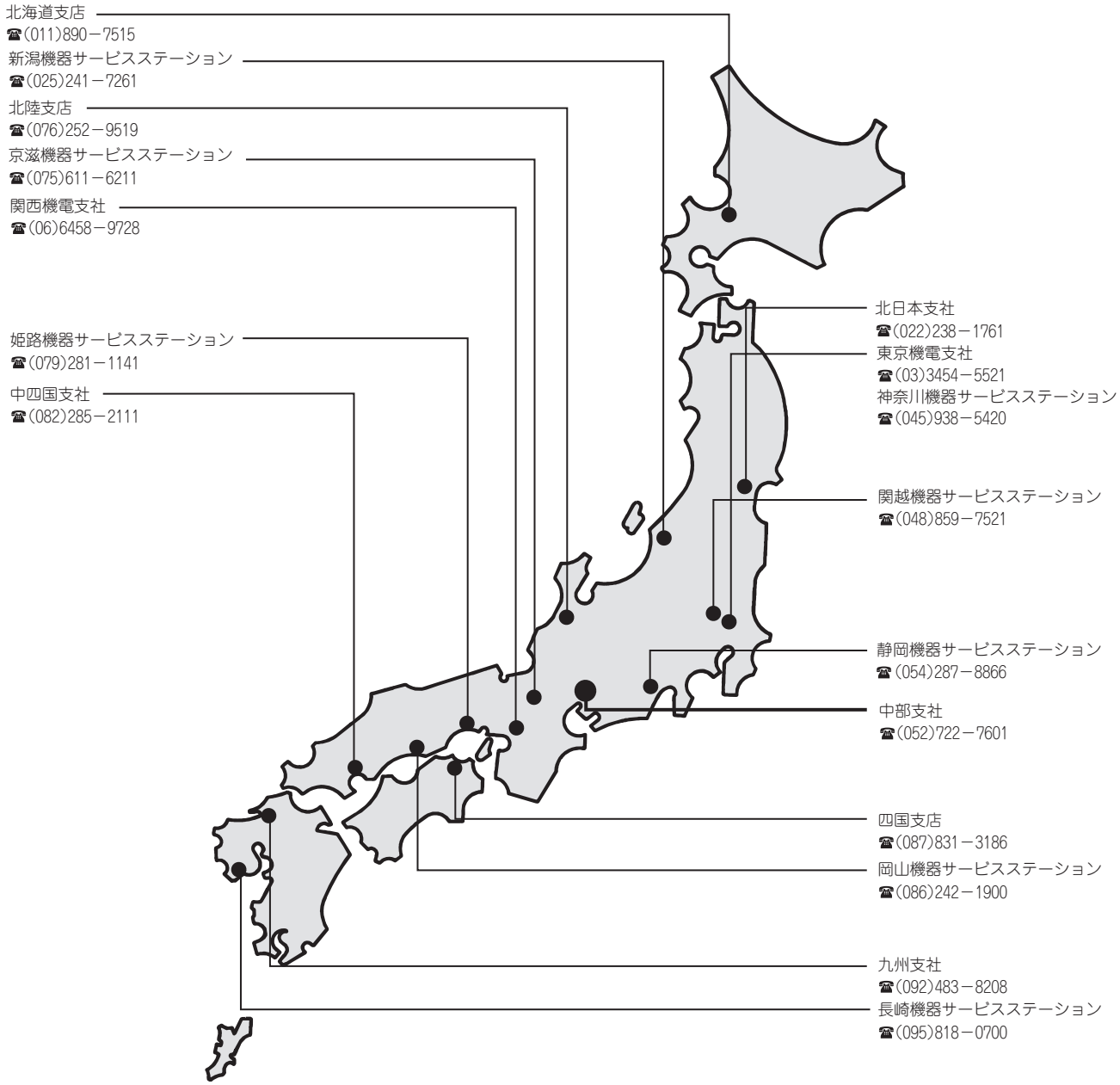
[へ]
ヘルプの使い方 ·····4-5
変換器 ····· 2-11

[め]
メインメニュー ·····5-3
メニューバー ·····4-3

[も]
モニタデータの読出し ····· 5-19

[り]
略称，総称 ····· A-10

サービスネットワーク（三菱電機システムサービス(株)）



Microsoft，Windows，Windows NT，Windows Vista は，米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
Adobe，Adobe Reader は，Adobe Systems Incorporated の登録商標です。
Pentium，Celeron は，Intel Corporation の米国およびその他の各国における商標および登録商標です。
Ethernet は，米国 Xerox.co.ltd の登録商標です。
MODBUS は，Schneider Electric SA の登録商標です。
PC-9800，PC98-NX は，日本電気株式会社の登録商標です。
その他，本文中における会社名，商品名は，各社の商標または登録商標です。

SH(名)-080543-Q

Integrated FA Software

GT Simulator2

Version 2

操作マニュアル

三菱電機株式会社 〒100-8310 東京都千代田区丸の内2-7-3(東京ビル)

お問い合わせは下記へどうぞ

本社機器営業部 …… 〒100-8310 東京都千代田区丸の内2-7-3(東京ビル) …… (03)3218-6760
北海道支社 …… 〒060-8693 札幌市中央区北二条西4-1(北海道ビル) …… (011)212-3794
東北支社 …… 〒980-0011 仙台市青葉区上杉1-17-7(仙台上杉ビル)…… (022)216-4546
関越支社 …… 〒330-6034 さいたま市中央区新都心11-2(明治安田生命さいたま新都心ビル ランド・アクシス・タワー) … (048)600-5835
新潟支店 …… 〒950-8504 新潟市中央区東大通2-4-10(日本生命ビル)…… (025)241-7227
神奈川支社 …… 〒220-8118 横浜市西区みなとみらい2-2-1(横浜ランドマークタワー)…… (045)224-2624
北陸支社 …… 〒920-0031 金沢市広岡3-1-1(金沢パークビル)…… (076)233-5502
中部支社 …… 〒450-8522 名古屋市中村区名駅3-28-12(大名古屋ビル) …… (052)565-3314
豊田支店 …… 〒471-0034 豊田市小坂本町1-5-10(矢作豊田ビル) …… (0565)34-4112
関西支社 …… 〒530-8206 大阪市北区堂島2-2-2(近鉄堂島ビル) …… (06)6347-2882
中国支社 …… 〒730-8657 広島市中区中町7-32(ニッセイ広島ビル) …… (082)248-5445
四国支社 …… 〒760-8654 高松市寿町1-1-8(日本生命高松駅前ビル) …… (087)825-0055
九州支社 …… 〒810-8686 福岡市中央区天神2-12-1(天神ビル) …… (092)721-2247

インターネットによる三菱電機FA機器技術情報サービス

MELFANSwebホームページ:http://www.MitsubishiElectric.co.jp/melfansweb
MELFANSwebのFAランドでは、体験版ソフトウェアやソフトウェアアップデートのダウンロードサービス、MELSECシリーズのオンラインマニュアル、Q&Aサービス等がご利用いただけます。FAランドのID登録(無料)が必要です。

電話技術相談窓口

対象機種		電話番号	受付時間※1
GOT表示器	GOT1000/A900シリーズなど	052-712-2417	月曜～金曜 9:00～19:00
	MELSOFT GTシリーズ		
FGOT/DU表示器	GOT-F900シリーズなど	052-725-2271	月曜～木曜 9:00～19:00 金曜 9:00～17:00
MELSEC-FX/F	Fシーケンサ全般		
MELSEC-Q/L/QnA/A シーケンサ	シーケンサー般(下記以外)	052-711-5111	月曜～金曜 9:00～19:00
	ネットワーク、シリアルコミュニケーションユニット	052-712-2578	
	位置決めユニット ※2	052-712-6607	
	アナログ、温調、温度入力、高速カウンタユニット	052-712-2579	
	C言語コントローラ/MESインタフェースユニット/高速データロガーユニット	052-712-2370	月曜～木曜 9:00～19:00 金曜 9:00～17:00
MELSOFTシーケンサプログラミングツール	MELSOFT iQ Works (Navigator)	052-711-0037	月曜～金曜 9:00～19:00
	MELSOFT GXシリーズ		
	SW□IVD-GPPA/GPPQなど		
MELSOFT通信支援ソフトウェアツール	MELSOFT MXシリーズ	052-712-2370	月曜～木曜 9:00～19:00 金曜 9:00～17:00
	SW□D5F-CSKP/OLEX/XMOPなど		
MELSECパソコンボード	Q80BDシリーズなど		
MELSEC計装/Q二重化	プロセスCPU	052-712-2830	
	二重化CPU		
	MELSOFT PXシリーズ		
MELSEC Safety	安全シーケンサ/安全コントローラ	052-712-3079	
ACサーボ	MELSERVOシリーズ	052-712-6607	月曜～金曜 9:00～19:00
モーションコントローラ	モーションCPU(Q/Aシリーズ)		
	MELSOFT MTシリーズなど		
インバータ	FREQROLシリーズ	052-722-2182	

FAX技術相談窓口

MELFANSwebまたは、H@ISEIwebのQ&Aもご利用ください。
なお、お急ぎの場合は、お手数ですが、上記電話技術相談窓口までご相談ください。

対象機種	FAX番号	受付時間※1
上記対象機種	052-719-6762	9:00～16:00(受信は常時※3)

※1: 土・日・祝祭日、春期・夏期・年末年始の休日を除く通常業務日
※2: ACサーボ、モーション窓口にて対応します
※3: 春期・夏期・年末年始の休日を除く

形名	SW2-GTSIM2-O
形名コード	1D7M37
SH(名)-080543-Q(1009)MEE	

本マニュアルは、輸出する場合、経済産業省への役務取引許可申請は不要です。

この印刷物は2010年9月の発行です。なお, お断りなしに仕様を変更することがありますのでご了承ください。

この標準価格には消費税は含まれておりません。ご購入の際には消費税が付加されますのでご承知おき願います。

2010年9月作成

標準価格 3,000円